

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	アジア史						
担当教員	川上 恭司						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	中国人物志						
授業の概要	様々の理由から歴史を重視する中国、その歴史の流れを多面的にとらえるため時代を表徴する異なるタイプの人物をとり上げ、エピソードを交えつつわかりやすく概説していきます。						
到達目標	過去現在そして未来と日本と密接な関わりを持ち続ける中国 その相互理解の一助となることを期したい。						
授業計画	第1回 中国人物志 原始編 1 第2回 中国人物志 原始編 2 第3回 中国人物志 原始編 3 第4回 中国人物志 古代編 1 第5回 中国人物志 古代編 2 第6回 中国人物志 古代編 3 第7回 中国人物志 中世編 1 第8回 中国人物志 中世編 2 第9回 中国人物志 中世編 3 第10回 中国人物志 近世編 1 第11回 中国人物志 近世編 2 第12回 中国人物志 近世編 3 第13回 中国人物志 近代編 1 第14回 中国人物志 近代編 2 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	大まかな中国史の流れをつかむため概説書を読んでおいてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験中心						
教科書	なし						
参考書	授業時に随時提示						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	インターンシップ						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	将来のキャリアに関連した就業体験						
授業の概要	企業実習に行く前の事前教育では、まずインターンシップとは何かを理解する。次に仕事への取り組み、ビジネス・マナーなど、心の準備と目的を的確にさせ、実習の効果を高めるようにする。企業での実習体験を通して、社会人として必要な資質を学び、将来自分が何をやりたいのか、それをどう実現するのかを学生が主体的に考え、取り組めるようにサポートする。また自分の将来に必要な仕事へ積極的にチャレンジできるようサポートする。						
到達目標	就業体験を通じて、将来の自立と学生時代の過ごし方を含めた自分のキャリアを主体的に考え実行できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスインターンシップについてⅠ：日本の状況 2. ビジネスインターンシップについてⅡ：海外の状況 3. 業種についてⅠ 4. 職種についてⅡ 5. 会社の仕組みⅠ 6. 会社の仕組みⅡ 7. ビジネスマナーⅠ 8. ビジネスマナーⅡ 9. 電話のマナー 10. 受付のマナー 11. 訪問のマナー 12. 実習先企業について調べてみる 13. 企業調査 14. プレゼンテーションⅠ：調べて企業について発表 15. プレゼンテーションⅡ 16. 実習先のマッチングⅠ 17. 実習先のマッチングⅡ 18. ビジネス文書Ⅰ（受入れのお願い） 19. ビジネス文書Ⅱ 20. 挨拶 21. 実習Ⅰ 22. 実習Ⅱ 23. 実習Ⅲ 24. 実習Ⅳ 25. 実習Ⅴ 26. 実習Ⅵ 27. お礼状の書き方 28. 報告 29. プレゼンテーション 30. 総括 						
授業外における学習（準備学習の内容）	ウェブ・新聞などで、常に社会の動きを見る。 一般常識、マナーなどの知識を深める。						
授業方法	企業・団体の職場で就業体験を行う。						
評価基準と評価方法	事前レポート（20%）、事後レポート（20%）、実習先の評価（60%）で総合的に判断する。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽実技IA						
担当教員	上野 静江						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（入門）						
授業の概要	チャペルにある大オルガンをを用いてのパイプオルガン演奏実技入門。 パイプオルガンを弾くための基礎的な奏法からはじめ、讃美歌、また讃美歌の旋律を用いた平易なペダル付きの小品までを取り上げます。						
到達目標	パイプオルガンの構造と演奏に関する基本的な知識、および初歩的な演奏技術の習得を目標とします。同時に楽曲に対する知的理解と音楽的センスを、練習によってバランスよく練り上げひとつの演奏に仕上げる、このプロセスを通して、集中力および客観的なものの見方を養います。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション *松蔭のオルガンについて、また授業の進め方や練習方法等について説明。</p> <p>第2回 パイプオルガンについての基礎的知識 *オルガンの内部を見学しながら、その仕組みや構造、またいろいろなパイプの種類、音色の組み合わせを学ぶ。</p> <p>第3回 オルガン奏法の基礎（1） 第4回 オルガン奏法の基礎（2） 第5回 オルガン奏法の基礎（3） 第6回 オルガン奏法の基礎（4）</p> <p>第7回 簡単なコラール前奏曲を弾いてみる（1） 第8回 簡単なコラール前奏曲を弾いてみる（2）</p> <p>第9回 讃美歌を弾いてみる（1） 第10回 讃美歌を弾いてみる（2）</p> <p>第11回 松蔭のオルガンの特徴ある響きを知る</p> <p>第12回 クラス内発表会の準備（1） 第13回 クラス内発表会の準備（2） 第14回 クラス内発表会の準備（3）</p> <p>第15回 クラス内発表会とその講評 *前期中に取り組んだ曲の中から讃美歌と前奏曲を1曲ずつ選び、クラス内で公開演奏する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	履修者には学内の練習用オルガンで、週1時間の個人練習が許されている。学内でのこういった機会をうまく活用し、各自が学内外の楽器で十分に練習した上で、授業にのぞむこと。						
授業方法	実技（グルーブレッスン形式）						
評価基準と評価方法	平常点、レポートおよびクラス内発表会（試験を兼ねる）を総合的に評価。（平常点60%、レポート10%、学期末試験30%）						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。						
参考書	「クラヴィス」大塚直哉編						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽実技IB						
担当教員	上野 静江						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（初級）						
授業の概要	チャペルにある大オルガンをを用いての基礎的なパイプオルガン演奏実技。課題曲としては、ベーム、フィッシャー、J. S. バッハなど、主にドイツバロックの平易な作品を取り上げます。各人の進度に合わせて取り組む課題（楽曲）を決め、仕上げていく中で、前期に学んだ基礎的技術を自分のものとしていきます。						
到達目標	パイプオルガンの構造と演奏に関する基本的な知識、および初歩的な演奏技術の習得を目標とします。同時に楽曲に対する知的理解と音楽的センスを、練習によってバランスよく練り上げひとつの演奏に仕上げる、このプロセスを通して、集中力および客観的なものの見方を養います。						
授業計画	<p>第1回【課題曲選曲】 内容：初回授業において、後期に取り上げる楽曲の紹介をし、各人に相応しい曲を決める。課題曲については前期最後の授業で配布する予定なので、夏休み中にあらかじめ見ておくこと。 課題例：フィッシャー、パツヘルベル、シャイデマン、J. S. バッハ等、ドイツバロックの平易な作品。</p> <p>第2回【基礎練習の復習】 内容：前期に取り上げたオルガン基礎練習課題、さらに新しい基礎練習曲を用い、もう一度基礎的なオルガンへのアプローチの仕方を確認する。 テキスト：“ A guide to duo and trio playing ” J. V. Oortmerssen</p> <p>第3回【コラール前奏曲】その1 コラールまたは詩編歌をもとに作曲された平易な曲を取り上げ、もともになった讃美歌とともにコラール編曲の歴史の一端を学ぶ。 楽曲、歌詞に相応しい様々な種類のパイプを選び、いろいろな音色の可能性を楽しむ。</p> <p>第4回【コラール前奏曲】その2 課題曲：J. C. バッハ “ Nun lob mein Seel den Herrn” など</p> <p>第5回【コラール前奏曲】その3 課題曲：J. S. バッハ “ Liebster Jesu, wir sind hier” など</p> <p>第6回【コラール前奏曲】その4 課題曲：J. P. スウェーリンク 詩編23編 など</p> <p>第7回【チェンバロ】 松蔭のオルガンと同時代のもう一つの代表的な鍵盤楽器、チェンバロに触れてみる。時間の許す限り、通奏低音やアンサンブルにも挑戦する。</p> <p>第8回【プレリュードとフーガ】その1 コラールによらない自由な形式の曲を体験する。 最終的に、ペダル付きの簡単なプレリュード（およびフーガ）を仕上げることを目標とする。</p> <p>第9回【プレリュードとフーガ】その2 課題曲：J. K. F. フィッシャー プレリュードとフーガ</p> <p>第10回【プレリュードとフーガ】その3 課題曲：J. S. バッハ：8つの小プレリュードとフーガより</p> <p>第11回【プレリュードとフーガ】その4 課題曲：J. S. バッハ：8つの小プレリュードとフーガより</p> <p>第12回【クラス内発表会の準備】その1 クラス内発表会（後期試験を兼ねる）に向け、各自の進度に合わせて、後期に取り組んだ楽曲の中から、自由曲1曲と讃美歌1曲を、全体で7分程度でまとめ、準備する。</p> <p>第13回【クラス内発表会の準備】その2 それぞれの楽曲に相応しい音色を考え、ストップ操作を学習する。</p> <p>第14回【クラス内発表会の準備】その3 常に、オルガンの音が会堂全体に響いていることを意識し、自分の演奏を客観的に聴く耳を養い、響きをコントロールし、説得力のある演奏をめざす。</p> <p>第15回【クラス内発表会と講評】 後期のまとめとし、クラス内発表会（後期実技試験を兼ねる）を行う。終了後は、お互いの演奏にコメントしあう時間を持つ。</p>						

授業計画	
授業外における学習（準備学習の内容）	履修者には学内の練習用オルガンで、授業外に週1時間の個人練習が許されている。学内でのこういった機会をうまく活用し、各自が学内外の楽器で十分に練習した上で、授業にのぞむこと。
授業方法	実技（グルーブレッスン形式）
評価基準と評価方法	平常点およびクラス内発表会（試験を兼ねる）を総合的に評価。 （平常点70%、学期末試験30%）
教科書	随時プリントを配布。
参考書	「クラヴィス」大塚直哉編

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽実技IIA						
担当教員	上野 静江						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾こう（中級）						
授業の概要	音楽実技IA・IBで得た基礎をもとに、さらに本格的なパイプオルガン演奏の実習を行います。本学のチャペルのオルガンの特性を活かして、バロック時代の聖歌、コラールおよび詩編歌に基づくオルガン作品を主なレパートリーとします。具体的な課題曲については、受講生に応じて、個別に決定します。（受講生の様子を見て、内容を変更する場合もあり得ます。）また讃美歌の伴奏についても取り上げます。						
到達目標	タッチ、アーティキュレーション、ペダル奏法、レジストレーションといったオルガン演奏の基礎的技法をさらに磨きながら、この時代のいろいろな作品の様式を知り、様々な表現ができるように、またクラス内発表会等の機会を通じて公開演奏の経験を積み、より客観的な説得力のある演奏をめざします。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、注意事項ほか）</p> <p>第2回 フランス古典（1） 第3回 フランス古典（2） 第4回 フランス古典（3） 第5回 フランス古典（4）</p> <p>*F.クーブランなどフランス古典期の作品を通して、タッチ、アーティキュレーション、ペダル奏法、レジストレーション等、様々な角度から本学のフランス古典様式のオルガンに対するアプローチの方法を探りつつ、確かな基礎的事項を実習する。もともとなったグレゴリオ聖歌についても取り上げる。</p> <p>第6回 コラールおよび詩編歌に基づく作品（1） 第7回 コラールおよび詩編歌に基づく作品（2） 第8回 コラールおよび詩編歌に基づく作品（3） 第9回 コラールおよび詩編歌に基づく作品（4）</p> <p>*スウェリク、ベーム、ワルター、J.S.バッハ、クレプスなど17～18世紀のコラールや詩編歌に基づく作品を取り上げる。もともとなったコラールや詩編歌にも触れながら、各自が選んだ楽曲をよりよい演奏に仕上げていくためのプロセスを、技術的な問題、楽曲の解釈等あらゆる側面から探ってゆく。</p> <p>第10回 会衆賛美の伴奏法（1） 第11回 会衆賛美の伴奏法（2）</p> <p>*日本語の聖歌を1曲選び（できれば第6～9回で各自が取り上げたオルガン曲にちなんだものが望ましい）、会衆が歌いやすいテンポ、その聖歌の意味（歌詞の内容）、レジストレーションやペダリングなども模索し、前奏、1節、2節（レジストレーションを変えてみる）など、まずはオーソドックスなスタイルで伴奏できるようにすることをめざす。</p> <p>第12回 発表会に向けての準備（1） 第13回 発表会に向けての準備（2） 第14回 発表会に向けての準備（3）</p> <p>*ここまでの課題が不十分な者はそれを繰り返す。余力のある学生は、各自が選んだ自由作品でレッスンを受けてよい。</p> <p>第15回 発表会（前期実技試験を兼ねる）と講評</p> <p>*前期に取り上げた曲の中から、1～2曲のソロ曲と讃美歌の伴奏を含む8分程度のプログラムを各自で組んで演奏する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	曲が進んでくると、ただひたすら練習するだけではなく、作曲家について、曲の成立や時代背景、また楽譜を丁寧に見ての楽曲分析等、その作品について、あらゆる方面からのアプローチが必要となってきます。自分が演奏する作品について、調べられるだけ調べて授業にのぞんで下さい。またできるだけいろいろな演奏家のよい演奏に数多く触れることもお勧めします。						
授業方法	実技（グループレッスン形式）						
評価基準と評価方法	平常点（60%）および実技試験（40%）による。						

教科書	授業中に指示する
参考書	とくにない

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽実技IIB						
担当教員	上野 静江						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾こう（中級）						
授業の概要	音楽実技IA・IB・IIAで得た基礎をもとに、さらに本格的なパイプオルガン演奏の実習を行います。後期レパートリーとしては、J.S. バッハの「オルガン小曲集」を中心に、讃美歌と関係の深い17~18世紀のオルガン作品、またプレリュード&フーガといった自由なスタイルの作品も取り上げていきます。具体的な課題曲については、受講生に応じて、個別に決定します。（受講生の様子を見て、内容を変更する場合もあり得ます。）						
到達目標	タッチ、アーティキュレーション、ペダル奏法、レジストレーションといったオルガン演奏の基礎的技法をさらに磨きながら、この時代のいろいろな作品の様式を知り、様々な表現ができるように、またクラス内発表会、学生チューデントコンサート等の機会を通じて公開演奏の経験を積み、より客観的な説得力のある演奏をめざします。						
授業計画	<p>第1回【讃美歌に基づく小品】その1 課題曲：J.P. スウェーリンク “Allein Gott”（1） 内容：まず手鍵盤のみで弾ける讃美歌に基づく小品を用い、オルガン奏法の基礎を学ぶ。手の指に集中し、確かなタッチ、アーティキュレーションを身につけ、よい音を聴き分ける耳を作る。</p> <p>第2回【讃美歌に基づく小品】その2 課題曲：J. クレープス “Jesu, meine Freude”（2） 内容：もとのコーラルを実際に歌ってみながら、よりよい表現方法を探る。</p> <p>第3回【讃美歌に基づく小品】その3 課題曲：G. ベーム “Jesu, du bist allzu schön”（3） 内容：コーラルに基づくある程度まとまった作品として、コーラル変奏曲に取り組み。節ごとのキャラクターを活かした演奏方法、レジストレーションを模索し、より魅力的な演奏に仕上げる。</p> <p>第4回【オルガン奏法基礎の復習】 課題曲：JV0のエチュードNo. 3以降各自の進度によって 内容：姿勢、リリースのコントロール、アーティキュレーション、フレージング、ペダリングなどオルガン奏法の基礎を学ぶ。</p> <p>第5回【装飾コーラルを弾く】その1 課題曲：J.S. バッハ “Wer nur den lieben Gott” BWV 691（4） 内容：手鍵盤のみで弾けるバッハのコーラルを取り上げ、元の旋律と歌詞の意味を確認し、また細かい装飾音符の中に隠された音のグループや息継ぎの場所を見つけ出し、「指で歌う」技術を習得する。また、ソロと伴奏声部からなるコーラルを弾くにふさわしいレジストレーションをいくつか体験する。</p> <p>第6回【装飾コーラルを弾く】その2 課題曲：J.S. バッハ “Wer nur den lieben Gott” BWV 691の続き またはJ.S. バッハ “Liebster Jesu, wir sind hier” BWV 731（5）</p> <p>第7回【讃美歌に基づく作品・オルガン小曲集】その1 課題曲：J.S. バッハの「オルガン小曲集」（6）より任意の1曲 内容：ペダルつきのオルガンコーラルに取り組み。オルガニストの讃美歌ともいえるべき「オルガン小曲集」を取り上げ、歌詞の内容や作品の構造をよく見て、ふさわしい演奏方法を研究する。あわせてもとになった讃美歌を歌いながら、それがオルガン曲の中にどのように反映されているかにも注目する。</p> <p>第8回【讃美歌に基づく作品・オルガン小曲集】その2 課題曲：バッハの「オルガン小曲集」より任意の1曲 内容：続き</p> <p>第9回【讃美歌に基づく作品・オルガン小曲集】その3 課題曲：バッハの「オルガン小曲集」より任意の1曲 内容：続き</p> <p>第10回【讃美歌に基づく作品・オルガン小曲集】その4 課題曲：バッハの「オルガン小曲集」より任意の1曲 内容：続き</p> <p>第11回【会衆賛美の伴奏】その1 内容：日本語の讃美歌を1曲選び（できれば各自が演奏するオルガン曲の基になった讃美歌が望ましい）、前奏、1番、2番（レジストレーションを変えてみる）後期はなるべくペダルも使い、歌詞の内容を反映できるように伴奏を心がける。歌いやすいテンポ、その讃美歌の性格、内容、レジストレーションやペダリングなどについても注目する。</p> <p>第12回【会衆賛美の伴奏】その2</p>						

授業計画	<p>その1の続き</p> <p>第13回【復習と自由曲】その1 ここまでの課題が不十分なものはそれを繰り返す。 余裕のある学生は、下記にあげたようなJ.S.バッハ、パッヘルベルなどバロック時代の作曲家による作品の中から各自の興味に合わせて1曲選び、取り組む。 【オルガン小曲集以外のペダル付きコラール作品】 D. ブクステフーデ コラール作品（ペダル付き） シャイデマン コラール作品 等 【コラールによらない自由なスタイルの楽曲】 J.S. バッハ トッカータ パッヘルベル トッカータ D. ブクステフーデ プレリユード・フーガ 等</p> <p>第14回【復習と自由曲】その2 続き</p> <p>第15回【実技試験とその講評】 各自A)とB)を組み合わせて8分以内のプログラムを組む。 A) 会衆賛美の伴奏(前奏+2番まで) B) 前期に取り組んだもののうちから1〜2曲を仕上げて弾く。</p>
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>曲が進んでくると、ただひたすら練習するだけではなく、作曲家について、曲の成立や時代背景、また楽譜を丁寧に見ての楽曲分析等、その作品について、あらゆる方面からのアプローチが必要となってきます。自分が演奏する作品について、調べられるだけ調べて授業にのぞんで下さい。またできるだけいろいろな演奏家のよい演奏に数多く触れることもお勧めします。</p>
授業方法	<p>実技(グルーブレッスン形式)</p>
評価基準と評価方法	<p>平常点(60%)および実技試験(40%)による。</p>
教科書	<p>授業中に指示する</p>
参考書	<p>とくにない</p>

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽入門／（クラシック音楽への誘い）						
担当教員	黒坂 俊昭						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を知る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていません。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるでしょう。それではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのでしょうか。問題はそれほど単純ではありません。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも聴く能力が要求されているのです。毎回の授業でさまざまな名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていきます。						
到達目標	クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになります。						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 合奏協奏曲の流行：J.S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 第3回 聖書に基づいた音楽：J.S. バッハの《マタイ受難曲》 第4回 独奏協奏曲の誕生：A. ヴィヴァルディの《協奏曲集「四季」》 第5回 特権階級の音楽：W.A. モーツァルトの《交響曲 第40番》 第6回 死者のためのミサ曲：W.A. モーツァルトの《レクイエム》 第7回 市民社会の理想の音楽：L. van ベートーヴェンの《交響曲 第5番「運命」》 第8回 芸術音楽の市民社会への広がり：F. シューベルトの《さすらい人幻想曲》 第9回 キャラクター・ピースの流行：F. リストの《愛の夢 第3番》 第10回 市民の貴族社会への憧れ：G. ヴェルディの《オペラ「椿姫」》 第11回 ショパンのロマン主義：F. ショパンの《ポロネーズ 第6番「英雄」》 第12回 標題音楽への志向：H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 第13回 国民楽派の音楽：P.I. チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 第14回 ロマン主義音楽の名残り：S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 第15回 ヨーロッパ芸術音楽（クラシック音楽）の特徴、まとめ、復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	一つの授業から次の授業にかけての1週間に、少なくとも1曲のクラシック音楽を鑑賞してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験100%（満点100点） 但し、授業（第2回～第14回）の欠席1回につき3点、試験の得点から減点します。						
教科書	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書	必要な場合、適宜指示します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽入門／（クラシック音楽への誘い）						
担当教員	黒坂 俊昭						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を知る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていません。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるでしょう。それではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのでしょうか。問題はそれほど単純ではありません。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも聴く能力が要求されているのです。毎回の授業でさまざまな名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていきます。						
到達目標	クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになります。						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 合奏協奏曲の流行：J.S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 第3回 聖書に基づいた音楽：J.S. バッハの《マタイ受難曲》 第4回 独奏協奏曲の誕生：A. ヴィヴァルディの《協奏曲集「四季」》 第5回 特権階級の音楽：W.A. モーツァルトの《交響曲 第40番》 第6回 死者のためのミサ曲：W.A. モーツァルトの《レクイエム》 第7回 市民社会の理想の音楽：L. van ベートーヴェンの《交響曲 第5番「運命」》 第8回 芸術音楽の市民社会への広がり：F. シューベルトの《さすらい人幻想曲》 第9回 キャラクター・ピースの流行：F. リストの《愛の夢 第3番》 第10回 市民の貴族社会への憧れ：G. ヴェルディの《オペラ「椿姫」》 第11回 ショパンのロマン主義：F. ショパンの《ポロネーズ 第6番「英雄」》 第12回 標題音楽への志向：H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 第13回 国民楽派の音楽：P. I. チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 第14回 ロマン主義音楽の名残り：S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 第15回 ヨーロッパ芸術音楽（クラシック音楽）の特徴、まとめ、復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	一つの授業から次の授業にかけての1週間に、少なくとも1曲のクラシック音楽を鑑賞してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験100%（満点100点） 但し、授業（第2回～第14回）の欠席1回につき3点、試験の得点から減点します。						
教科書	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書	必要な場合、適宜指示します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	化学A／化学I						
担当教員	稲垣 明						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	化学入門						
授業の概要	私たちの身の回りにある物すべて、また私たちの身体自体も様々な物質が組み合わさってできている。その物質は無数の原子から組み立てられている。物質が原子によってどのようにつくられているのか（構造）、その構造と物質の性質や変化がどのように関係しているのかを学ぶ。 また、マスメディアで取り上げられている化学（科学）に関係する話題について、授業の中で解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 物質の成り立ちについて理解する。 化学を身近なものとして感じ、原子・分子のレベルで物を見て考えることができる。 						
授業計画	第1回 物質と化学 元素の周期表 第2回 原子の構造 第3回 化学結合（イオン結合 共有結合） 第4回 化学結合（金属結合） 第5回 原子量 分子量 式量 第6回 物質量 第7回 化学反応式 第8回 溶液の濃度 第9回 酸と塩基 第10回 水素イオン濃度とpH 第11回 酸化還元反応 第12回 電池・電気分解 第13回 化学反応と熱 第14回 化学平衡 第15回 水溶液の性質						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：最低限、前時に学んだことを思い起こしておくこと。 授業後学習：授業外にする課題がだされた場合は、必ず次の授業までにしておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験60％程度、平常点（受講態度、小テスト等）40％程度とし、総合的に評価する。科目の性格として知識の習得を重視する。つまり試験で一定の点数をとることが重要である。試験は16回目の授業で行う。						
教科書	松岡雅忠著『まるわかり！基礎化学』（南山堂） ISBN978-4-525-05421-2						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	化学B／化学II						
担当教員	稲垣 明						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	化学入門						
授業の概要	私たちの身の回りにある物すべて、また私たちの身体自体も様々な物質が組み合わさってできている。その物質は無数の原子から組み立てられている。物質が原子によってどのようにつくられているのか（構造）、その構造と物質の性質や変化がどのように関係しているのかを学ぶ。 後期は、有機化合物を中心に扱う。 また、マスメディアで取り上げられている化学（科学）に関係する話題について、授業の中で解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物について、物質の種類と性質を知る。 ・官能基とその反応のパターンを理解する。 ・身の回りの様々な現象を化学的に考えることができる。 						
授業計画	第1回 有機化合物の特徴 第2回 飽和炭化水素 第3回 不飽和炭化水素 第4回 有機化合物命名法と異性体 第5回 脂肪族化合物①（アルコール） 第6回 脂肪族化合物②（カルボン酸とエステル） 第7回 芳香族化合物①（芳香族炭化水素） 第8回 芳香族化合物②（フェノール・カルボン酸・アミン） 第9回 高分子化合物 第10回 アミノ酸とタンパク質 第11回 糖類 核酸 第12回 油脂とセッケン 第13回 無機化合物（炭素・窒素とその化合物） 第14回 無機化合物（硫黄とその化合物・ハロゲン） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：最低限、前時に学んだことを思い起こしておくこと。 授業後学習：授業外にする課題がだされた場合は、必ず次の授業までにしておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験60％程度、平常点（受講態度、小テスト等）40％程度とし、総合的に評価する。科目の性格として知識の習得を重視する。つまり試験で一定の点数をとることが重要である。試験は16回目の授業で行う。						
教科書	松岡雅忠著『まるわかり！基礎化学』（南山堂） ISBN978-4-525-05421-2						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	学習心理学／学習心理学I						
担当教員	吉野 俊彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間を含む動物が、それぞれの環境で適応するための手段として学習がある。経験を通じて行動や考え方を変化させる学習の基礎過程を扱う。						
授業の概要	人間の行動のルーツを考えたとき、その多くが学習過程に依存していること気づく。人間が主体的に環境、とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し、抑制している過程を説明するためには2つの条件づけを理解することが必須である。本講義では、行動分析学に軸足を置きながら、行動のメカニズムを探っていく。						
到達目標	人間の行動様式を支えているものが学習であることを理解する。 2つの条件づけの基礎過程を理解する。 一人ひとりの日常的な行動を行動分析学の視点から見つめられるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：学習について学ぶ 2. 様々な行動と学習との関わり：系統発生と個体発生 3. オペラント条件づけ1：行動とは何か・行動を説明する 4. オペラント条件づけ2：強化(1) 5. オペラント条件づけ3：強化(2) 6. オペラント条件づけ4：消去 7. オペラント条件づけ5：弱化 8. オペラント条件づけ6：阻止の随伴性とルール支配行動 9. パヴロフ型条件づけ1：獲得過程(興奮性条件づけ) 10. パヴロフ型条件づけ1：馴化と鋭敏化 11. パヴロフ型条件づけ2：消去と自然的回復 12. パヴロフ型条件づけ3：情報獲得の基礎過程としてのパヴロフ型条件づけ 13. 学習の応用1：行動分析学と認知・感情 14. 学習の応用2：行動療法・応用行動分析・行動マネジメント 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	合計5回の小テストを行ない、また翌週の授業で扱うテーマについての宿題を評価対象とする。毎時間、宿題を踏まえたワークとディスカッションによって理解を深めるように進めるから、参考書を十分に読み、自分の頭で考えることが何よりも必要である。						
授業方法	授業は以下の3部から構成される。 小テストは授業の最初に行う。次に、宿題として考えてきてもらった課題を使ってのワークとディスカッションを行なう。最後にワークとディスカッションをもとにした解説を加えて、次回の授業で扱うテーマについての宿題を発表する。なお、小テストは5回、評価の対象となる宿題は10回分とする。						
評価基準と評価方法	小テスト(各10点×5回 = 50点)、宿題(5点×10回 = 50点)。宿題については、単に提出しているかだけでなく積極的に議論に参加しているかどうか、予習・復習によって内容を理解しているかどうかを評価する。						
教科書	指定しない。プリントを配布する。						
参考書	体系的な理解のため、また予習復習のために、各自で参考書で学んでほしい。 実森正子・中島定彦(2000). 学習の心理：行動のメカニズムを探る サイエンス社 杉山尚子(2005). 行動分析学入門 ―ヒトの行動の思いがけない理由 集英社新書 島宗理(2010). 人は、なぜ約束の時間に遅れるのか 素朴な疑問から考える「行動の原因」 光文社新書						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	増永 理彦・池松 華奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&授業アンケート 第2回 自分について考えよう 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★） 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★） 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&「チェックシート」 第15回 まとめ ※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用						
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の3点を、授業内やレポート等で予定しています。 ・キャリアサポートセンターでの演習 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※前後期とも設定可能な場合に実施。 ・仕事をしている人のインタビューをする						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	増永 理彦・池松 華奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&授業アンケート 第2回 自分について考えよう 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★） 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★） 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&「チェックシート」 第15回 まとめ ※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用						
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の3点を、授業内やレポート等で予定しています。 ・キャリアサポートセンターでの演習 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※前後期とも設定可能な場合に実施。 ・仕事をしている人のインタビューをする						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	増永 理彦・大塩 佐公子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&授業アンケート 第2回 自分について考えよう 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★） 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★） 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&「チェックシート」 第15回 まとめ ※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用						
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の3点を、授業内やレポート等で予定しています。 ・キャリアサポートセンターでの演習 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※前後期とも設定可能な場合に実施。 ・仕事をしている人のインタビューをする						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	増永 理彦・小幡 祐可子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&授業アンケート 第2回 自分について考えよう 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★） 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★） 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&「チェックシート」 第15回 まとめ ※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用						
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の3点を、授業内やレポート等で予定しています。 ・キャリアサポートセンターでの演習 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※前後期とも設定可能な場合に実施。 ・仕事をしている人のインタビューをする						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	増永 理彦・小幡 祐可子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&授業アンケート 第2回 自分について考えよう 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★） 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★） 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&「チェックシート」 第15回 まとめ ※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用						
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の3点を、授業内やレポート等で予定しています。 ・キャリアサポートセンターでの演習 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※前後期とも設定可能な場合に実施。 ・仕事をしている人のインタビューをする						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	増永 理彦・鴨谷 香						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&授業アンケート 第2回 自分について考えよう 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★） 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★） 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&「チェックシート」 第15回 まとめ ※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用						
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の3点を、授業内やレポート等で予定しています。 ・キャリアサポートセンターでの演習 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※前後期とも設定可能な場合に実施。 ・仕事をしている人のインタビューをする						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	増永 理彦・澤田 和美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&授業アンケート 第2回 自分について考えよう 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★） 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★） 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&「チェックシート」 第15回 まとめ ※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用						
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の3点を、授業内やレポート等で予定しています。 ・キャリアサポートセンターでの演習 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※前後期とも設定可能な場合に実施。 ・仕事をしている人のインタビューをする						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	増永 理彦・布谷 由美子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&授業アンケート 第2回 自分について考えよう 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★） 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★） 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&「チェックシート」 第15回 まとめ ※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用						
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の3点を、授業内やレポート等で予定しています。 ・キャリアサポートセンターでの演習 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※前後期とも設定可能な場合に実施。 ・仕事をしている人のインタビューをする						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	増永 理彦・池松 華奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年秋からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（コミュニケーション力・情報収集力・論理的思考力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 *ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。この講座は、社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「社会で求められる力を知る」： 社会で求められる基本の力を知り、大学生活の中でどうのばしていくかイメージできる。 「仕事について調べ方を学ぶ」：情報収集の仕方を学び行動することができる。 「目標を実行に移せる」：大学生活の中で立てた目標を実行にうつすことができる。						
授業計画	第1回 キャリアデザインを知る ※授業アンケート、チェックシート実施 第2回 就職活動の流れを知る 第3回 大学生活を充実させよう① 第4回 大学生活を充実させよう② 第5回 「大学生活充実計画」をプレゼンしよう 第6回 現在の就職環境を知り、自分の将来について考えよう 第7回 ワークスタイルの研究①（企業で仕事をするイメージを持つ） 第8回 ワークスタイルの研究②（様々な仕事の仕方を知る） 第9回 社会と大学のつながりを考えよう 第10回 社会で必要となる力とは①（コミュニケーション力） 第11回 社会で必要となる力とは②（情報収集力） 第12回 社会で必要となる力とは③（論理的思考力） 第13回 目標設定と行動計画をたてよう ～プレゼンテーション準備編～ 第14回 目標と行動計画を発表しよう ※プレゼン・課題提出、チェックシート実施 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	・キャリアサポートセンター演習 ・エントリーシート記入 ・パソコンを使った情報検索演習 ・内定者の先輩の話聞きに行く ※前後期とも設定可能な場合に実施。						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講座終了時に講師が指定するワークシートやレポートを提出していただきます。（55点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (BASIC)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						

参考書	
-----	--

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	増永 理彦・池松 華奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年秋からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（コミュニケーション力・情報収集力・論理的思考力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 *ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。この講座は、社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「社会で求められる力を知る」： 社会で求められる基本の力を知り、大学生活の中でどうのばしていくかイメージできる。 「仕事について調べ方を学ぶ」：情報収集の仕方を学び行動することができる。 「目標を実行に移せる」：大学生活の中で立てた目標を実行にうつすことができる。						
授業計画	第1回 キャリアデザインを知る ※授業アンケート、チェックシート実施 第2回 就職活動の流れを知る 第3回 大学生活を充実させよう① 第4回 大学生活を充実させよう② 第5回 「大学生活充実計画」をプレゼンしよう 第6回 現在の就職環境を知り、自分の将来について考えよう 第7回 ワークスタイルの研究①（企業で仕事をするイメージを持つ） 第8回 ワークスタイルの研究②（様々な仕事の仕方を知る） 第9回 社会と大学のつながりを考えよう 第10回 社会で必要となる力とは①（コミュニケーション力） 第11回 社会で必要となる力とは②（情報収集力） 第12回 社会で必要となる力とは③（論理的思考力） 第13回 目標設定と行動計画をたてよう ～プレゼンテーション準備編～ 第14回 目標と行動計画を発表しよう ※プレゼン・課題提出、チェックシート実施 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	・キャリアサポートセンター演習 ・エントリーシート記入 ・パソコンを使った情報検索演習 ・内定者の先輩の話聞きに行く ※前後期とも設定可能な場合に実施。						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講座終了時に講師が指定するワークシートやレポートを提出していただきます。（55点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (BASIC)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						

参考書	
-----	--

科目区分	全学共通（一般教養系列）																																																																						
科目名	キャリアデザイン研究																																																																						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代																																																																						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0																																																																
授業のテーマ	企業業界の現状と今後の展望を知る																																																																						
授業の概要	IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい現代を生きていく学生に、現場で実践を積んでおられる多様な講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観を学びます。																																																																						
到達目標	職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけること。																																																																						
授業計画	<p>本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月 10日</td> <td>キャリアデザインとは何か</td> <td>青谷実知代</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>4月 17日</td> <td>心理学科 人生をいかに生きるか—心と体の健康</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>4月 24日</td> <td>(食品・アグリビジネス) NPOフードバンク関西</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>5月 1日</td> <td>(住宅・建設・不動産) 大和ハウス工業(株)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>5月 8日</td> <td>(証券・保険) 野村証券(株) 大浜久彦</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5月 15日</td> <td>(ホテル) 神戸ポートピアホテル(株) 福寿寛有</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>5月 22日</td> <td>(商社) 帝人フロンティア(株) 森正衛</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>5月 29日</td> <td>(マスコミ) 毎日放送 美藤啓文</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>6月 5日</td> <td>(サービス・旅行) (株)日本旅行 西坂好隆</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>6月 12日</td> <td>(情報・通信) (株)ラポール 野老みわ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>6月 19日</td> <td>(航空) (株)ANA総合研究所 森本全</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>6月 26日</td> <td>(通信・教育) (株)エヌゲージ 佐々木道正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>7月 3日</td> <td>(生活・サービス運輸) JR西日本(株) 小菅謙一</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>7月 10日</td> <td>(銀行) (株)三菱東京UFJ銀行 新保史絵子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>7月 17日</td> <td>(製造業) (株)ワコール 岡田雅枝</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>7月 24日</td> <td>—課題実施—</td> <td>青谷実知代</td> </tr> </table>							第1回	4月 10日	キャリアデザインとは何か	青谷実知代	第2回	4月 17日	心理学科 人生をいかに生きるか—心と体の健康		第3回	4月 24日	(食品・アグリビジネス) NPOフードバンク関西		第4回	5月 1日	(住宅・建設・不動産) 大和ハウス工業(株)		第5回	5月 8日	(証券・保険) 野村証券(株) 大浜久彦		第6回	5月 15日	(ホテル) 神戸ポートピアホテル(株) 福寿寛有		第7回	5月 22日	(商社) 帝人フロンティア(株) 森正衛		第8回	5月 29日	(マスコミ) 毎日放送 美藤啓文		第9回	6月 5日	(サービス・旅行) (株)日本旅行 西坂好隆		第10回	6月 12日	(情報・通信) (株)ラポール 野老みわ		第11回	6月 19日	(航空) (株)ANA総合研究所 森本全		第12回	6月 26日	(通信・教育) (株)エヌゲージ 佐々木道正		第13回	7月 3日	(生活・サービス運輸) JR西日本(株) 小菅謙一		第14回	7月 10日	(銀行) (株)三菱東京UFJ銀行 新保史絵子		第15回	7月 17日	(製造業) (株)ワコール 岡田雅枝		第16回	7月 24日	—課題実施—	青谷実知代
第1回	4月 10日	キャリアデザインとは何か	青谷実知代																																																																				
第2回	4月 17日	心理学科 人生をいかに生きるか—心と体の健康																																																																					
第3回	4月 24日	(食品・アグリビジネス) NPOフードバンク関西																																																																					
第4回	5月 1日	(住宅・建設・不動産) 大和ハウス工業(株)																																																																					
第5回	5月 8日	(証券・保険) 野村証券(株) 大浜久彦																																																																					
第6回	5月 15日	(ホテル) 神戸ポートピアホテル(株) 福寿寛有																																																																					
第7回	5月 22日	(商社) 帝人フロンティア(株) 森正衛																																																																					
第8回	5月 29日	(マスコミ) 毎日放送 美藤啓文																																																																					
第9回	6月 5日	(サービス・旅行) (株)日本旅行 西坂好隆																																																																					
第10回	6月 12日	(情報・通信) (株)ラポール 野老みわ																																																																					
第11回	6月 19日	(航空) (株)ANA総合研究所 森本全																																																																					
第12回	6月 26日	(通信・教育) (株)エヌゲージ 佐々木道正																																																																					
第13回	7月 3日	(生活・サービス運輸) JR西日本(株) 小菅謙一																																																																					
第14回	7月 10日	(銀行) (株)三菱東京UFJ銀行 新保史絵子																																																																					
第15回	7月 17日	(製造業) (株)ワコール 岡田雅枝																																																																					
第16回	7月 24日	—課題実施—	青谷実知代																																																																				
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：日頃から新聞や情報誌を読み、関心ある業界の傾向をつかむ。 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。</p>																																																																						
授業方法	毎回提出する小レポート、講義後に提出するレポート、出席状況から総合的に評価します。																																																																						
評価基準と評価方法	出席を重視する。この講義はオムニバス形式で実施するので毎回出席するよう心がけて下さい。																																																																						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）																																																																						
参考書	授業中に紹介する。																																																																						

科目区分	全学共通（一般教養系列）																																																																		
科目名	キャリアデザイン研究																																																																		
担当教員	単位認定者：青谷 実知代																																																																		
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0																																																												
授業のテーマ	企業業界の現状と今後の展望を知る																																																																		
授業の概要	IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい現代を生きていく学生に、現場で実践を積んでおられる多様な講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観を学びます。																																																																		
到達目標	職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけること。																																																																		
授業計画	<p>本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>10月 2日</td> <td>キャリアデザインとは何か</td> <td>青谷実知代</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>10月 9日</td> <td>人生をいかに生きるか—心と体の健康</td> <td>寺井さちこ</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>10月 16日</td> <td>(食品・アグリビジネス) NPOフードバンク関西</td> <td>浅葉めぐみ</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>10月 23日</td> <td>(住宅・建設・不動産) 大和ハウス工業(株)</td> <td>千原誠</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>10月 30日</td> <td>(証券・保険) 野村證券(株)</td> <td>西元孝和</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>11月 6日</td> <td>(ホテル) (株)ポートピアホテル(予定)</td> <td>福寿寛有</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>11月 13日</td> <td>(商社) 帝人フロンティア(株)</td> <td>森政衛</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>11月 20日</td> <td>(サービス・旅行) (株)日本旅行</td> <td>西坂好隆</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>11月 27日</td> <td>(金融) (株)三菱東京UFJ銀行</td> <td>新保史絵子</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>12月 4日</td> <td>(情報・通信) ラポール(株)</td> <td>野老みわ</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>12月 11日</td> <td>(航空) (株)ANA総合研究所</td> <td>森本全</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>12月 18日</td> <td>(通信・教育) (株)エヌゲージ</td> <td>佐々木道正</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>1月 8日</td> <td>(生活・サービス運輸) JR西日本</td> <td>小菅謙一</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>1月 15日</td> <td>(マスコミ) (株)毎日放送(予定)</td> <td>美藤啓文</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>1月 22日</td> <td>(製造業) (株)ワコール</td> <td>藤井太郎</td> </tr> </table>							第1回	10月 2日	キャリアデザインとは何か	青谷実知代	第2回	10月 9日	人生をいかに生きるか—心と体の健康	寺井さちこ	第3回	10月 16日	(食品・アグリビジネス) NPOフードバンク関西	浅葉めぐみ	第4回	10月 23日	(住宅・建設・不動産) 大和ハウス工業(株)	千原誠	第5回	10月 30日	(証券・保険) 野村證券(株)	西元孝和	第6回	11月 6日	(ホテル) (株)ポートピアホテル(予定)	福寿寛有	第7回	11月 13日	(商社) 帝人フロンティア(株)	森政衛	第8回	11月 20日	(サービス・旅行) (株)日本旅行	西坂好隆	第9回	11月 27日	(金融) (株)三菱東京UFJ銀行	新保史絵子	第10回	12月 4日	(情報・通信) ラポール(株)	野老みわ	第11回	12月 11日	(航空) (株)ANA総合研究所	森本全	第12回	12月 18日	(通信・教育) (株)エヌゲージ	佐々木道正	第13回	1月 8日	(生活・サービス運輸) JR西日本	小菅謙一	第14回	1月 15日	(マスコミ) (株)毎日放送(予定)	美藤啓文	第15回	1月 22日	(製造業) (株)ワコール	藤井太郎
第1回	10月 2日	キャリアデザインとは何か	青谷実知代																																																																
第2回	10月 9日	人生をいかに生きるか—心と体の健康	寺井さちこ																																																																
第3回	10月 16日	(食品・アグリビジネス) NPOフードバンク関西	浅葉めぐみ																																																																
第4回	10月 23日	(住宅・建設・不動産) 大和ハウス工業(株)	千原誠																																																																
第5回	10月 30日	(証券・保険) 野村證券(株)	西元孝和																																																																
第6回	11月 6日	(ホテル) (株)ポートピアホテル(予定)	福寿寛有																																																																
第7回	11月 13日	(商社) 帝人フロンティア(株)	森政衛																																																																
第8回	11月 20日	(サービス・旅行) (株)日本旅行	西坂好隆																																																																
第9回	11月 27日	(金融) (株)三菱東京UFJ銀行	新保史絵子																																																																
第10回	12月 4日	(情報・通信) ラポール(株)	野老みわ																																																																
第11回	12月 11日	(航空) (株)ANA総合研究所	森本全																																																																
第12回	12月 18日	(通信・教育) (株)エヌゲージ	佐々木道正																																																																
第13回	1月 8日	(生活・サービス運輸) JR西日本	小菅謙一																																																																
第14回	1月 15日	(マスコミ) (株)毎日放送(予定)	美藤啓文																																																																
第15回	1月 22日	(製造業) (株)ワコール	藤井太郎																																																																
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：日頃から新聞や情報誌を読み、関心ある業界の傾向をつかむ。 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。</p>																																																																		
授業方法	毎回提出する小レポート、講義後に提出するレポート、出席状況から総合的に評価します。																																																																		
評価基準と評価方法	出席を重視する。この講義はオムニバス形式で実施するので毎回出席するよう心がけて下さい。																																																																		
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）																																																																		
参考書	授業中に紹介する。																																																																		

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	企業の基礎知識						
担当教員	倉島 進						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	経済の仕組みと企業の仕組みを理解する						
授業の概要	<p>大学を卒業すれば、社会人として企業で働く人も多いと思います。資本主義社会においては、企業活動を通じて、経済活動を行い人々は、生活しています。社会人として、最低限知っておかなければならない事から、就職活動において知っていれば有利な知識まで、選りすぐり、講義していきます。</p> <p>特に、経済用語は、通常の会話ではなかなか出てきませんが、一つの事象から言葉に注目し、その事象に必要な経済用語、企業用語を解説するといった形で講義を進めてきます。これらの知識は、無理から暗記するのではなく、自然に体得することが重要と考えています。このため、経済用語を理解するための手助けとして、最近の新聞からのニュースを取り上げ、内容理解を高めます。</p> <p>まずは、社会の仕組みを知ることから始め、企業の仕組みまで講義をいたします。企業の仕組みでは、事務職として就職すれば必要な知識も盛り込んでいく予定にしています。</p>						
到達目標	日経新聞の内容が理解できる程度の知識の習得を行う。特に、経済、問題についての理解を深める						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 社会の仕組み（経済活動について） 3 企業の役割（業種、業界について） 4 企業の本当の目的 5 証券市場の仕組み 6 日本銀行の役割 7 円高、円安、為替のしくみ 8 デフレ、インフレ経済のしくみ 9 企業の決算発表 10 税金のしくみ 11 これだけある身の回りの法律 12 企業の仕組みと業務の流れ 13 会社の事務職の仕事 14 会社とお金 15 総まとめ <p>今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから、日経新聞等のニュースに注目しておいてください。						
授業方法	<p>各回のテーマに沿ったプリントを作成し、そのプリントを中心に授業を進めていきます。プリントにおいては、いくつかの質問事項や、みなさんと検討することも盛り込んでいます。これらをみなさんと一緒に解決することで、理解力を高めていきます。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p>						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、レポートを加味して評価する。						
教科書	特になし						
参考書	初回授業時に発表する						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	企業の基礎知識						
担当教員	倉島 進						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	経済の仕組みと企業の仕組みを理解する						
授業の概要	<p>大学を卒業すれば、社会人として企業で働く人も多いと思います。資本主義社会においては、企業活動を通じて、経済活動を行い人々は、生活しています。社会人として、最低限知っておかなければならない事から、就職活動において知っていれば有利な知識まで、選りすぐり、講義していきます。</p> <p>特に、経済用語は、通常の会話ではなかなか出てきませんが、一つの事象から言葉に注目し、その事象に必要な経済用語、企業用語を解説するといった形で講義を進めてきます。これらの知識は、無理から暗記するのではなく、自然に体得することが重要と考えています。このため、経済用語を理解するための手助けとして、最近の新聞からのニュースを取り上げ、内容理解を高めます。</p> <p>まずは、社会の仕組みを知ることから始め、企業の仕組みまで講義をいたします。企業の仕組みでは、事務職として就職すれば必要な知識も盛り込んでいく予定にしています。</p>						
到達目標	日経新聞の内容が理解できる程度の知識の習得を行う。特に、経済、問題についての理解を深める						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 社会の仕組み（経済活動について） 3 企業の役割（業種、業界について） 4 企業の本当の目的 5 証券市場の仕組み 6 日本銀行の役割 7 円高、円安、為替のしくみ 8 デフレ、インフレ経済のしくみ 9 企業の決算発表 10 税金のしくみ 11 これだけある身の回りの法律 12 企業の仕組みと業務の流れ 13 会社の事務職の仕事 14 会社とお金 15 総まとめ <p>今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから、日経新聞等のニュースに注目しておいてください。						
授業方法	<p>各回のテーマに沿ったプリントを作成し、そのプリントを中心に授業を進めていきます。プリントにおいては、いくつかの質問事項や、みなさんと検討することも盛り込んでいます。これらをみなさんと一緒に解決することで、理解力を高めていきます。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p>						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、レポートを加味して評価する。						
教科書	特になし						
参考書	初回授業時に発表する						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	金融リテラシー						
担当教員	植田 麻衣子・松永 邦哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、お金の観点から今後の人生を考えるとともに、FP技能士3級レベルの社会保険・生命保険・資産運用等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなるとなく取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p>						
到達目標	本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要の説明 植田 2. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来起こりうる様々な出来事をしり、どれくらいのお金がかかるのかを知る 松永 3. ライフプランニングその1（実習）・・・グループで一つの家庭のライフイベントを話し合いで作成する 松永 4. ライフプランニングその2（実習）・・・作成したライフイベントをライフプランニング表にまとめてみる。ライフプランニング表提出 松永 5. 【しる】人生のリスク【まもる】社会保険の知識その1・・・将来のリスク（不安）の解消方法を知る 給与明細の見方の解説 松永 6. 【まもる】社会保険の知識その2・・・給与から控除される社会保険料について解説 松永 7. 【まもる】生命保険の知識・・・生命保険のしくみと概要の解説 松永 8. 【まもる】損害保険の知識・・・損害保険のしくみと概要の解説 松永 9. 【つかう】不動産・車の購入のしかた その1・・・住宅・車購入の際に知っておくべきこと・注意すべき点を解説 植田 10. 【つかう】不動産・車の購入のしかた その2・・・住宅ローン・カーリース等に関する知識の取得 植田 11. 【ふやす】金融商品のしくみ 総論・・・お金を増やすとは リスクとリターンについて解説 植田 12. 【ふやす】金融商品のしくみ 各論・・・預金・株・国債などの具体的な資産運用手段について理解する 植田 13. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を取得する 植田 14. 【このす】贈与・相続に関する知識・・・贈与や相続に関する法律上知っておくべき知識や税金の話 植田 15. 終了試験・・・FP技能士3級レベルの試験と評価 植田 						
授業外における学習（準備学習の内容）	金融の言葉の一部は難解な言葉もあります。日頃から新聞・テレビ等で経済に関するニュースに興味をもって接してください（とくに日経平均株価・為替レート・年金・税金の情報など）。						
授業方法	講義形式、演習形式で実施します。 教科書及びレジュメにもとづいて授業を行います。						
評価基準と評価方法	出席、試験成績の各点数と授業態度（課題提出の有無や自主発表）を総合的に評価します。 割合は、平常点（出席含む）60%、試験40%						
教科書	書名：女性の「お金力」養成塾 著者：倉島進・植田麻衣子 出版社：セルバ出版 ISBN978-4-86367-025-9						
参考書	特になし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	金融リテラシー						
担当教員	植田 麻衣子・松永 邦哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、お金の観点から今後の人生を考えるとともに、FP技能士3級レベルの社会保険・生命保険・資産運用等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなると取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p>						
到達目標	本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要の説明 植田 2. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来起こりうる様々な出来事をしり、どれくらいのお金がかかるのかを知る 松永 3. ライフプランニングその1（実習）・・・グループで一つの家庭のライフイベントを話し合いで作成する 松永 4. ライフプランニングその2（実習）・・・作成したライフイベントをライフプランニング表にまとめてみる。ライフプランニング表提出 松永 5. 【しる】人生のリスク【まもる】社会保険の知識その1・・・将来のリスク（不安）の解消方法を知る 給与明細の見方の解説 松永 6. 【まもる】社会保険の知識その2・・・給与から控除される社会保険料について解説 松永 7. 【まもる】生命保険の知識・・・生命保険のしくみと概要の解説 松永 8. 【まもる】損害保険の知識・・・損害保険のしくみと概要の解説 松永 9. 【つかう】不動産・車の購入のしかた その1・・・住宅・車購入の際に知っておくべきこと・注意すべき点を解説 植田 10. 【つかう】不動産・車の購入のしかた その2・・・住宅ローン・カーリース等に関する知識の取得 植田 11. 【ふやす】金融商品のしくみ 総論・・・お金を増やすとは リスクとリターンについて解説 植田 12. 【ふやす】金融商品のしくみ 各論・・・預金・株・国債などの具体的な資産運用手段について理解する 植田 13. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を取得する 植田 14. 【このす】贈与・相続に関する知識・・・贈与や相続に関する法律上知っておくべき知識や税金の話 植田 15. 終了試験・・・FP技能士3級レベルの試験と評価 植田 						
授業外における学習（準備学習の内容）	金融の言葉の一部は難解な言葉もあります。日頃から新聞・テレビ等で経済に関するニュースに興味をもって接してください（とくに日経平均株価・為替レート・年金・税金の情報など）。						
授業方法	講義形式、演習形式で実施します。 教科書及びレジュメにもとづいて授業を行います。						
評価基準と評価方法	出席、試験成績の各点数と授業態度（課題提出の有無や自主発表）を総合的に評価します。 割合は、平常点（出席含む）60%、試験40%						
教科書	書名：女性の「お金力」養成塾 著者：倉島進・植田麻衣子 出版社：セルバ出版 ISBN978-4-86367-025-9						
参考書	特になし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	金融リテラシー						
担当教員	植田 麻衣子・松永 邦哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、お金の観点から今後の人生を考えるとともに、FP技能士3級レベルの社会保険・生命保険・資産運用等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなると取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p>						
到達目標	本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要の説明 植田 2. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来起こりうる様々な出来事をしり、どれくらいのお金がかかるのかを知る 松永 3. ライフプランニングその1（実習）・・・グループで一つの家庭のライフイベントを話し合いで作成する 松永 4. ライフプランニングその2（実習）・・・作成したライフイベントをライフプランニング表にまとめてみる。ライフプランニング表提出 松永 5. 【しる】人生のリスク【まもる】社会保険の知識その1・・・将来のリスク（不安）の解消方法を知る 給与明細の見方の解説 松永 6. 【まもる】社会保険の知識その2・・・給与から控除される社会保険料について解説 松永 7. 【まもる】生命保険の知識・・・生命保険のしくみと概要の解説 松永 8. 【まもる】損害保険の知識・・・損害保険のしくみと概要の解説 松永 9. 【つかう】不動産・車の購入のしかた その1・・・住宅・車購入の際に知っておくべきこと・注意すべき点を解説 植田 10. 【つかう】不動産・車の購入のしかた その2・・・住宅ローン・カーリース等に関する知識の取得 植田 11. 【ふやす】金融商品のしくみ 総論・・・お金を増やすとは リスクとリターンについて解説 植田 12. 【ふやす】金融商品のしくみ 各論・・・預金・株・国債などの具体的な資産運用手段について理解する 植田 13. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を取得する 植田 14. 【このす】贈与・相続に関する知識・・・贈与や相続に関する法律上知っておくべき知識や税金の話 植田 15. 終了試験・・・FP技能士3級レベルの試験と評価 植田 						
授業外における学習（準備学習の内容）	金融の言葉の一部は難解な言葉もあります。日頃から新聞・テレビ等で経済に関するニュースに興味をもって接してください（とくに日経平均株価・為替レート・年金・税金の情報など）。						
授業方法	講義形式、演習形式で実施します。 教科書及びレジュメにもとづいて授業を行います。						
評価基準と評価方法	出席、試験成績の各点数と授業態度（課題提出の有無や自主発表）を総合的に評価します。 割合は、平常点（出席含む）60%、試験40%						
教科書	<p>書名：女性の「お金力」養成塾 著者：倉島進・植田麻衣子 出版社：セルバ出版 ISBN978-4-86367-025-9</p>						
参考書	特になし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしと医療						
担当教員	原 正之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	医療制度や医薬品の開発に関わる制度の概説と、新しい医療技術や生命倫理に関わるトピックスの紹介など。						
授業の概要	<p>まず、我が国の医療保険制度の概要を解説する。先端的な医療技術や再生医療について解説する上で、理解の前提となる生物学や化学の基礎的な知識についても、併せて説明を行う。近年関心の高まっている再生医療を中心として先端医療に関わる技術のトピックスを紹介し、その背景となる医学や生物学の技術的進歩、ならびに社会的背景を含めて解説を行う。医薬品、医療用具の認可制度、臓器移植や研究目的での細胞や組織の提供の仕組みについてなど、生命倫理と医療技術の社会的受容に関わる問題について解説する。</p>						
到達目標	<p>新聞やニュース等で報道される医療制度や医療技術に関わる問題に関心を持ち、自分で考えてみる習慣をつける。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療制度についての概論 2. 再生医療とは？ 3. 細胞分化と発生のしくみ 4. 幹細胞について 5. 医療用具とその材料 6. 人工臓器と組織工学 7. 医薬品、医療用具の認可制度 8. 細胞・組織の提供と品質管理 9. 臓器移植について 10. クローン動物作成技術 11. 生命倫理と社会的受容 12. 難病について 13. 感染症 14. 医療に関わるトピックス1（報道記事などを参考にして事例を解説） 15. 全体のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞などで報道される医療制度、医療技術についての記事に良く目を通して、必要であれば切り抜いておく。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点50%と課題レポート提出50%により、評価する。 課題レポートの提出により、評価する。						
教科書	取り上げる問題が多岐に渡るので、教科書は特に指定しない。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしと憲法／日本国憲法						
担当教員	中川 丈久						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解する						
授業の概要	最初に法学入門的な授業をしたあと、日本国憲法の存在理由としくみを取り扱う。憲法の存在理由については、国民主権、自由と秩序、社会契約の観点から検討する。最後に、平和主義、統治機構と人権の諸問題を検討する。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、自分なりの見解を自分の言葉で説明する経験を得ること。						
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 I インTRODクシヨN 授業の進め方、試験について</p> <p>第2回 II 法と人間 1. 法の歴史 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係</p> <p>第3回 III 法律の3部門 1. 民事法 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法</p> <p>第4回 復習テスト1（法律の基本：I～III）</p> <p>第5回 IV 憲法はなぜ必要？ 1. 国民主権 2. 政府はなぜ必要か 第6回 IV. 憲法はなぜ必要？ 3. 憲法はなぜ必要か 4. 憲法改正</p> <p>第7回 V. 憲法のしくみ 1. 民主制 第8回 V. 憲法のしくみ 2. 人権保障</p> <p>第9回 復習テスト2（憲法の基本：IV～V）</p> <p>第10回 VI. 憲法の内容（1）：戦争放棄 第11回 VII. 憲法の内容（2）：民主制 第12回 VIII. 憲法の内容（3）：人権保障 1. 基本的人権 2. 平等 3. 生命 第13回 VIII. 憲法の内容（3）：人権保障 4. 表現と宗教 5. 財産</p> <p>第14回 総まとめ 第15回 まとめと最終試験（VI～VIII）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	配付資料の該当箇所を読んで、質問にどう答えるかを考えてくること						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	復習テスト（2回）と期末試験を総合して評価する。期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか（どのような見解をとるかは当然ながら自由）の2点を評価対象とする。						
教科書	中川剛「文学のなかの法感覚」（信山社）						
参考書	なし（配布資料あり）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしと憲法／日本国憲法						
担当教員	中川 丈久						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解する						
授業の概要	最初に法学入門的な授業をしたあと、日本国憲法の存在理由としくみを取り扱う。憲法の存在理由については、国民主権、自由と秩序、社会契約の観点から検討する。最後に、平和主義、統治機構と人権の諸問題を検討する。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、自分なりの見解を自分の言葉で説明する経験を得ること。						
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 I インTRODクシヨN 授業の進め方、試験について</p> <p>第2回 II 法と人間 1. 法の歴史 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係</p> <p>第3回 III 法律の3部門 1. 民事法 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法</p> <p>第4回 復習テスト1（法律の基本：I～III）</p> <p>第5回 IV 憲法はなぜ必要？ 1. 国民主権 2. 政府はなぜ必要か 第6回 IV. 憲法はなぜ必要？ 3. 憲法はなぜ必要か 4. 憲法改正</p> <p>第7回 V. 憲法のしくみ 1. 民主制 第8回 V. 憲法のしくみ 2. 人権保障</p> <p>第9回 復習テスト2（憲法の基本：IV～V）</p> <p>第10回 VI. 憲法の内容（1）：戦争放棄 第11回 VII. 憲法の内容（2）：民主制 第12回 VIII. 憲法の内容（3）：人権保障 1. 基本的人権 2. 平等 3. 生命 第13回 VIII. 憲法の内容（3）：人権保障 4. 表現と宗教 5. 財産</p> <p>第14回 総まとめ 第15回 まとめと最終試験（VI～VIII）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	配付資料の該当箇所を読んで、質問にどう答えるかを考えてくること						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	復習テスト（2回）と期末試験を総合して評価する。期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか（どのような見解をとるかは当然ながら自由）の2点を評価対象とする。						
教科書	中川剛「文学のなかの法感覚」（信山社）						
参考書	なし（配布資料あり）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしの中の統計学						
担当教員	津久井 茂樹						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	くらしの中や実験等で使われる数字を、簡単な統計を使って読み解く						
授業の概要	身近なくらしの中で、統計学が使われる場面が多くあります。その使われ方を簡単な例を通して学ぶことで、データ分析の手法と、データが意味する本質を理解することを目的とします。授業では、ハンバーガーショップでのハンバーガーやポテトの味や人気度などを題材に、その評価を統計学的に処理する方法を学びます。難しい数学を使わないで、統計の基礎を学び、実験データやアンケートなどのデータ分析、情報処理などの統計的な扱いを学びます。						
到達目標	統計に必要な平均、分散、標準偏差の算出方法と、それらの意味を理解する。相関を検証する χ^2 検定、平均を比較するt検定、分散を分析するF検定を理解する。						
授業計画	<p>第1回: Orientation/統計学とはなに?/ハンバーガー店のポテトの売上を例題に 第1章、ポテトの長さの均一性[1/2]—「平均」</p> <p>第2回: 第1章、ポテトの長さの均一性[2/2]—用語を知っておこう//度数分布」、 「分散」、「標準偏差」；「偏差値」のマジック</p> <p>第3回: 第2章、ポテトの本数[1/2]—「母集団」、「標本」、「抽出」、「推定値」</p> <p>第4回: 第2章、ポテトの本数[2/2]—「区間推定」、「信頼区間」、 「t分布表と自由度」；「選挙速報」の怪</p> <p>第5回: 第3章、ライバル店との売上高比較[1/2]—「仮説をたてる」、 「カイ2乗値」、「カイ2乗値の分布」</p> <p>第6回: 第3章、ライバル店との売上高比較[2/2]—「カイ2乗検定と自由度」、 「有意水準」、「仮説検定」、「決断のとき」</p> <p>第7回: 第4章、どちらの商品が人気?[1/2]—「対応のないt検定」、 「差の信頼区間」、「有意差」</p> <p>第8回: 第4章、どちらの商品が人気?[2/2]—「t検定の実施」；「秘密?の有意差」</p> <p>第9回: 第5章、ライバル店の人気の秘密は?[1/2]—「対応のあるt検定」</p> <p>第10回: 第5章、ライバル店の人気の秘密は?[2/2]—「対応のあり/なしの比較」； 「こころの数値化?」</p> <p>第11回: 第6章、新たなライバル店の出現[1/2]—「t検定が使えない?」</p> <p>第12回: 第6章、新たなライバル店の出現[2/2]—「分散分析」、「F分布表」</p> <p>第13回: 第7章、新メニューで一発勝負[1/2]—「要員と水準」、「交互作用」、 「2要因の分散分析」</p> <p>第14回: 第7章、新メニューで一発勝負[2/2]—「2要因の分散分析表」、 「ズレの計算」、「統計学は戦略決定に不可欠」</p> <p>第15回 質疑応答と試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特に必要ないが、次のURLで学習することが望ましい。 http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/index.html						
授業方法	パワーポイントを使って授業を行ない、視覚的な理解を助けます。教科書を軸にしつつ、毎回講義資料を配布して理解を深めます。毎回、授業時間内に小テストを実施し、内容の理解を深めます。						
評価基準と評価方法	小テスト(30%)、期末試験(70%)の得点から理解度を評価する。理由無く後日提出した小テストの評価を減じます。						
教科書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる（ファーストブック）』（技術評論社） ※必ず購入のこと						
参考書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】（ファーストブック）』（技術評論社） 小島寛之著『完全独習統計学入門』（ダイヤモンド社） 柳谷晃著『統計解析の基本』（日本能率協会マネジメントセンター） 中西寛子著『統計学の基礎』（多賀出版）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	景観論						
担当教員	中林 浩						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>世界と日本には多様な景観が存在することを画像を見てもらいます。農村・中小都市・大都市、そして途上国と先進国、いろいろですね。ただ、先進国の大都市の景観が中心の紹介になります。景観の保全をめぐる、各地でさまざまな形の努力がはられていることがわかります。それとかかわって景観法はじめ景観行政や文化財保護制度が発達してきた歴史を学びます。世界遺産についてもくわしく話します。</p> <p>むずかしそうな話もありますが、観光案内を見るように講義を受けてもらうのもこちらの意図するところです。どのような観点をもてば、より楽しい観光ができるのかを知ってもらいたいと考えます。またこうした態度をもつ観光客がより豊かな地域を育てることになります。</p> <p>とくに京都・大阪・神戸という関西の大都市とその周囲の都市景観について具体的な検討を行います。とりわけわたしがかわった高層ビル建設反対運動などの紹介をします。</p> <p>映像をたくさん使う講義で、話の途中で画像をたくさん見せます。最後の30分は動画をほぼ毎回見せます。さいきんではテレビでも紀行というか地域を紹介した番組が増えましたね。動画がより景観を理解するのを助けます。たくさんストックがあるので、珠玉の景観動画をお楽しみください。</p>						
授業の概要	【「授業のテーマ」参照、わたしにはこういうものをテーマ・概要・到達目標・授業方法というように細切れには書けないのです、思考が平板になってしまいます。テーマ・概要・到達目標……、これらは同じものの別の側面なのにそれを分けて書く方がいいシラバスだとはお笑いだ】						
到達目標	【「授業のテーマ」参照】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 景観・風景とは 2 いろいろな景観・農村編 3 いろいろな景観・中小都市編 4 いろいろな景観・大都市編 5 景観保全・町並み保存運動の歴史 6 景観法のしくみ+テスト1 7 文化財行政の発展 8 世界遺産制度のしくみ 9 都市の世界遺産 10各地の景観まとめ 11観光・レクリエーションのあり方 12京都の景観破壊——せっかくの文化財・自然環境がここまで壊されるとは 13大阪の景観破壊——かつては「水の都」と称されていたのに 14神戸の景観破壊——高架道路と高層ビルはひどいですね、デザイン都市？ 15景観問題のまとめ+テスト2 						
授業外における学習（準備学習の内容）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	【「授業のテーマ」参照】						
評価基準と評価方法	ほとんどを授業中のテスト2回で採点します。授業への参加の積極性を加味することもあります。シラバス内クイズ「2回国境を越えないと海に出られない国はどこでしょう」。						
教科書							
参考書	授業中に紹介します。新書などでつよく勧めるものがあります。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	経済学						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	「経済学的な考え方」を学ぶ						
授業の概要	経済学とはどんな学問か考えることを導入部に、経済学的な考え方について、また経済のしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に講義します。そして現代社会におけるさまざまな経済事象や経済問題を考察する際、その本質理解に一歩近づければと考えています。新聞・TVなどで話題になっている経済トピックについて取り上げ、分かりやすく説明する予定です。						
到達目標	経済事象や経済問題をより深く理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、経済とは？経済学とは？ 2. 経済学の基本概念 3. 簡単な経済学の歴史①：古典派経済学の現代性と限界 4. 簡単な経済学の歴史②：古典派経済学批判～現代経済学 5. 経済システムと組織①：市場のしくみ 6. 経済システムと組織②：企業の役割・変化しつつある企業組織の現状 7. マクロ経済学の基礎知識①：マクロ経済学とは何か/国民経済勘定について/経済成長率について 8. マクロ経済学の基礎知識②：経済政策の必要性 9. マクロ経済学の基礎知識③：財政政策と金融政策 10. 開放経済のマクロ経済学 11. ミクロ経済学の基礎知識①：ミクロ経済学とは何か/消費者の行動 12. ミクロ経済学の基礎知識②：企業の経済行動 13. ミクロ経済学の基礎知識③：価格と生産量の決定：市場 14. ミクロ経済学の基礎知識④：市場メカニズムは効率的か？ 15. 経済のグローバル化とその功罪 およびまとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	つね日頃からインターネット・新聞・テレビなどを通して現代の経済の問題や出来事について関心を向け、その内容理解に努めてください（確認テストなどでたずねます）。						
授業方法	極力双方向の授業を目指します。内容理解と知識の整理のために、できるだけ頻回に確認テストを実施する予定です。そのさいに、現在の経済にかかわる主要な問題や出来事についても出題する予定です。またその解説も平明に行うつもりです。						
評価基準と評価方法	定期試験70%と平常点30%						
教科書							
参考書	井堀利宏著『図解雑学マクロ経済学』（ナツメ社） 嶋村・横山著『図解雑学ミクロ経済学』（ナツメ社） 若森・小池・森岡著『入門・政治経済学』（ミネルヴァ書房） 山田鋭夫著『レギュレーション理論』（講談社新書） J.スティグリッツ著『入門経済学』（東洋経済新報社）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	言語学入門／言語学I						
担当教員	武田 佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の多様性についての理解を深める						
授業の概要	日本語の話しことば、つまり「方言」と「標準語・共通語」を中心に、その多様性について理解を深めたいと考えている人を対象とした講義です。専攻分野や目指す職種の如何にかかわらず、日本語の表現力は生きていく上で不可欠なものです。ビデオなどの資料を取り入れながら講義をすすめます。演習問題や課題も取り入れる予定です。						
到達目標	日本語の話しことばにかんして、基本的なことがらを習得し、見識を深めることを目標とします。						
授業計画	第1回 話しことばの多様性 第2回 方言とは何か 第3回 方言の境界 第4回 方言の意識 第5回 文献にあらわれる方言 第6回 江戸語と標準語 第7回 標準語と方言 第8回 中間テストと解説 第9回 ことばの伝わり方 第10回 日本各地の方言① 第11回 日本各地の方言② 第12回 方言の変化 第13回 位相語 第14回 方言の動態 第15回 テストの解説とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々の生活で、特に意識もせず使っていたり耳にしたりする話しことばは、貴重なデータの宝庫です。気をつけて観察していると、疑問に思うことや気にかかることがたくさんあるはずです。また、当たり前すぎて何も思わなかったことにもさまざまな興味深いことが含まれていたりもします。自分の身の回りにある話しことばについて、普段から注目し、問題意識を持って授業に臨んでください。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点・小テスト（50%） 中間テスト（25%） 期末テスト（25%）						
教科書	真田信治『方言の日本地図 ことばの旅』講談社α新書 ISBN 4-06-272168-6C0281						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	社会生活において、当然来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことがらから平明に解説をします。						
到達目標	経済に関心を持ち、経済の紙面や報道の内容をある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 経済とは何か？誰のための経済か？—GNPとGNH 2 「市場」のはたらきを学ぶ① 3 市場の種類とそのしくみ② 4 市場の限界③ 5 「企業」の役割を学ぶ① 6 株式会社の基本的なしくみ② 7 コーポレート・ガバナンスとCSR③ 8 経済における政府の役割①：経済政策 9 経済における政府の役割②：社会政策 10 「銀行」のしくみを学ぶ① 11 日本銀行の役割② 12 国際経済のしくみ①：交易 13 国際経済のしくみ②：金融 14 為替レートの変動がもたらすもの 15 まとめとテスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	経済の記事やニュースなどに積極的に関心を向ける習慣をつける。 分からない事柄についてきちんと「問い」をたてて納得のいく答えを導こうと努力をしてください。						
授業方法	極力双方向をめざします。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。						
評価基準と評価方法	期末試験70%、平常点30%						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	社会生活において、当然来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことがらから平明に解説をします。						
到達目標	経済に関心を持ち、経済の紙面や報道の内容をある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 経済とは何か？誰のための経済か？—GNPとGNH 2 「市場」のはたらきを学ぶ① 3 市場の種類とそのしくみ② 4 市場の限界③ 5 「企業」の役割を学ぶ① 6 株式会社の基本的なしくみ② 7 コーポレート・ガバナンスとCSR③ 8 経済における政府の役割①：経済政策 9 経済における政府の役割②：社会政策 10 「銀行」のしくみを学ぶ① 11 日本銀行の役割② 12 国際経済のしくみ①：交易 13 国際経済のしくみ②：金融 14 為替レートの変動がもたらすもの 15 まとめとテスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	経済の記事やニュースなどに積極的に関心を向ける習慣をつける。 分からない事柄についてきちんと「問い」をたてて納得のいく答えを導こうと努力をしてください。						
授業方法	極力双方向をめざします。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。						
評価基準と評価方法	期末試験70%、平常点30%						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。また私たちの生活にかかわりをもつとおもわれる国内外の政治問題についても考察・検討したいと思います。新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。						
到達目標	政治に関心を持ち、政治報道や記事についてある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：「政治」とは何だろう 2 民主主義再考(最高?) 3 民主主義の歴史をふり返る 4 「保守」「革新」という考え 5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型 6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴 7 政治と国家(1)：国家機能の変遷 8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割 9 世論の支配とマスメディア 10 日本の行政改革とその問題 11 日本の司法制度改革とその問題 12 歴史認識とナショナリズム 13 日本とアジア：中国・韓国・北朝鮮を中心に 14 日本と米・欧・露 15 まとめと試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	新聞・テレビ・ネットの政治報道に目を向ける習慣をつけてください。						
授業方法	極力双方向を目指したいと思います。理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%で評価します。						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。また私たちの生活にかかわりをもつとおもわれる国内外の政治問題についても考察・検討したいと思います。新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。						
到達目標	政治に関心を持ち、政治報道や記事についてある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：「政治」とは何だろう 2 民主主義再考(最高?) 3 民主主義の歴史をふり返る 4 「保守」「革新」という考え 5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型 6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴 7 政治と国家(1)：国家機能の変遷 8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割 9 世論の支配とマスメディア 10 日本の行政改革とその問題 11 日本の司法制度改革とその問題 12 歴史認識とナショナリズム 13 日本とアジア：中国・韓国・北朝鮮を中心に 14 日本と米・欧・露 15 まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞・テレビ・ネットの政治報道に目を向ける習慣をつけてください。						
授業方法	極力双方向を目指したいと思います。理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%で評価します。						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	20世紀は戦争の世紀でした。と同時に19世紀から続くメディアの世紀でもありました。また、2011年3月11日の東日本大震災は未曾有の大災害となり、その後の福島第1原子力発電所の事故は、私たちの今後の社会の在り方を問うています。私たちはこれらの情報を主にメディアから入手します。私たちはそれらの情報が包み隠さず公開され、正しく伝わったのか検証しなければなりません。まさにメディアの在り方や「メディア・リテラシー」能力が問われています。講義ではこれらの課題と真正面から向き合い、ともに語り合い、検証し、将来の私たちの社会の在り方を考えます。						
授業の概要	福島原発の事故や少子高齢化社会と女性の役割、デフレと円高をどう考えるか？インターネット社会の光と影などを検証し、議論し、報告します。また、第2次世界大戦とメディアのありかたもDVDで検証します。そして最後に、それぞれが選んだテーマでレポートを提出し、発表します。						
到達目標	現代社会を生きる知恵を身につけ、メディアを読み解く基礎知識を習得する。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①福島原発の事故と今後の日本社会のあり方 ②少子高齢化社会と女性の役割 ③デフレと円高不況をどう考える ④メディアの変遷 ⑤メディアの今日的課題 ⑥メディアとしての身体からゲーテンベルクへ ⑦「インターネットとケータイはどのように社会と個人を変えるか？」討論 ⑧放送メディアの生成と発展 ⑨メディアの今日的生成 ⑩国家とメディア ⑪メディア産業と組織 ⑫ネットワークと階層 ⑬メディアの利用と効果 ⑭パブリックアクセス権とコンセンサス社会 ⑮テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	講義のほか、受講生全員による議論とそれを踏まえたレポートの作成・発表を行います。さまざまなDVDやデーターなども利用します。						
評価基準と評価方法	レポート・出席・発表・試験の結果を総合的に判断します。比率は出席・レポート・発表が30%、試験は70%です。						
教科書	竹内・児島・橋本共著「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	20世紀は戦争の世紀でした。と同時に19世紀から続くメディアの世紀でもありました。また、2011年3月11日の東日本大震災は未曾有の大災害となり、その後の福島第1原子力発電所の事故は、私たちの今後の社会の在り方を問うています。私たちはこれらの情報を主にメディアから入手します。私たちはそれらの情報が包み隠さず公開され、正しく伝わったのか検証しなければなりません。まさにメディアの在り方や「メディア・リテラシー」能力が問われています。講義ではこれらの課題と真正面から向き合い、ともに語り合い、検証し、将来の私たちの社会の在り方を考えます。						
授業の概要	福島原発の事故や少子高齢化社会と女性の役割、デフレと円高をどう考えるか？インターネット社会の光と影などを検証し、議論し、報告します。また、第2次世界大戦とメディアのありかたもDVDで検証します。そして最後に、それぞれが選んだテーマでレポートを提出し、発表します。						
到達目標	現代社会を生きる知恵を身につけ、メディアを読み解く基礎知識を習得する。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①福島原発の事故と今後の日本社会のあり方 ②少子高齢化社会と女性の役割 ③デフレと円高不況をどう考える ④メディアの変遷 ⑤メディアの今日的課題 ⑥メディアとしての身体からゲーテンベルクへ ⑦「インターネットとケータイはどのように社会と個人を変えるか？」討論 ⑧放送メディアの生成と発展 ⑨メディアの今日的生成 ⑩国家とメディア ⑪メディア産業と組織 ⑫ネットワークと階層 ⑬メディアの利用と効果 ⑭パブリックアクセス権とコンセンサス社会 ⑮テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	講義のほか、受講生全員による議論とそれを踏まえたレポートの作成・発表を行います。さまざまなDVDやデーターなども利用します。						
評価基準と評価方法	レポート・出席・発表・試験の結果を総合的に判断します。比率は出席・レポート・発表が30%、試験は70%です。						
教科書	竹内・児島・橋本共著「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	20世紀は戦争の世紀でした。と同時に19世紀から続くメディアの世紀でもありました。また、2011年3月11日の東日本大震災は未曾有の大災害となり、その後の福島第1原子力発電所の事故は、私たちの今後の社会の在り方を問うています。私たちはこれらの情報を主にメディアから入手します。私たちはそれらの情報が包み隠さず公開され、正しく伝わったのか検証しなければなりません。まさにメディアの在り方や「メディア・リテラシー」能力が問われています。講義ではこれらの課題と真正面から向き合い、ともに語り合い、検証し、将来の私たちの社会の在り方を考えます。						
授業の概要	福島原発の事故や少子高齢化社会と女性の役割、デフレと円高をどう考えるか？インターネット社会の光と影などを検証し、議論し、報告します。また、第2次世界大戦とメディアのありかたもDVDで検証します。そして最後に、それぞれが選んだテーマでレポートを提出し、発表します。						
到達目標	現代社会を生きる知恵を身につけ、メディアを読み解く基礎知識を習得する。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①福島原発の事故と今後の日本社会のあり方 ②少子高齢化社会と女性の役割 ③デフレと円高不況をどう考える ④メディアの変遷 ⑤メディアの今日的課題 ⑥メディアとしての身体からゲーテンベルクへ ⑦「インターネットとケータイはどのように社会と個人を変えるか？」討論 ⑧放送メディアの生成と発展 ⑨メディアの今日的生成 ⑩国家とメディア ⑪メディア産業と組織 ⑫ネットワークと階層 ⑬メディアの利用と効果 ⑭パブリックアクセス権とコンセンサス社会 ⑮テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	講義のほか、受講生全員による議論とそれを踏まえたレポートの作成・発表を行います。さまざまなDVDやデーターなども利用します。						
評価基準と評価方法	レポート・出席・発表・試験の結果を総合的に判断します。比率は出席・レポート・発表が30%、試験は70%です。						
教科書	竹内・児島・橋本共著「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の教養I／（古典古代の哲学と文芸）						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ソクラテスの生き方と哲学						
授業の概要	西洋の伝統的教養の中核をなす古典ギリシアの学芸のそのまた核心をなした人物がソクラテスである。ソクラテスはどのように生き、どのように死んだのか、彼の活動が古典的哲学精神の精髓であったとともに、現代社会に対して強い訴求力を持つのはいかなる意味においてであるのかを、古代ギリシアにおける哲学の誕生にさかのぼって考察する。						
到達目標	ソクラテスの生き方と対話の哲学を学び知ることによって、言葉のなかで、言葉を使って、ものごとの真実・原因を探求し考察する力を身につける。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション—授業内容の概観 第2回 哲学の始まり—タレス、ピタゴラス、ソクラテス 第3回 ソクラテスの生きた時代と社会—紀元前5世紀の都市国家アテナイ 第4回 ソクラテスの生涯 第5回 ソクラテス裁判と死 第6回 ソクラテスと自然の探求(1) 第7回 ソクラテスと自然の探求(2) 第8回 ソクラテスとソフィストたち(1) 第9回 ソクラテスとソフィストたち(2)、教科書チェックテスト 第10回 ソクラテスの哲学(1)—無知の知 第11回 ソクラテスの哲学(2)—魂の世話 第12回 ソクラテスの哲学(3)—帰納と定義 第13回 ソクラテスの哲学(4)—エレンコス 第14回 ソクラテスの信念 第15回 回顧と展望、講義チェックテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義の進展に沿って教科書や参考文献を自分で読んでゆくこと						
授業方法	教科書やプリント資料を読みながら講義する。受講者はよく話を聞いてノートを取る。						
評価基準と評価方法	授業への参加度や授業態度などの平常点（50%）、チェックテスト（50%）で評価する。						
教科書	『ソクラテス以前以後』（岩波文庫） F.M. コーンフォード著、山田道夫訳 ISBN4-00-336831-2						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の教養II／（進化から考える人間らしさ）						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間らしさを進化から考える						
授業の概要	科学・技術が急速に発達し、社会生活も大幅に変化した現代であるからこそ、自己形成と社会的実践に通底する基盤的能力ともいえる「教養」が必要になっている。「教養」とはまた、多くの情報に溢れた現代社会において、必要な知識を選択したり、応用したり、あるときは物事に対して論理的に批判するための豊かな知識ともの見方を与えてくれる。この授業では、人間自身を対象とした科学的探求について学び考えながら、現代的教養の基礎を築くことを目的とする。						
到達目標	人間自身を対象とした科学的探求について学び考えることができる力を養う。						
授業計画	<p>全体テーマ：進化から考える人間らしさ</p> <p>第1回 人間の悩みを人類進化から考える</p> <p>第2回 人間の祖先はサルって本当？</p> <p>第3回 “原始人”て、どんな人？</p> <p>第4回 ホモ・サピエンスとその多様性</p> <p>第5回 人間が見る世界：人間は他の動物と同じ世界を見ているのか</p> <p>第6回 人間が聞いている音：人間は他の動物と同じ音を聞いているのか</p> <p>第7回 音によるコミュニケーション</p> <p>第8回 変わった動物の変わった世界</p> <p>第9回 道具を使う</p> <p>第10回 人間は真似をする動物である</p> <p>第11回 人間の社会と動物の社会</p> <p>第12回 なぜ群れを作るのか（第1回試験）</p> <p>第13回 協力と助け合い</p> <p>第14回 社会生活が感情を豊かにした</p> <p>第15回 現代社会と人間（第2回試験）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出する小課題50%と試験50%						
教科書	使用しない						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の教養III／（情報革命とグローバリゼーション）						
担当教員	郭 修静						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	情報革命と私たちの生活を考える						
授業の概要	20世紀の後半に始まったコンピュータとインターネットに代表される情報通信技術の急速な発展は、情報革命と呼ばれる。近年、経済のグローバル化や人間移動などにより世界がますます小さくなっている。瞬時の国際的コミュニケーションを可能にしたインターネットの普及は、これにさらに拍車をかけ、異文化接触を日常化させるなど人間生活を大きく変化させつつある。本科目の目的は、このようなグローバリゼーションと情報革命という相関する二つの今日的現象の背景、現状と将来、意義、問題点に対する理解を深めることにある。そして履修者が急速にグローバル化する社会のニーズに的確に対応できる時代感覚を身に付けた教養人となるための一助となることを目指す。						
到達目標							
授業計画	本講では、1960年代からのコンピュータネットワーク発展の歴史を概観し、また、現在私達が日常的に利用しているインターネットのコミュニケーションツールについても学ぶ。単に履修者側が受け身的な授業だけではなく、実際にSNSやtwitterなども操作しグループ討議や発表を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容）							
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	定期試験を行わず、出席・課題の遂行度合い・グループ討議や発表などで総合評価する。						
教科書	特になし。関連する書籍や資料は講義中に紹介する。						
参考書	関連する書籍や資料は講義中に紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の教養Ⅳ／（裁判員のための法律入門）						
担当教員	嶋矢 貴之						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	裁判員裁判と日本の刑事法入門						
授業の概要	2009年5月から、裁判員裁判が導入され、重要な刑事裁判に一般市民（みなさんも含まれます）が参加することとなりました。本講義は、これに関わるための基礎知識、具体的には、裁判員裁判のやり方、わが国の犯罪状況、わが国の刑法等に関するおおよその理解を得て、社会生活上・学問上、いずれにも有益な基礎教養の習得を目指すものです。日々起こる犯罪について、色々な角度から考えてみましょう。						
到達目標	今後裁判員に選ばれて参加するための基礎的な知識を得るのみでなく、日本の犯罪に関する事実や、刑事法に関する知識を獲得し、犯罪報道や社会問題をよりよく理解し、考えられるようになることを目指します。						
授業計画	1 法律とはどのようなものか？－ガイダンス 2 裁判員になるまで－いつ、誰が呼ばれて、どこに行くの？ 3 裁判員裁判の仕組み 4 刑法の基本原則－人を処罰するためのルール 5 日本の犯罪状況はどうなってる？ 6 少年と犯罪－子供だから、か、子供でも、か？ 7 精神障害と犯罪（1）－心神喪失って何？ 8 精神障害と犯罪（2）－治療と処罰の間で 9 犯罪死亡被害と損害賠償－命の代償？ 10 JR尼崎列車事故 過失犯について 11 首都圏連続不審死事件 練炭殺人と結婚詐欺 12 未成年の恋愛と犯罪 13 ストーカー対策と犯罪 14 隣の犯罪者？－刑務所を出た後の犯罪者 15 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：法律に関する基本的知識は不要ですが、各回適宜指示する文献や報道に目を通してください。 授業後学習：授業後に復習して、習った範囲で法律に関する基本的知識を定着させるとともに、法律文献や裁判に関する報道に積極的に目を通すようにしてください。						
授業方法	講義形式で行うことを予定していますが、参加人数によっては興味のある犯罪や事件に関する報告を求め・質問の受付を行い、双方向的に授業を行います。裁判員に関する映像資料の視聴とそのレポート提出も予定していません。						
評価基準と評価方法	試験50%、平常点（レポート・小テスト等）50%						
教科書	なし						
参考書	松井茂記ほか著・はじめての法律学〔第3版〕（有斐閣、2010）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の倫理						
担当教員	濱崎 雅孝						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の諸問題についての倫理的考察						
授業の概要	毎回の講義で、現代社会において起こっている事件や事象を1つか2つ取り上げ、それについて倫理学の立場からどのように考察するかを解説していきます。また受講者1人1人の意見を聞きながら、倫理学においては1つの問題に対して1つの答えがあるとは限らないことを知り、さらに最終的な正解がない問題についてどのように考えていけばよいかを学んでいきます。						
到達目標	社会に出たときにぶつかるであろう様々な人間関係の問題に対して、倫理的に正しく対処する方法を修得する。						
授業計画	第1回 善悪について、倫理とは何か、道徳とは何か 第2回 人間について、私とは誰か、人間らしい生き方とはどういうものか 第3回 犯罪について、少年犯罪は増えているのか、その原因は何か 第4回 社会について、監視社会は平和なのか、社会を作っているのは誰か 第5回 殺人について、なぜ人を殺してはいけないのか 第6回 死刑について、死刑制度は必要か、裁判員制度は必要か 第7回 自殺について、死にたいと言う人を助けることは正しいか 第8回 教育について、なぜ勉強しなければいけないのか、義務教育は必要か 第9回 女性について、男女平等社会は実現できるのか、実現すべきなのか 第10回 母性について、母親になるとはどういうことか、母親の役割とは何か 第11回 父性について、父親の役割とは何か、父親は必要か 第12回 宗教について、宗教は怖いものか、宗教は必要か 第13回 麻薬について、麻薬の恐ろしさと、その犯罪性について 第14回 震災について、阪神大震災と東日本大震災、原発は必要か 第15回 戦争について、なぜ人類は戦争をやめないのか、これからの世界はどうなっていくか						
授業外における学習（準備学習の内容）	特にありません。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験100%						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	講義の中で紹介します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	こころの健康						
担当教員	藤野 真弓						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	より良く生きるために、こころのしくみやこころの病についての知識を得る。						
授業の概要	<p>私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。こころの健康に関する理解を深めるために、こころの病についての知識を得ることは重要である。しかし病気に罹らないことだけが大切なのではない。どのようにすればこころの健やかさを育て、保ち、高めることができるかについて、自分自身のこころと向き合いながら感じる・考える作業が必要であると考えている。従って本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。授業では実際に心理検査やコラージュ療法などをおこない、それらをレポートにまとめる作業を通して自分を知るきっかけになればと考えている。</p>						
到達目標	精神保健への理解を深め、自分なりにこころの健康について考えることができるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健の概要 2 こころはどこにあるのか 3 性格とは 4 ストレスの正体とそのマネージメント 5 大切なものを失ったとき 6 コラージュづくり 7 睡眠 8 タイプA 9 神経症性障害 10 多重人格障害 11 ストレスが原因のこころの病気 12 こころの風邪 うつ病 13 自分づくりがうまくいかない！ 摂食障害 14 脳の不調和 統合失調症 15 まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	配布したプリントの復習						
授業方法	毎回のテーマに沿った講義と、実際に課題に取り組んでレポートにまとめる作業をおこなう						
評価基準と評価方法	出席状況と授業中に課すレポートの評価（6割）、定期試験（4割）を総合評価する						
教科書	毎回資料を配布する						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	こころの健康						
担当教員	藤野 真弓						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	より良く生きるために、こころのしくみやこころの病についての知識を得る。						
授業の概要	<p>私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。こころの健康に関する理解を深めるために、こころの病についての知識を得ることは重要である。しかし病気に罹らないことだけが大切なのではない。どのようにすればこころの健やかさを育て、保ち、高めることができるかについて、自分自身のこころと向き合いながら感じる・考える作業が必要であると考えている。従って本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。授業では実際に心理検査やコラージュ療法などをおこない、それらをレポートにまとめる作業を通して自分を知るきっかけになればと考えている。</p>						
到達目標	精神保健への理解を深め、自分なりにこころの健康について考えることができるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健の概要 2 こころはどこにあるのか 3 性格とは 4 ストレスの正体とそのマネージメント 5 大切なものを失ったとき 6 コラージュづくり 7 睡眠 8 タイプA 9 神経症性障害 10 多重人格障害 11 ストレスが原因のこころの病気 12 こころの風邪 うつ病 13 自分づくりがうまくいかない！ 摂食障害 14 脳の不調和 統合失調症 15 まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	配布したプリントの復習						
授業方法	毎回のテーマに沿った講義と、実際に課題に取り組んでレポートにまとめる作業をおこなう						
評価基準と評価方法	出席状況と授業中に課すレポートの評価（6割）、定期試験（4割）を総合評価する						
教科書	毎回資料を配布する						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	こころの健康						
担当教員	前原 真比子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的な考察						
授業の概要	現代に生きる私達は、急激な時代の変化や価値観の多様化に伴い、社会生活や対人関係において様々なストレスの影響を受け、主体的に生きることの難しさを抱えている。現代人にとって「こころの健康」は、生き生きとした生活を営む上での大切な指標となる。本講義ではストレスについて心理学的に考察する中で心の病について概説し、その予防及び対処法を学ぶ。また、授業では実際にストレスマネジメントに関する体験的学習（リラクゼーションや質問紙等）を取り入れながら学習を進める。その過程で自分を振り返り、自分が感じていることへの気づきを土台にして自己理解を深める。そしてストレスや心の病に関する知識と自己理解を総合し、各自が主体的なセルフコントロール法を工夫できる機会となればと考えている。						
到達目標	臨床心理学に関連する知識や事例を学ぶことで、こころの健康に対する理解を深める。知識だけではなく、体験的学習も実施し、自己理解、他者理解をより深めることを目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 自己理解と他者理解（自己開示と傾聴） 第3回 心理療法から学ぶ（来談者中心療法） 第4回 心理療法から学ぶ（精神分析） 第5回 心理療法から学ぶ（交流分析、エゴグラム） 第6回 心理療法から学ぶ（論理療法、アサーション） 第7回 心理療法から学ぶ（行動療法、森田療法、内観療法 他） 第8回 心理社会的発達とこころの健康 第9回 ストレスとこころの健康（ストレスチェック、コーピング） 第10回 ストレスとこころの健康（メンタルヘルスの基礎知識、うつへの理解） 第11回 トラウマティック・ストレスとは 第12回 犯罪被害者（遺族）の心の傷 第13回 関係性の病理（児童虐待） 第14回 関係性の病理（ドメスティックバイオレンス） 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容に関連する書物、新聞記事など、常に目を通しておくこと						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席点50%（感想文提出）、テスト（最終講義時）50%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】 提出物評価【50%】、 演習評価【20%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの用い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】 提出物評価【50%】、 演習評価【20%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの用い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】 提出物評価【50%】、 演習評価【20%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】 提出物評価【50%】、 演習評価【20%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	災害と防災						
担当教員	池田 清・村井 雅清・津久井 進						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	東日本大震災にみられるように、災害と防災に対する関心が背高まってきている。地球温暖化や都市化が、今までになかったような大災害の要因になっている点も指摘され、災害と防災に関する正しい知識と理解が社会生活を営む上で必須となっている。						
授業の概要	本科目は、地震、津波、原発事故、戦争など多様な災害について、発生要因と発生のメカニズム、被災態様、被害への影響、復興のあり方、災害への備えなどについて総合的に理解することを目的とする。また、被災者の心や生活、被災者支援、復興をめぐる問題なども取り上げる。						
到達目標	大災害と復興のあり方は、私たちひとり一人の生き方を問うものであり、災害と防災を学ぶなかで、人間や社会の本質を考える。						
授業計画	第1回 災害とは何か 第2回 自然災害と人工災害 第3回 真の復興とは（1） 第4回 真の復興とは（2） 第5回 真の復興とは（3） 第6回 阪神淡路大震災とボランティア 第7回 東日本大震災とボランティア 第8回 海外支援とボランティア 第9回 ボランティアの課題と展望 第10回 災害救助法とは何か 第11回 災害救助法の仕組み 第12回 災害救助法の種類 第13回 災害救助法の課題と展望 第14回 阪神・淡路大震災と東日本大震災（1） 第15回 阪神・淡路大震災と東日本大震災（2）						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞などニュースを通じ社会の動きに関心を持つ。						
授業方法	講義を基本としビデオなどをみて学ぶ。						
評価基準と評価方法	試験50%、平常点50%						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会学概論						
担当教員	大久保 元正						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	「社会」の内容 「社会」と私たちの関係						
授業の概要	「社会」とは、普段はほとんど意識しないのに、間違いなく、いつでもどこでも皆さんを「縛って」いるものです。この「縛り」は、皆さんの重荷になる時もあれば、皆さんの心身を軽くしてくれる時もあります。この授業では、そんな「社会」の正体を1つずつ知っていくことで、「縛り」に振り回されないよう、自分なりに「縛り」と向き合えるようになることを目的とします。						
到達目標	概要に記したような、我々をとり巻く「社会」の中身を知るための、社会学の基本的な概念や理論（つまり社会の見方や捉え方）を、1つずつ習得することを目標とする。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——授業内容紹介 2. 「近代社会」について 3. 自己①——「見る自分」と「見られる自分」 4. 自己②——再帰的な自己へ 5. 行為——欲求・目的・手段 6. 相互作用——地位と役割のはたらき 7. 集団・組織①——集団の分類とはたらき 8. 集団・組織②——大規模な組織のメカニズム 9. 国家——そのはたらきと私達との関係 10. 社会秩序——社会はどうやって「収まって」いるか 11. 全体社会①——大衆社会 12. 全体社会②——消費社会 13. 社会変動①——社会の何がどのように変わるのか 14. 社会変動②——現代の変動：グローバル化 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後にノートを見直して、分からないところがあったら、次回の授業時にどんどん質問してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業ごとの小感想（40%）、期末テスト（60%）						
教科書	なし。						
参考書	なし。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会学概論						
担当教員	大久保 元正						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「現代社会」の内容 「現代社会」と私たちの関係						
授業の概要	私たちが生きているのは「現代社会」です。この「現代社会」は流動的、つまり動きが速くてじっとしていないということでも有名です。私たちは、その中に投げ込まれているのです。この講義では、そんな「現代社会」について様々な角度・テーマから幅広く知ること、動きの速さの根底を見極めることを目的とします。						
到達目標	①私たちが置かれている「現代社会」を見る目を養う。 ②「この社会が他の形ではありえないのか」という「別の可能性」を考える力も養う。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——授業内容の紹介 2. リスク社会——リスクを背負うのは誰か 3. 監視社会——誰が誰を監視するのか 4. 環境管理社会——私達の知らないうちに 5. マクドナルド化社会——「合理性の非合理性」という矛盾 6. 就職・就活——自分と他者をつなぐ営みとして 7. 恋愛と結婚——変わり行くそのかたち 8. 家族——現代の家族はどこへ向かうか 9. 幸福——私たちにとっての幸せ／不幸せのかたちとは 10. 感情——自然に湧きあがるものだけが感情か 11. ジェンダー——男／女の境界を越えて 12. メディア——変容するメディア空間 13. 旅とコンテツ——通過儀礼から「聖地巡礼」まで 14. 流行——現代人は何を求めているか 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後にノートを見直して、分からないところがあったら、次回の授業時にどんどん質問してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業後の小感想（40％）、期末テスト（60％）						
教科書	なし。						
参考書	なし。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会心理学						
担当教員	中里 直樹						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学の個人レベル						
授業の概要	この授業の目的は、社会心理学の基礎について学ぶことです。社会心理学は、身近な他者や所属している集団、社会的環境が私たちの心の動きにどのように影響を与えるかを考える心理学の一分野です。この授業では、社会心理学の研究領域の中から、社会的自己、社会的認知、社会的態度といった個人レベルの事について講義します。 【キーワード】 社会的自己、社会的認知、社会的態度						
到達目標	この授業を受講することで、社会心理学の中の個人レベルについての基礎知識を得ることが出来ます。また、理論的なことのみならず、みなさんの生活にどのように結び付くかについて考える機会を提供できればと思います。						
授業計画	【第1回】 社会心理学イントロダクション：社会心理学の定義と研究法 【第2回】 社会的自己(1)：自分についての知識 【第3回】 社会的自己(2)：自分についての評価 【第4回】 社会的自己(3)：自分と他者との比較 【第5回】 社会的自己(4)：自分についての意識 【第6回】 社会的自己(5)：他者に見せる自分 【第7回】 社会的認知(1)：他者についての印象形成 【第8回】 社会的認知(2)：物事の原因について考える 【第9回】 社会的認知(3)：推論と帰属の誤り 【第10回】 社会的態度(1)：態度の形成と態度変容 【第11回】 社会的態度(2)：バランス理論と認知的不協和理論 【第12回】 社会的態度(3)：説得する側の特徴と説得の技法 【第13回】 社会的態度(4)：説得される側の反応 【第14回】 前期授業の振り返り 【第15回】 前期試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業までに、教科書の該当する箇所を読んでください。 授業後学習：毎授業ごとに配布資料と教科書を用いて、復習してください。						
授業方法	パワーポイントを使って講義形式で授業をおこないます。ほぼ毎回、授業中に課題(感想文形式)に取り組んでもらい、提出を求めます。						
評価基準と評価方法	期末試験（50%）、提出課題（50%）で総合的に評価します。						
教科書	『社会心理学（初版）』（藤原武弘 編著、晃洋書房、2009年、ISBN978-4-7710-2010-8）						
参考書	授業の内容をまとめたプリントを配布します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会生活Ⅰ（生活と家族）						
担当教員	竹田 美知						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族について理解する。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークを考える。授業はライフコース上の諸問題とその対処方法を家族関係学観点から探る。						
授業の概要	家族関係を分析する諸概念や理論を解説する。それらの方法を、現実に行っている諸現象に適用して、その有効性と限界を確認する。また現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。						
到達目標	知識 現代家族の問題を多角的にとらえられる。 能力 家族関係学の視点からその支援や援助サービスのあり方について検討できる						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年期と異性交際 2. 配偶者選択 3. 家族の概念と定義 4. 家族の形態とその変化 5. 少子化とその原因分析 6. 家族関係を分析する理論—役割理論— 7. 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論— 8. 家族関係を分析する理論—ライフコース理論— 9. 人間関係を分析する理論—コーホート理論— 10. 高齢社会と家族 11. 家族の多様化 12. 家族とグローバリゼーション 13. 夫婦関係と法律 14. 親子関係と法律 15. まとめ・期末試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代家族に関する資料を読み、その内容をまとめてレポートをしてくる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小レポートと期末試験（授業中の小レポート40％ 期末試験 60％）						
教科書	よくわかる現代家族 ミネルヴァ書房 神原文子・杉井潤子・竹田美知編著 ISBN 9784623053445						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会生活II（神戸論）						
担当教員	池田 清						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業では、都市社会のモデルとして近代的都市の典型として神戸を取り上げ、都市生活における政治的、行政的、経済的、文化的諸問題とこれからの課題を検証する。						
授業の概要	神戸の歴史を理解するために具体的事例から学ぶ。また阪神・淡路大震災を経験した都市として、被災地神戸の問題を検証することで、今後、都市で起こりうる災害に対する対処する方法と課題について考える。						
到達目標	これからのまちづくりは、自分の身近な生活や文化の視点から問題を考えることが大切である。						
授業計画	第1回 授業の狙いと概要の説明 第2回 神戸の歴史（古代） 第3回 神戸の歴史（中世） 第4回 神戸の歴史（近世） 第5回 神戸の歴史（近代） 第6回 神戸の歴史（現代） 第7回 神戸市の都市経営 第8回 神戸の文化とまちづくり 第9回 キリスト教とまちづくり 第10回 都市づくりと阪神・淡路大震災 第11回 神戸市の都市経営と阪神・淡路大震災 第12回 復興政策とまちづくり 第13回 復興災害と被災者の生活再建 第14回 真の復興とは 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌、ニュースなど社会の動きに関心を持つ。						
授業方法	講義を中心にビデオなどを活用する。						
評価基準と評価方法	試験60%、平常点40%						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会福祉概論						
担当教員	中村 和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活におけるの楽しい生活とは何かを社会福祉から考える						
授業の概要	「人間とは何か」、「どう生きていくか」、そして「幸せとは何か」について社会福祉の基礎を学びながら考えていく。また、私たちが楽しい生活を送るために社会福祉の制度などがどのように影響しているのかグループでワークシートを使用しながら各自の考えを構築させていく。高齢者の項目では、徘徊の目的を視覚教材を使用しながら考え、介護や施設について一部の内容はアメリカの経験や取材を紹介する。						
到達目標	社会福祉の基本内容と制度を学ぶことで、将来の自分自身の生活や職場等で必要に応じて学んだことを参考として活用することを目的とする。また、ワークシートを使用することで、授業参加型を一部導入し、現状や対策、改善などについて「考える」、「考えていることを構築していく」、そして「他者の考えを聞きながら更に自分の考えに目を向けるなど「考える力」を強めることも目的とする。						
授業計画	第1回 社会福祉とは（楽しい生活とは、概念）、シラバス紹介 第2回 社会福祉とは（概念と原理、告知）、シラバスの復習 第3回 ボランティア（ボランティアとは、ボランティアの経験と紹介、ワークシート1） 第4回 社会福祉の歴史（戦後と視覚教材使用） 第5回 社会福祉の歴史（高度経済成長後、ワークシート2） 第6回 結婚・家庭と制度（結婚とは、現在の家族、生活保護） 第7回 結婚・家庭と制度（出産・離婚、親子関係、ワークシート3） 第8回 結婚・家庭と制度（親子関係と虐待、里親制度、特別養子縁組、ワークシート4） 第9回 結婚・家庭と制度（雇用と新卒と中高年） 第10回 結婚・家庭と制度（雇用と制度、ワークシート5） 第11回 障害者（身体・知的・精神障害者、ジョブコーチ、依存症と自助グループ） 第12回 障害者（身体障害者補助犬法と視覚教材使用、援助事例、ワークシート6） 第13回 高齢者（人口と年金、ワークシート7、介護と介護制度） 第14回 高齢者（アメリカと日本の事例から徘徊と音楽療法、視覚教材学習、後見人制度） 第15回 高齢者（ワークシート8）、小レポートを使ってのワークシート9、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	(1) ワークシート作成のために授業中に各自が授業内容（板書）とそれ以外の内容もノートに取る（記述していく）こととその復習をすること。 (2) 小テストのために授業中のノートを中心にテスト前に必ず学習すること。						
授業方法	講義形式（授業ノートを取っていく。講義のためのシラバスを配布することもある）、視覚教材、考える・その考えを構築させていくためのワークシート使用（主にグループで）						
評価基準と評価方法	小テスト2回（50%）、小レポート1回（10%）、ワークシート（40%）						
教科書	使用しない。						
参考書	使用しないが、「参考」として授業で紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生涯発達心理学A／生涯発達心理学1						
担当教員	柳原 利佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。						
授業の概要	<p>人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では胎児期・乳児期・幼児期・児童期を扱う。</p> <p>個体の発達の変化のイメージを描き、各発達段階における理論と自分自身の経験とをすり合わせることにより、人間発達に関する一層の理解を深めてもらいたい。</p>						
到達目標	生涯発達という視点を持ち、子どもの発達について、各発達段階の特徴を理解できるようになります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達とは、性の分化 2. 発達の一般的傾向 3. 遺伝と環境 4. 発達初期におけるヒトの特殊性 5. アヴェロンの野生児（映画鑑賞） 6. 野生児の記録 小テスト1 7. 発達課題・発達段階（ハヴィガースト） 8. 発達課題・発達段階（エリクソン） 9. 愛着理論と親子関係 10. 愛着行動と測定 小テスト2 11. 知覚の発達 12. 感情の発達 13. 思考の発達 14. 自己概念の発達 小テスト3 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌記事などに掲載されている子どもの発達や教育に関する情報に注目しておくこと。小テストを3回実施しますので、各回の講義内容を復習し、理解を深めておいてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末テスト70%，小テスト30%						
教科書	プリント使用。						
参考書	講義中に紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生涯発達心理学B／生涯発達心理学2						
担当教員	柳原 利佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。						
授業の概要	<p>人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では青年期以降を扱う。</p> <p>前半では「自分を知る」をテーマとして、自己への問い直し、職業選択、後半では「家族の一員としての自分の位置づけ」をテーマとして、恋愛、結婚などに伴う男女の関係や親子関係、家族の再構成などのさまざまなライフイベントについての将来展望を構築し、生涯発達の視点を理解することを目指す。</p>						
到達目標	生涯発達という視点を持ち、青年期9以降の人間の発達について、各発達段階の特徴と現代社会が抱える問題点を理解できるようになります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション～世代を超えた発達の影響 2. 身体の認知 3. 性役割観 4. アイデンティティの形成 ―エリクソンの発達理論 5. パーソナリティの発達・小テスト1 6. パーソナリティの測定 7. 自己の統合 ―現実自己と理想自己 8. ストレスとその対処 9. 前半の補足とまとめ 10. 配偶者選択・小テスト2 11. 子どもを持つという選択 12. 少子化問題の現状 13. 少子化2問題からみた女性の生き方 14. 老親扶養・小テスト3 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌記事などに掲載されている人間の発達や生き方に関する情報に注目しておいてください。小テストを3回実施しますので、各回の講義内容を復習し、理解を深めておいてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末テスト70%、小テスト30%						
教科書	プリント使用。						
参考書	講義中に紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	食物と健康						
担当教員	原 正之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物の摂取、消化、吸収、代謝、しくみの解説と、現代の食物や健康維持に関わる話題（安全に健やかに食べる こと、栄養を摂ること、とは何か？）						
授業の概要	前半では食物の消化と吸収のしくみや、血液による栄養分の循環と老廃物の排泄について解説する。次に、蛋白質、糖質、脂質の代謝とこれに影響を与えるビタミンやホルモンの役割について解説し、さらに体外から取り込んだ薬物や異物の代謝についても触れる。代謝についてのこれらの基礎的な知識をふまえた上で、後半では脳神経系を介した食欲の調節機構、人体の概日リズム（体内時計）、健康食品、食品の安全性についての話題など、いくつかの関心の高いトピックスについて内容を解説する。						
到達目標	健康な食生活や食品の安全性について、氾濫する宣伝に惑わされずに、科学的に正確な情報を求め、考えてみる習慣を身につける。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物の消化と吸収のしくみ 2. 栄養分の循環と老廃物の排泄 3. 蛋白質の代謝 4. 糖質の代謝 5. 脂質の代謝 6. 薬物や異物の代謝 7. ミネラルの代謝 8. ビタミンの役割 9. ホルモンの働き 10. 食欲の調節機構 11. 人体の概日リズム 12. 健康食品について 13. 生活習慣病 14. 飲酒と喫煙 15. 全体のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞などで報道される食糧問題、農業問題、食品安全性、等についての記事に良く目を通して、必要であれば切り抜いておく。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点50%と課題レポート提出50%により、評価する						
教科書	教科書は特に指定しない。						
参考書	基礎栄養学（第3版、脊山洋右、野口忠、編、スタンダード栄養・食物シリーズ9、東京化学同人 ISBN978-4-8079-1604-7）。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	自然科学史A						
担当教員	古田 雅一						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	自然科学の歴史学習						
授業の概要	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩み、特に科学技術の芽生えが見られる古代文明、古代ギリシャで結実した科学の古典的枠組みの成立と中世における変遷について歴史、世相を踏まえて包括的に論じます。						
到達目標	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩みを紀元前4000年頃の古代ギリシャから近代に至るまで包括的に論じ、先人たちの偉業が現代の我々の生活にどのように関わっているのかについて理解を深めます。またこれらの理解をもとに現在の科学技術に対してよく考え、分かりやすく次世代に伝えていく力を養うことを目標とします。						
授業計画	第1回、オリエンテーション、自然科学史とは何か（講義の概要） 第2回、地球の誕生から生命の誕生へ（化石が示す生物の進化） 第3回、地球環境の変化と生物の進化 第4回、ヒト（ホモサピエンス）の誕生、 第5回、第6回、科学の黎明Ⅰ（先史時代：火の使用、古代メソポタミア、古代エジプト、古代インド） 第7回、第8回、科学の黎明Ⅱ（古代ギリシャ、古代ローマ、古代中国における科学の萌芽） 第9回、中間まとめ 第10回、中世をリードしたイスラム科学（錬金術、数学、物理学、天文学など） 第11回、中世ヨーロッパの科学（キリスト教的世界観の下での科学技術の動向） 第12回、ルネサンス時代の科学（芸術の復活、再生の中で科学技術の推移） 第13回、大航海時代の科学技術 第14回、近代科学の幕開け（近代ヨーロッパの形成と科学技術の推移発展） 第15回、授業の総まとめとレポートの書き方						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：教科書を復習しながら学んだことをもう一度簡単に整理し、要点をまとめてください。レポート作成等の役に立ちます。参考書を利用してさらに理解を深めてください。疑問が生じたら次の授業で積極的質問しましょう。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点60%、期末テストまたはレポート40% 欠席した場合は平常点を減点する。						
教科書	橋本浩 著 「早わかり科学史」 日本実業出版社						
参考書	木下康彦、木村靖二、吉田寅 編 「詳説 世界史研究」 山川出版社 Ch. シンガー著 伊藤俊太郎、木村陽二郎、平田寛訳 「科学思想のあゆみ」 岩波書店 大自然科学史 新訳；1-4 / フリードリヒ・ダンネマン著；安田徳太郎訳編						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	自然科学史B						
担当教員	古田 雅一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	自然科学の歴史学習						
授業の概要	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩み、特に中世以降の自然科学の発展と変遷について歴史、世相を踏まえて包括的に論じます						
到達目標	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩みを、特に中世以降の科学の飛躍的な発展について論じ、先人たちの偉業が現代の我々の生活にどのように関わっているのかについて理解を深めます。またこれらの理解をもとに現在の科学技術に対してよく考え、分かりやすく次世代に伝えていく力を養うことを目標とします。						
授業計画	第1回、オリエンテーション、自然科学史とは何か(講義の概要) 第2回、花開く近代科学の時代Ⅰ(科学的思考の芽生え、宗教的世界観からの独立) 第3回、花開く近代科学の時代Ⅱ(16～17世紀に活躍した科学者たち：物理、天文学) 第4回、花開く近代科学の時代Ⅲ(16～17世紀に活躍した科学者たち：化学、生物学) 第5回、中国、日本の科学(中世から近世にかけてのアジア地域の科学技術の発展)Ⅰ 第6回、中国、日本の科学(中世から近世にかけてのアジア地域の科学技術の発展)Ⅱ 第7回、中間まとめ 第8回、現代科学の幕開けⅠ(産業革命前夜の歴史、世相と科学技術) 第9回、現代科学の幕開けⅡ(産業革命に伴う資本主義の発展と科学技術) 第10回、20世紀の科学の光と影Ⅰ(20世紀の科学の巨人たち、物理学) 第11回、20世紀の科学の光と影Ⅱ(20世紀の科学の巨人たち、科学、生物学) 第12回、20世紀の科学の光と影Ⅲ(20世紀の戦争と科学技術) 第13回、現代の科学Ⅰ(第二次世界大戦後の科学) 第14回、現代の科学Ⅱ(現代の最先端科学とこれからの科学の方向性は) 第15回、授業の総まとめ、レポートの書き方						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：教科書を復習しながら学んだことをもう一度簡単に整理し、要点をまとめてください。レポート作成等の役に立ちます。参考書を利用してさらに理解を深めてください。疑問が生じたら次の授業で積極敵に質問しましょう。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点60%、期末テストまたはレポート40% 欠席した場合は平常点を減点する。						
教科書	適宜プリントを配付する ただし、既に『橋本浩 著 「早わかり科学史」 日本実業出版社 』を持っている人は持参すること。						
参考書	木下康彦、木村靖二、吉田寅 編 「詳説 世界史研究」 山川出版社 Ch. シンガー著 伊藤俊太郎、木村陽二郎、平田寛訳 「科学思想のあゆみ」 岩波書店 大自然科学史 新訳；5-13 / フリードリヒ・ダンネマン著；安田徳太郎訳編						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	心理学概論						
担当教員	堤 俊彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活において私たちが遭遇する事象や問題について、心理学的な視点から理解し、その基礎となる人間の心のメカニズムや行動の成り立ちを把握します。						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識です。しかし、心と意識は同じではありません。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところで様々な行動として表れます。それゆえ、心と行動について学ぶ必要があります。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っています。この授業では心理学を概観し、普段あたり前のように思っている心の働きの不思議について学びます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 心理学理論を学ぶことによって、人の理解とその技法の基礎を理解する。 (2) 成長と発達の過程における心理学との関係について理解する。 (3) 心理学の知見や考え方を日常生活に応用する能力を得る。 						
授業計画	第1回 心理学とは 第2回 科学としての心理学 第3回 こころの発達 第4回 認知と発達 第5回 心のはたらき 第6回 感覚知覚 第7回 パーソナリティ 第8回 社会と対人の心理 第9回 脳と知能 第10回 ストレスと心の健康 第11回 学習 第12回 発達障害 第13回 動機づけ 第14回 心理と臨床 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義の前に配布されたテキストを読んでおいてください。 (2) 予習のために配布されたテキストを読み予習レポートを提出してください。 						
授業方法	各回の講義は予習テキストを必読し、その内容についてパワーポイントを使用し解説する形を進めます。また、講義テーマのよりよい理解を進めるために、映画や実験、調査場面などのDVD視聴により、日常生活における心理学がどのように応用されているかに関した知見を得ます。						
評価基準と評価方法	ミッドタームテスト+ファイナルテスト（50%）、予習レポート（30%）、毎講義後のふり返り（20%）を総合して評価とします。						
教科書	使用しません（各授業で資料を配布します）。						
参考書	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー 山田富美雄（編） 出版社：北大路書房（1997/08） ISBN-10: 4762820857						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	心理学概論						
担当教員	堤 俊彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活において私たちが遭遇する事象や問題について、心理学的な視点から理解し、その基礎となる人間の心のメカニズムや行動の成り立ちを把握します。						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識です。しかし、心と意識は同じではありません。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところで様々な行動として表れます。それゆえ、心と行動について学ぶ必要があります。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っています。この授業では心理学を概観し、普段あたり前のように思っている心の働きの不思議について学びます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 心理学理論を学ぶことによって、人の理解とその技法の基礎を理解する。 (2) 成長と発達の過程における心理学との関係について理解する。 (3) 心理学の知見や考え方を日常生活に応用する能力を得る。 						
授業計画	第1回 心理学とは 第2回 科学としての心理学 第3回 こころの発達 第4回 認知と発達 第5回 心のはたらき 第6回 感覚知覚 第7回 パーソナリティ 第8回 社会と対人の心理 第9回 脳と知能 第10回 ストレスと心の健康 第11回 学習 第12回 発達障害 第13回 動機づけ 第14回 心理と臨床 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義の前に配布されたテキストを読んでおいてください。 (2) 予習のために配布されたテキストを読み予習レポートを提出してください。 						
授業方法	各回の講義は予習テストを必読し、その内容についてパワーポイントを使用し解説する形を進めます。また、講義テーマのよりよい理解を進めるために、映画や実験、調査場面などのDVD視聴により、日常生活における心理学がどのように応用されているかに関した知見を得ます。						
評価基準と評価方法	ミッドタームテキスト＋ファイナルテスト（50%）、予習レポート（30%）、毎講義後のふり返り（20%）を総合して評価とします。						
教科書	使用しません（各授業で資料を配布します）。						
参考書	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー 山田富美雄（編） 出版社：北大路書房（1997/08） ISBN-10: 4762820857						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	心理学概論						
担当教員	中里 直樹						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	様々な心理学の分野						
授業の概要	<p>この授業の目的は、私たちの心の動きや行動について考える学問である心理学の基礎を学ぶことです。具体的には、パーソナリティ心理学、社会心理学、基礎心理学、発達心理学、健康心理学、臨床心理学などの各分野の基礎について講義します。</p> <p>【キーワード】 パーソナリティ心理学、社会心理学、発達心理学、基礎心理学、健康心理学、臨床心理学</p>						
到達目標	この授業を受講することで、心理学とはどのような学問なのか、心理学にはどのような分野があるのかを理解できるようになります。また、人間の心と行動について理解を深める機会を提供できればと思います。						
授業計画	<p>【第1回】 心理学概論イントロダクション：心理学とは何か？ 【第2回】 パーソナリティ心理学(1)：パーソナリティとは何か？ 【第3回】 パーソナリティ心理学(2)：ビッグ・ファイブ理論 【第4回】 パーソナリティ心理学(3)：パーソナリティの変化可能性 【第5回】 社会心理学(1)：態度と説得的コミュニケーション 【第6回】 社会心理学(2)：集団と個人 【第7回】 基礎心理学(1)：知覚・記憶 【第8回】 基礎心理学(2)：学習 【第9回】 発達心理学：子供時代の発達 【第10回】 健康心理学(1)：ストレスとは何か？ 【第11回】 健康心理学(2)：ストレスへの対処方法 【第12回】 健康心理学(3)：ストレスに対する予防策 【第13回】 臨床心理学(1)：抑うつ の定義と発症プロセス 【第14回】 臨床心理学(2)：抑うつ の治療方法 【第15回】 前期試験とまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：毎授業ごとに配布資料を用いて、復習してください。						
授業方法	パワーポイントを使って講義形式で授業をおこないます。ほぼ毎回、授業中に課題(感想文形式)に取り組んでもらい、提出を求めます。						
評価基準と評価方法	期末試験（50%）、提出課題（50%）で総合的に評価します。						
教科書	授業の内容をまとめたプリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ジェンダー論入門／女性論I						
担当教員	三宅 あつ子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダー論の基礎						
授業の概要	<p>ジェンダーとは、「社会的、文化的な性差」と一般に訳されます。先天的なものではなく、文化的に身につけた、あるいは、作られた性差の概念の事です。この授業では、生物学的性（？）とジェンダーの違い、なぜ、ジェンダーについて学ぶ必要があるのか、ジェンダー概念、ジェンダー研究の成果について勉強します。</p> <p>女性である皆さんが、どうやって自分らしく生きるかということについて、多くの情報を取り入れ、それに基づいて考え、そして意見を交わす授業です。</p> <p>これまでの女性の生き方を正確に知り、現在女性が抱えている問題を身近なところから検証しつつ、皆さん自身の未来へとつなげていきたいと思ひます。</p>						
到達目標	ジェンダー、女性問題について勉強し、どうやって自分らしく生きるかということについて考えられるようになる。						
授業計画	<p>第1回 授業のオリエンテーション（授業の目的、授業の進め方、評価の方法など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考書の紹介 ・アンケート <p>第2回 第1章 女であることの損・得/ 男であることの損・得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セックスとジェンダー <p>第3回 第2章 作られる、＜男らしさ＞＜女らしさ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンガの感想 <p>第4回 女性学とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性運動・女性の歴史 <p>第5回 第3章 ジェンダーに敏感な教育のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隠れたカリキュラム <p>第6回 第4章 恋愛の女性学・男性学</p> <p>第7回 第5章 労働とジェンダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接差別と間接差別 <p>第8回 セクシュアル・ハラスメント</p> <p>第9回 第6章 多様な家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専業主婦の問題 <p>第10回 夫婦別姓・リプロダクティブ・ライツ</p> <p>第11回 ドメスティック・バイオレンス</p> <p>第12回 第7章 育児はだれのもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアと子供文化 <p>第13回 第8章 国際化の中の女性問題・男性問題</p> <p>第14回 男女共同参画社会</p> <p>第15回 前期授業のまとめとテスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内で発表します。						
授業方法	講義とテキストの問題に対する意見を書いて考える。						
評価基準と評価方法	小レポート（20%）期末テスト（50%）平常点（ビデオの感想を含む）（30%）						
教科書	『女性学・男性学 改訂版 ジェンダー論入門』 伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子 著 有斐閣アルマ ISBN 978-4-641-12428-8						
参考書	授業中に発表します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性と健康						
担当教員	大塚 優子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	健康についての正確な情報、知識の修得						
授業の概要	健やかに生きるということは、全ての人が互いの人権を尊重し、能力を十分に発揮することに他なりません。特に女性は、妊娠・出産という男性と異なる特質を有しているため、さまざまな配慮が必要になってきます。本授業では、基本知識として健康概念を学習し、その理解を前提に、女性の生涯を通じた健康についてライフステージごとにテーマを設定し、さまざまな観点から健康を問い直していきます。						
到達目標	1、健康の真の意味が理解できるようになります。 2、健康は社会的、政治的、経済的状況によっても左右されるということが理解されます。						
授業計画	第1回 女性の健康概念と基本理論①WHO憲章、女性差別撤廃条約、国際人口・開発会議行動計画、世界女性会議行動綱領 第2回 女性の健康概念と基本理論②ジェンダー 第3回 女性の健康概念と基本理論③男女共同参画 第4回 女性の健康概念と基本理論④リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 第5回 生涯を通じた女性の健康①青年期～セクシュアリティ 第6回 生涯を通じた女性の健康②青年期～性被害・性行動 第7回 生涯を通じた女性の健康③青年期～薬物・喫煙・飲酒 第8回 生涯を通じた女性の健康①妊娠・出産期～母子保健 第9回 生涯を通じた女性の健康②妊娠・出産期～不妊 第10回 生涯を通じた女性の健康①育児期～虐待 第11回 生涯を通じた女性の健康②育児期～DV 第12回 生涯を通じた女性の健康③育児期～WLB 第13回 生涯を通じた女性の健康①中年期～介護 第14回 生涯を通じた女性の健康①老年期～男性の生き方 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：次回の授業内容を事前に告知します。教科書を読んでおいてください。 授業後学習：授業時にレジュメプリントを配布します。そのプリントに学んだことを整理しまとめてください。まとめたプリントは提出していただきます。理解できなかったことは次の授業で質問をしてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験50%、提出物（レポートなど）50%						
教科書	『ジェンダー白書6 女性と健康』北九州市立男女共同参画センター‘ムーブ’編 明石書店 ISBN978-4-7503-2744-0						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性と健康						
担当教員	大塚 優子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	健康についての正確な情報、知識の修得						
授業の概要	健やかに生きるということは、全ての人が互いの人権を尊重し、能力を十分に発揮することに他なりません。特に女性は、妊娠・出産という男性と異なる特質を有しているため、さまざまな配慮が必要になってきます。本授業では、基本知識として健康概念を学習し、その理解を前提に、女性の生涯を通じた健康についてライフステージごとにテーマを設定し、さまざまな観点から健康を問い直していきます。						
到達目標	1、健康の真の意味が理解できるようになります。 2、健康は社会的、政治的、経済的状況によっても左右されるということが理解されます。						
授業計画	第1回 女性の健康概念と基本理論①WHO憲章、女性差別撤廃条約、国際人口・開発会議行動計画、世界女性会議行動綱領 第2回 女性の健康概念と基本理論②ジェンダー 第3回 女性の健康概念と基本理論③男女共同参画 第4回 女性の健康概念と基本理論④リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 第5回 生涯を通じた女性の健康①青年期～セクシュアリティ 第6回 生涯を通じた女性の健康②青年期～性被害・性行動 第7回 生涯を通じた女性の健康③青年期～薬物・喫煙・飲酒 第8回 生涯を通じた女性の健康①妊娠・出産期～母子保健 第9回 生涯を通じた女性の健康②妊娠・出産期～不妊 第10回 生涯を通じた女性の健康①育児期～虐待 第11回 生涯を通じた女性の健康②育児期～DV 第12回 生涯を通じた女性の健康③育児期～WLB 第13回 生涯を通じた女性の健康①中年期～介護 第14回 生涯を通じた女性の健康①老年期～男性の生き方 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：次回の授業内容を事前に告知します。教科書を読んでおいてください。 授業後学習：授業時にレジュメプリントを配布します。そのプリントに学んだことを整理しまとめてください。まとめたプリントは提出していただきます。理解できなかったことは次の授業で質問をしてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験50%、提出物（レポートなど）50%						
教科書	『ジェンダー白書6 女性と健康』北九州市立男女共同参画センター‘ムーブ’編 明石書店 ISBN978-4-7503-2744-0						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性と法						
担当教員	関根 由紀						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の社会保障の法制度						
授業の概要	今日、私たちの日常的な社会生活の安定は、国・地方公共団体が整備する様々な社会保障制度によって支えられています。しかしこれらの制度は人口が増え生活スタイルが多様になるにつれて、複雑化し、我々市民にとって、とても理解しづらいものになってしまっています。この授業では、社会保障制度の基本的考え方をまず学び、最も基本的な制度（医療、年金、労働保険、介護保険、福祉諸制度）について考え方・仕組みを学んでいきます。						
到達目標	わが国の社会保障制度の基本的な考え方を理解し、社会保障制度の機能や基本的な仕組みに関する知識を習得します。						
授業計画	第1回：社会保障の基本的な考え方① 第2回：社会保障の基本的な考え方② 第3回：医療保険の仕組み① 健康保険と国民健康保険 第4回：医療保険の仕組み② 老人保健と高齢者医療 第5回：医療保険の仕組み③ 民間の医療保険と混合診療 第6回：年金の仕組み① 国民年金 第7回：年金の仕組み② 厚生年金と企業年金 第8回：労働者保険① 労災保険の仕組み 第9回：労働者保険② 雇用保険の仕組み 第10回：介護保険の仕組み① 介護保険の考え方 第11回：介護保険の仕組み② 介護保険と利用者の支援 第12回：社会福祉の仕組み① 第13回：社会福祉の仕組み② 第14回：生活保護とは 第15回：質疑応答および期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前の学習：可能な限りで、その授業で扱う制度に関する配布資料を一読してきてください。 授業後の学習：復習は簡単でもよいので、授業内容の習得に非常に有効です。その日の授業内容を再読し、要点をまとめる簡単な作業を行ってください。						
授業方法	ゼミ形式（少人数・双方向）						
評価基準と評価方法	平常点：30% 期末テスト：70%						
教科書	特に使用しない						
参考書	『トピック社会保障法』第6版 原田啓一郎、田中秀一郎、他著 信山社（2012年）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性と法						
担当教員	関根 由紀						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	働く人の法律（労働法の基礎知識）						
授業の概要	今日、「働く」ということはもちろん生活の「糧」を得るために重要ですが、自己実現の手段でもあります。働きに行くことはつらくもあり、しかしそれによって自己を実感することもできるのです。そのためには、会社側、労働者側の双方が一定のルールを守ることが必要であり、その多くが「労働法」で定められているのです。この授業では労働法の基本を勉強します。						
到達目標	採用から退職までの、職場の秩序維持のためのルール、給料や退職金のルールなど、働く人に関わる法律の基礎的知識を修得する。						
授業計画	第1回：はじめに・労働法とは何か 第2回：採用の時のワークルール 第3回：社内のルール 第4回：労働時間と休暇 第5回：給料・ボーナス 第6回：転勤・異動 第7回：出産・子育てと仕事 第8回：セクハラ・パワハラに関するルール 第9回：解雇・退職 第10回：労働法の形成・法と現実のギャップ 第11回：社会保険の加入ルール 第12回：仕事と私生活 第13回：職場で困ったら？ 第14回：まとめ・労働法の意義 第15回：質疑応答および期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：可能な限りで、その授業で扱う章（Chapter）を一読してきてください。 授業後：復習は簡単でもよいので、授業内容の修得に非常に有効です。その日の授業内容を再読し、要点をまとめる簡単な作業を行ってください。						
授業方法	双方向の授業を行います。授業中は皆さんに色々な質問をし、意見を聞きながら講義を進めます。						
評価基準と評価方法	平常点：30% 期末テスト：70%						
教科書	『貴女が知らなければならない55のワークルール』 大内伸哉 著（労働調査会 2013）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性とメディア／女性論Ⅱ						
担当教員	三宅 あつ子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアなどにおける女性の表象						
授業の概要	この授業は、主にメディア（新聞、ニュース、雑誌、広告など）が女性（そして男性）のイメージをどのように描いてきたか検証し、その裏にはどんな社会構造の問題やジェンダーの固定観念があるのかを探っていく。又、メディア以外にもおとぎ話やアニメや絵画とジェンダーの問題も実際に鑑賞しながら考察する。						
到達目標	さまざまな女性の表象を考察することによって、私たちを取り巻くジェンダーイメージや問題を認識し、自分らしい生き方についての意見を持つ。						
授業計画	<p>第1回 後期授業のオリエンテーション（授業の進め方、評価など）</p> <p>第2回 ことばとジェンダーイメージ ・差別的表現</p> <p>第3回 メディア・リテラシー（1） ・メディアの読み取り方・広告</p> <p>第4回 ファッション雑誌 ・見られる女性</p> <p>第5回 メディア・リテラシー（2） ・ニュースと報道</p> <p>第6回 おとぎ話とジェンダー ・昔話とすりこみ</p> <p>第7回 ディズニー・プリンセス ・『美女と野獣』分析×『シュレック』</p> <p>第8回 まんがとジェンダー ・少女まんがと少年まんが</p> <p>第9回 子供アニメとジェンダー ・ヒーロー・ヒロイン</p> <p>第10回 絵画における女性像 ・偉大な女性画家はいるのか？</p> <p>第11回 母性神話・三歳児神話</p> <p>第12回 母のイメージと幼児虐待</p> <p>第13回 セクシュアリティ・性の多様性 ・男と女という風に二分化ではない</p> <p>第14回 同性愛とメディア ・自分らしい生き方？</p> <p>第15回 後期授業のまとめとテスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	あらかじめ見ておく作品、ビデオなどは、期日までに視聴すること。						
授業方法	講義とさまざまなメディアに対する意見を書いて考える。						
評価基準と評価方法	何回かの小レポート（30%）期末テスト（50%）平常点（ビデオの感想を含む）（20%）						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に発表します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	児童文学を読む						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米や日本の児童文学を中心に、それらの物語や絵本を聴いたり、読んだりすることを通して、子どもと大人にとって児童文学の持つ意味を探る。						
到達目標	児童文学の意味を考えることで、ことばと絵の持つ力、想像力の重要性、これらの文学がなぜ時代を超えて読みつがれてきたのかを学び、文学に関する知識と関心を養う。 また、実際に作品の一部を読んで自分で考えることにより、文章や絵を客観的に分析する力を養う。						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学とは <子どもの本を楽しむ> 第2回：伝承の文学：神話、昔話『三匹のこぶた』を中心に 第3回：絵本の歴史 第4回：日本の物語絵本 第5回：英米の物語絵本 第6回：幼年文学 『クマのプーさん』 第7回：家庭物語 『秘密の花園』 第8回：学校物語 『スパイになりたいハリエットのいじめ解決法』 第9回：冒険物語Ⅰ 『ツバメ号とアマゾン号』シリーズ 第10回：冒険物語Ⅱ 『クローディアの秘密』 第11回：動物物語 『黒馬物語』 第12回：イギリスのファンタジーⅠ 『床下の小人たち』 第13回：イギリスのファンタジーⅡ 『ふしぎの国のアリス』 第14回：アメリカのファンタジーⅠ 『ゲド戦記』シリーズ 第15回：アメリカのファンタジーⅡ 近未来物語『ギヴァー』						
授業外における学習（準備学習の内容）	関心を持った作品や関連作品を読んでください。 児童文学のある図書館や文庫、書店などで、子どもの本とふれる機会をもってほしい。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	レポート50%、授業時の最後に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
教科書	三宅興子・多田昌美共著『児童文学12の扉をひらく』翰林書房						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	児童文学を読む						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米や日本の児童文学を中心に、それらの物語や絵本を聴いたり、読んだりすることを通して、子どもと大人にとって児童文学の持つ意味を探る。						
到達目標	児童文学の意味を考えることで、ことばと絵の持つ力、想像力の重要性、これらの文学がなぜ時代を超えて読みつがれてきたのかを学び、文学に関する知識と関心を養う。 また、実際に作品の一部を読んで自分で考えることにより、文章や絵を客観的に分析する力を養う。						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学とは <子どもの本を楽しむ> 第2回：伝承の文学：神話、昔話『三匹のこぶた』を中心に 第3回：絵本の歴史 第4回：日本の物語絵本 第5回：英米の物語絵本 第6回：幼年文学 『クマのプーさん』 第7回：家庭物語 『秘密の花園』 第8回：学校物語 『スパイになりたいハリエットのいじめ解決法』 第9回：冒険物語Ⅰ 『ツバメ号とアマゾン号』シリーズ 第10回：冒険物語Ⅱ 『クローディアの秘密』 第11回：動物物語 『黒馬物語』 第12回：イギリスのファンタジーⅠ 『床下の小人たち』 第13回：イギリスのファンタジーⅡ 『ふしぎの国のアリス』 第14回：アメリカのファンタジーⅠ 『ゲド戦記』シリーズ 第15回：アメリカのファンタジーⅡ 近未来物語『ギヴァー』						
授業外における学習（準備学習の内容）	関心を持った作品や関連作品を読んでください。 児童文学のある図書館や文庫、書店などで、子どもの本とふれる機会をもってほしい。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	レポート50%、授業時の最後に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
教科書	三宅興子・多田昌美共著『児童文学12の扉をひらく』翰林書房						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	人格心理学						
担当教員	日置 孝一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	パーソナリティに関する諸理論の紹介						
授業の概要	本講義ではヒトを理解するための基本的な枠組みとして、人格（パーソナリティ）に関する研究やその方法論を概括し、自分も含めたヒトについて、様々な角度から理解を深めることを目的とする。						
到達目標	パーソナリティ形成に関わる心理モデルについて理解します。また、各種測定法・実験計画法など心理学の基礎的な知識を学びます。						
授業計画	第1回目：人格（パーソナリティ）心理学とは 第2回目：定義 第3回目：研究史 第4回目：諸理論（1） 第5回目：諸理論（2） 第6回目：パーソナリティと発達（1） 第7回目：パーソナリティと発達（2） 第8回目：パーソナリティと対人関係 第9回目：パーソナリティと文化 第10回目：パーソナリティの測定法（1） 第11回目：パーソナリティの測定法（2） 第12回目：実験計画法 第13回目：自分のパーソナリティを考える 第14回目：試験 第15回目：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業用資料をweb上にアップします。授業前にダウンロードしておいてください。URLは http://www.b.kobe-u.ac.jp/~hioki/shoin/ です。パスワードは初回に紹介します。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験のみ						
教科書	なし						
参考書	講義中に紹介						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	数学入門／くらしと数学						
担当教員	津久井 茂樹						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	数字や数学の歴史、身近に使われている数学・数字等を通して、数学を好きになる。						
授業の概要	<p>数学は中学・高校の科目として仕方なくするものと捉えている人や、多くの学問や科学技術の発展に必要な基礎と捉えている人もいるかもしれません。しかし、多くの人間が数学そのものの魅力に引き付けられてきたからこそ発展してきたのが、数学という学問です。</p> <p>数とは何かという根源的な問いから説き起こし、数学は文明の要素であることなど数学に近づいてその素晴らしさを学習し、くらしを数学的に見た時の楽しさを実感することを目標とします。</p> <p>授業では、くらしの中で使われている数学を、広く深く掘り下げて、楽しく学びます。また、受講生の興味のある内容を中心に学ぶとともに、それに関連したSPI問題（非言語）をとりあげ、就職試験に必要な数学の知識を身につけることもできます。</p> <p>就職活動前はもちろん、就職活動後でも楽しめる数学を学びます。</p> <p>高校で数学を履修していなくても大丈夫です。数学が好きになる講義を目指します。</p>						
到達目標	<p>数学（数字）の歴史を理解する。</p> <p>日常生活、就職活動等で必要な数学を使えるようになる。</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション、アンケート、くらしの中の数学の例</p> <p>第2回：速さと時間、距離の関係</p> <p>第3回：くらしと図形、三角・四角</p> <p>第4回：角度、斜度、</p> <p>第5回：図形の長ささと面積</p> <p>第7回：方程式とグラフ</p> <p>第8回：簡単な微分と積分</p> <p>第9回：場合の数と確率</p> <p>第10回：よくわかる三角関数</p> <p>第11回：不等式とグラフ</p> <p>第12回：生活の中のn進法</p> <p>第13回：簡単な数列、等差数列</p> <p>第14回：等比数列、いろいろな数列</p> <p>第15回：総まとめと試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	身の回りの数学（数字）には何があるかを、生活の中で注意して観察する。						
授業方法	<p>初回のアンケートの内容も授業内容に盛り込みます。</p> <p>興味のある内容を学ぶとともに、就職試験に必要なSPI問題を解きこなします。</p> <p>パワーポイントを使った授業で視覚的な理解を助けるとともに、講義資料を配付して理解度を深めます。</p> <p>毎回小テストを実施します。</p> <p>理由無く後日提出した小テストの評価は減じます。</p>						
評価基準と評価方法	<p>小テスト(30%)、期末試験(70%)の得点から理解度を評価する。</p> <p>理由無く後日提出した小テストの評価を減じます。</p>						
教科書	特に指定しない。						
参考書	<p>特に購入の必要はありませんが、図書館等で参考にしてください。</p> <p>岡部恒治著 『数学はこんなに面白い』（日本経済新聞社）</p> <p>イハルト・ペーレンツ 『5分でたのしむ数学50話』（岩波書店）</p> <p>桑田孝泰著 『微分積分』（朝倉書店）</p> <p>小林道正著 『微分積分の基本と仕組み』（秀和システム）</p>						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生活システムII（流通・マーケティング）						
担当教員	青谷 実知代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	大ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。大手メーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、消費者の視点からマーケティングの具体的なケースを取り上げ、理論と組み合わせながらマーケティングの理解を深めることを目的とする。						
到達目標	総合的なマーケティングの理解						
授業計画	第1回 マーケティング志向の経営 第2回 マーケティングの基本的概念 第3回 製品開発のマネジメント 第4回 ブランド・マネジメント 第5回 ブランドの意味と意義—消費者の視点と企業の視点— 第6回 広告活動のマネジメント 第7回 統合型コミュニケーションのマネジメント 第8回 営業のマネジメント 第9回 マーケティング・チャネルのマネジメント 第10回 ロジスティックのマネジメント 第11回 取引と価格のマネジメント 第12回 競争の分析①（ゲストスピーカー） 第13回 競争の分析② 第14回 マーケティングリサーチ 第15回 マーケティングの企画と実践						
授業外における学習（準備学習の内容）	流行のものや話題のものを常に把握しておく。 新聞必読						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト（20%）、レポート（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
教科書	「1からのマーケティング」、石井淳蔵＋神戸マーケティングテキスト編集委員会著、碩学舎						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	青年期の臨床心理学／臨床心理学研究法V						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	青年期の課題に対する臨床心理学的アプローチによる分析と理解						
授業の概要	<p>目的： 青年期に誰もが直面する発達の課題や、青年期特有の教育問題、社会問題、精神疾患等について、臨床心理学的な観点から分析し、理解や援助のあり方を探ります。</p> <p>概要： 毎回具体的な青年期の課題をテーマとして取り上げ、理論的な側面からだけでなく、臨床的素材や心理療法の実践等についても紹介しながら理解を深めます。</p>						
到達目標	青年期の諸問題について理解を深めるだけでなく、自らその発達段階にある受講生自身の課題としてテーマに取り組み、成長することを目指します。						
授業計画	<p>第1回 導入 ～生涯発達における青年期～</p> <p>第2回 青年期の心と対人関係 ～「恋愛・結婚」への臨床心理学的接近(1)～</p> <p>第3回 青年期の心と対人関係 ～「恋愛・結婚」への臨床心理学的接近(2)～</p> <p>第4回 青年期の心と対人関係 ～「家族」への臨床心理学的接近～</p> <p>第5回 青年期の心と対人関係 ～「友情」への臨床心理学的接近～</p> <p>第6回 青年期の心と対人関係 ～「恋愛・結婚」への臨床心理学的接近(1)～</p> <p>第7回 青年期の心と社会適応 ～「就職」への臨床心理学的接近(1)～</p> <p>第8回 青年期の心と社会適応 ～「就職」への臨床心理学的接近(2)～</p> <p>第9回 青年期の心と社会適応 ～「NEET・ひきこもり」への臨床心理学的接近(1)～</p> <p>第10回 青年期の心と社会適応 ～「NEET・ひきこもり」への臨床心理学的接近(2)～</p> <p>第11回 青年期の心と社会適応 ～「自殺」への臨床心理学的接近～</p> <p>第12回 青年期の心と社会適応 ～「犯罪」への臨床心理学的接近～</p> <p>第13回 青年期の心と社会適応 ～「発達障害」への臨床心理学的接近～</p> <p>第14回 まとめと試験</p> <p>第15回 総括</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習： 次回のテーマに関する課題を出すことがあります。</p> <p>授業後学習： 授業で紹介する参考文献を読みさらに理解を深めて下さい。</p>						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点（授業レポートを含む）60%、期末試験40%						
教科書	なし。プリントを配布します。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生物学入門／くらしと科学I／くらしの中の生物学						
担当教員	吉野 健一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	くらしの中のトピックスから生物学を学ぶ						
授業の概要	iPS細胞、BSE、クローン、遺伝子組み換え食品、新型ウイルスなど、ニュースでよく見聞きする言葉だけ「詳しいことはわからない？」という人は多いと思います。このような生物学や医学に関連するくらしの中のトピックスを取り上げ、科学的に解説します。						
到達目標	マスメディアで取り上げられる科学的根拠のない無責任な情報に惑わされることを防ぐための基礎的な生物学の知識を習得し、理解を深める。						
授業計画	第1回：がんという病気で細胞を理解しよう ①がんとは何か 第2回：がんという病気で細胞を理解しよう ②乳がんの特徴 第3回：感染症という病気からウイルスと細菌を理解しよう 第4回：ワクチンから健康を守る免疫を理解しよう 第5回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ①プリオン病とは何か 第6回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ②プリオン病発症のしくみ 第7回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ③プリオン病の歴史 第8回：遺伝子と染色体を理解しよう 第9回：いろいろな生き物の生殖法を理解しよう 第10回：ヒトの性決定システムを理解しよう 第11回：性決定システムの多様性を理解しよう 第12回：ヒトの初期発生を理解しよう 第13回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ①遺伝子を組み換えるとはどういうことか 第14回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ②遺伝子組み換え技術の有用性と問題点 第15回：クローンとiPS細胞を理解しよう						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画の内容に関係した報道に日頃から関心をもって接してください。 授業後学習：学んだ内容に関係した報道に関心を持ち続け、理解を深める努力を続けてください。						
授業方法	講義。プロジェクターを使って解説します。						
評価基準と評価方法	講義ごとに提出する小レポート（小テスト&ノート形式）60% 期末レポート40%。 単位の取得には9回以上の出席と期末レポートの提出が必須。 講義ごとに提出する小レポートが0点の場合は欠席扱いとします。						
教科書	なし。講義資料としてのプリントを配布します。						
参考書	『これだけはおさえたい生命科学 身近な話題から学ぶ』 武村政春・他著、実教出版 ISBN978-4-407-32166-1 『生物学の基礎知識』 都河明子著、丸善 ISBN978-4-621-07976-8 『初歩からの生物学』 鈴木範男著、三共出版 ISBN978-4-7827-0554-4						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	西洋古典入門IIA（ローマの歴史と文学）						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	古代ローマの歴史と文学						
授業の概要	西洋古典学（Classics）とは、古代ギリシア人およびローマ人が創造し、二千年以上にわたって西欧の歴史と文化の規範ないし基盤となってきた学問や文化を研究するもので、ギリシア語の古典文献を主とするギリシア研究とラテン語の古典文献を主とするローマ研究に分かれる。この「西洋古典入門IIA」では古代ローマの歴史と文学の骨子を学ぶ。						
到達目標	古代ローマの歴史と文学について基礎的な知識をもつとともに、歴史や文学を学び楽しむための読解の技能を身につける。						
授業計画	第1回：すべての道はローマへ通ず。古代ローマのイメージ 第2回：ローマは一日にしてならず。ローマ史概観(1) カエサル（シーザー）とクレオパトラ 第3回：ローマ史概観(2) ローマの建国神話—アエネーアースとロムルス 第4回：ローマ史概観(3) ポエニ戦争、カルタゴとの闘争、地中海の覇者 第5回：ローマ史概観(4) 内乱の前—世紀、キケロとカエサル 第6回：ローマ史概観(5) 神帝アウグストゥスとローマ帝国 第7回：ローマ史小テスト、ラテン文学史の時代区分 第8回：カトウツルスのカルミナ — 憎んでいながら、なお恋しとはどうしたわけか？ 第9回：ウェルギリウス『アエネーイス』— 建国の英雄アエネーアース、ディードーの悲恋、男はつらい 第10回：オウィディウス『変身物語』(1) — 愛と変身のギリシア・ローマ神話 第11回：『変身物語』(2) 第12回：『変身物語』(3) 第13回：『変身物語』(4) 第14回：『変身物語』(5) 第15回：まとめと展望、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の進度に合わせ、また授業中の指示にしたがって、教科書を読むと共に、図書館で参考文献を借り出して読むこと。						
授業方法	講義。前半は教科書、後半はプリントを使って講義する。						
評価基準と評価方法	授業への参加度30%、小テスト20%、期末テスト50%						
教科書	『ローマの歴史』（中公文庫）改版 モンタネッリ著、藤沢道郎訳 中央公論社 ISBN4-12-202601-6						
参考書	『ラテン文学を学ぶ人のために』 松本仁助・岡道男・中務哲郎編 世界思想社 ISBN4-7907-0432-7						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	西洋古典入門IIB（ラテン語）						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	ラテン語初歩						
授業の概要	ラテン語は古代ローマ人の言語であるが、長く西欧の学問と文化の骨格を担う言語として用いられてきた。今日でもバチカンの公用語である。英米語の語彙の半分はラテン語からできているだけでなく、フランス語・イタリア語・スペイン語などは民衆語化したラテン語の直接の子孫である。この授業では、西欧の歴史や文学に興味をもつ人のみならず、英語やフランス語、さらには言語そのものを深く知りたいと望む人が、ラテン語とはどのような言語かを知って役立てることができるように、基本的な文法と簡単な文章を学ぶ。						
到達目標	ラテン語を発音し、名詞と動詞の初歩的な変化形を識別し、その範囲での簡単なラテン語の文章を理解できるようになること。						
授業計画	第1回：ラテン語とはどのような言語か？ 第2回：文字と発音(1) 第3回：文字と発音(2) 第4回：名詞の変化―第1変化名詞と第2変化名詞 第5回：形容詞の変化―第1・2変化形容詞 第6回：動詞の変化(1)―直説法・能動相・現在人称変化、動詞の4種類と不定法 第7回：動詞の変化(2)―未完了過去と未来 第8回：動詞の変化(3)―SUMとPOSSUM 第9回：前置詞、副詞、接続詞 第10回：動詞の変化(3)―受動相の現在・未完了過去・未来 第11回：第3変化の名詞と形容詞 第12回：簡単な文章を読む(1) 第13回：簡単な文章を読む(2) 第14回：簡単な文章を読む(3) 第15回：まとめと展望、テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を教科書やプリントにそって復習し、宿題の練習問題で確認・習得すること。						
授業方法	教科書とプリントを用いながら講義する。受講者が発音から文法事項・変化のひとつひとつをきちんと理解し記憶することを前提に、ラテン文の訳読を適宜宿題として課す。						
評価基準と評価方法	授業への積極的参加、課題への取り組みなどの平常点50%、筆記テスト50%で評価する。						
教科書	『はじめてのラテン語』（講談社現代新書）大西英文著 講談社 ISBN4-06-149353-1						
参考書	授業時に紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	世界の歴史／西洋史I						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史概説。						
授業の概要	ヨーロッパの近世から現代までの歴史を概観する。ヨーロッパの歴史についての常識を身につけてもらうことを目的とする。高校の時の世界史のくり返しにならないよう、あまり細かいことにとらわれず、それぞれの時代についていくつかの問題を取り上げて講義する。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	近代史を学習することによって現代世界の諸問題の理解を深める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絶対主義（1） 2. 絶対主義（2） 3. イギリスの革命 4. フランス革命 5. ナポレオン 6. 産業革命 7. ウィーン体制 8. 自由主義と国民主義 9. イタリアとドイツの統一 10. 帝国主義の時代 11. 第1次世界大戦 12. 第2次世界大戦 13. 冷戦 14. 20世紀後半の諸問題 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	高校の時の世界史の教科書を見直すこと。						
授業方法	講義形式。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	世界の歴史／西洋史I						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史概説。						
授業の概要	ヨーロッパの近世から現代までの歴史を概観する。ヨーロッパの歴史についての常識を身につけてもらうことを目的とする。高校の時の世界史のくり返しにならないよう、あまり細かいことにとらわれず、それぞれの時代についていくつかの問題を取り上げて講義する。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	近代史を学習することによって現代世界の諸問題の理解を深める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絶対主義（1） 2. 絶対主義（2） 3. イギリスの革命 4. フランス革命 5. ナポレオン 6. 産業革命 7. ウィーン体制 8. 自由主義と国民主義 9. イタリアとドイツの統一 10. 帝国主義の時代 11. 第1次世界大戦 12. 第2次世界大戦 13. 冷戦 14. 20世紀後半の諸問題 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	高校の時の世界史の教科書を見直すこと。						
授業方法	講義形式。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生理心理学						
担当教員	中尾 美月						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	心と身体 の関係を科学する。						
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がドキドキしたり、胃が痛くなったりするということは、心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体 のどこにも存在しないのだろうか。この授業では、心と身体 の関係について、古典的ともいえる知見から、最新の脳科学研究の成果に至るまで、数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに、各トピックに対して自らの意見をまとめることで、人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。						
到達目標	心と身体 の関係について基礎的な知識が習得できる。 ものごとを科学的に理解し考える力が身につく。						
授業計画	第1講 生理心理学とは 第2講 脳 ～あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？～ 第3講 知覚 ～青い食べ物でダイエット？～ 第4講 顔認識 ～なぜアヒル口に惹かれるのか～ 第5講 記憶1 ～H.M.の亡霊～ 第6講 記憶2 ～マインドマップを描こう～ 第7講 記憶3 ～鬼トレで脳力UP？～ 第8講 発達1 ～赤ちゃんはワンダーランド～ 第9講 発達2 ～私の頭の中の鏡～ 第10講 恋愛 ～愛は麻薬？ それとも絆？～ 第11講 ストレス ～癒しはどこにある？～ 第12講 人間らしさ ～脳の中のもう一人の私～ 第13講 心と身体 ～心はどこにある？～ 第14講 まとめと試験 第15講 おわりに						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行う。基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。 毎回、授業の最後にミニ・レポートの作成を求める。						
評価基準と評価方法	ミニ・レポート70%、期末試験30%						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配布する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	世界の文学						
担当教員	武田 良材						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学入門						
授業の概要	よく引き合いに出される古典的文学作品の一部を紹介し、それらの作品がいかなる意味で今なお注目に値するかを解説します。科目としての「国語」と「文学」の違い、あるいは文学についてどう語ればよいかを理解してもらいます。古典的文学作品の多くは、よく言及される割に、またよく売れている割に、読まれてはいないものです。作品を知るだけでも教養になります。前期は寓話をテーマに多彩な作品を取り上げます。						
到達目標	いくつかの文学作品について古典とみなされる理由、さらに文学作品について語る場合の要点を理解する。						
授業計画	第1回 導入。イソップ寓話集 第2回 ベロー童話集 第3回 グリム兄弟の昔話収集 第4回 グリム童話集 第5回 ユダヤ教、キリスト教、イスラム教：レッシング『賢者ナータン』 第6回 ドイツロマン派：E. T. A. ホフマン『砂男』 第7回 怪物：シェリー『フランケンシュタイン』 第8回 ロボットの登場：チャベック『R. U. R.（ロボット）』 第9回 賢い猿：カフカ『アカデミーの報告』 第10回 得体のしれない虫：カフカ『変身』 第11回 人間形成：ショー『ピグマリオン』 第12回 全体主義：オーウェル『動物農場』 第13回 全体主義の続き：オーウェル『一九八四年』 第14回 ポストモダンの未来像：ディック『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	最終授業までにシラバスに挙げた作品のいずれかを読んで、その印象と授業の内容とを比較考察してください。参考図書のいずれか一冊に目を通せば、よい予習・復習となるでしょう。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	感想（10回程度）60%、試験40% 各作品ごとに授業の終りに、何を学び、何を考えたかを短く書いてもらう。それを元に、授業から何ものかを得られたかどうかを評価基準に平常点を付ける。試験に代えてレポートを提出してもよい。レポート課題は授業期間の終盤に提示する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	ヘンリー・ヒッチングズ 著『世界文学を読めば何が変わる？』みすず書房、ISBN978-4622075653 ピエール・バイヤール 著『読んでいない本について堂々と語る方法』筑摩書房、ISBN978-4480837165 トーマス・C・フォスター 著『大学教授のように小説を読む方法』白水社、ISBN978-4560080399						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	世界の文学						
担当教員	武田 良材						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学入門						
授業の概要	よく引き合いに出される古典的文学作品の一部を紹介し、それらの作品がいかなる意味で今なお注目に値するかを解説します。科目としての「国語」と「文学」の違い、あるいは文学についてどう語ればよいかを理解してもらいます。古典的文学作品の多くは、よく言及される割に、またよく売れている割に、読まれてはいないものです。作品を知るだけでも教養になります。後期は政治をテーマに多彩な作品を取り上げます。						
到達目標	いくつかの文学作品について古典とみなされる理由、さらに文学作品について語る場合の要点を理解する。						
授業計画	第1回 文学と世界 第2回 理想社会：モア『ユートピア』 第3回 架空旅行記：スウィフト『ガリヴァー旅行記』 第4回 架空旅行記：スウィフト『ガリヴァー旅行記』続き 第5回 秘密結社：ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』 第6回 フランス革命：ビュヒナー『ダントンの死』 第7回 戦争と平和：ズットナー『武器を捨てよ！』 第8回 労働争議：ハウプトマン『織工』 第9回 第一次世界大戦：レマルク『西部戦線異状なし』 第10回 失業：ケストナー『ファービアン』 第11回 中国革命：マルロー『人間の条件』 第12回 狭隘な国：グリム『土地なき民』 第13回 スペイン市民戦争：ヘミングウェイ『誰がために鐘は鳴る』 第14回 全体主義：オーウェル『一九八四年』 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	最終授業までにシラバスに挙げた作品のいずれかを読んで、その印象と授業の内容とを比較考察してください。参考図書のいずれか一冊に目を通せば、よい予習・復習となるでしょう。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	感想（10回程度）60%、試験40% 各作品ごとに授業の終りに、何を学び、何を考えたかを短く書いてもらう。それを元に、授業から何ものかを得られたかどうかを評価基準に平常点を付ける。試験に代えてレポートを提出してもよい。レポート課題は授業期間の終盤に提示する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	ヘンリー・ヒッチングズ 著『世界文学を読めば何が変わる？』みすず書房、ISBN978-4622075653 ピエール・バイヤール 著『読んでいない本について堂々と語る方法』筑摩書房、ISBN978-4480837165 トーマス・C・フォスター 著『大学教授のように小説を読む方法』白水社、ISBN978-4560080399						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	地域研究I						
担当教員	渡辺 直土						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代東アジア地域と日本						
授業の概要	中国や台湾、韓国など東アジア社会の現状を歴史的視点も含めて考察する。アジアとは何か、どのように見るべきかという問題について、各国を比較分析することを通して理解を深めることを目的とする。また、メディア・リテラシーとの関連で、国内外の新聞や雑誌記事を用いて、時事問題に関する理解も深めていく。あわせて、レポートや定期試験の準備に必要な情報検索法についても適宜言及する。						
到達目標	現代東アジア地域の実情を理解し、日本とのかかわりを考察するための視点を獲得する。新聞の国際面の記事について、一定程度の理解ができるようにする。						
授業計画	<p>第1回 現代東アジアと日本 東アジアの現状と日本との関係について概観する。</p> <p>第2回 近代の中国 清末から中華人民共和国成立までの歴史を概観する。</p> <p>第3回 中国（1） 1950年代の中国について概観する。</p> <p>第4回 中国（2） 1960年代から1970年代の中国について概観する。</p> <p>第5回 中国（3） 改革開放初期の中国について考察する。</p> <p>第6回 中国（4） 天安門事件以後の中国について考察する。</p> <p>第7回 中国（5） 21世紀の中国の現状について考察する。</p> <p>第8回 台湾（1） 台湾近現代史を概観する。</p> <p>第9回 台湾（2） 戦後台湾の発展の過程を分析する。</p> <p>第10回 香港 植民地期の香港の歴史と、中国への返還をめぐる過程について概観する。</p> <p>第11回 韓国 戦後韓国の発展過程を分析する。</p> <p>第12回 シンガポール シンガポールの建国以降の経緯と現状について考察する。</p> <p>第13回 地域統合 APECやASEANなど地域機構を概観し、東アジア共同体の可能性について考察する。</p> <p>第14回 現代東アジアと日本 東アジア政治の現状と日本の関わりについて考察する。</p> <p>第15回 定期試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	まずは現状を知るため、日頃から東アジア地域について関心を持つよう心がけ、各種の新聞や雑誌記事に積極的に目を通されることを期待する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	定期試験（80%）、小レポート（20%）						
教科書	田中仁ほか著『新図説中国近現代史』（2012年 法律文化社） 岩崎育夫著『アジア政治を見る眼 開発独裁から市民社会へ』（2001年 中公新書）						
参考書	毛里和子著『現代中国政治（第3版）』（2012年 名古屋大学出版会） 岩崎育夫著『アジア政治とは何か』（2009年 中公叢書）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	地球環境と人間						
担当教員	田中 良晴						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	環境問題と人間						
授業の概要	地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、病原性微生物・ウイルスなど、人類のみならず、生物全体が生存の危機に曝されています。それらを理解し考えるための基礎事項（化学、生物学、物理学、地学）についてまず講義し、個別の大きな環境問題、過去と現在の環境問題と取り組みを基に、今後の環境と生命の行く末、人間のなすべきことなどについて考察します。						
到達目標	講義のみならず質疑応答を取り入れ、それを講義に反映させることにより、環境問題に関する広い分野の基礎知識習得の他、書籍・マスコミ・インターネットの莫大な情報を俯瞰でき、偏りのない多面的な見方・考え方が身につけられるようになることを目指します。						
授業計画	第1回 環境科学のための化学 第2回 環境科学のための生物学－原子・分子を中心に 第3回 環境科学のための生物学－自然システムを中心に 第4回 環境科学のための地学・物理学 第5回 個別の問題－温暖化 第6回 個別の問題－酸性雨 第7回 個別の問題－オゾンホール 第8回 個別の問題－バイオテクノロジー等 第9回 個別の問題－環境ホルモン 第10回 個別の問題－電磁波（放射線以外、紫外線、マイクロ波等） 第11回 個別の問題－放射線と環境、放射線科学の基礎、放射線や放射性物質の種類、単位、有用性と有害性 第12回 個別の問題－放射線と生物特に人間とのかかわり、チェルノブイリ・福島原発事故、核兵器 第13回 人間の病気と環境 第14回 まとめ－東洋思想と環境問題、理想的な社会・地球はありうるのか？ 第15回 質疑・討論と筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：各授業項目の前までに、関連事項に関する書籍・新聞等を読んで下さい。 授業後学習：予習したことや講義内容をレポート用紙にまとめる癖をつけてください。それにより理解力が深まり、多面的な見方・考え方や批評精神も養えるはずで。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト30点、平常点30点、筆記試験40点						
教科書	特に指定無し。						
参考書	授業時に提示します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション能力は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュース読みなどを体験しながら「自己紹介」「自分の専門分野」「私の宝物」「人生の目的」「私の運命・偶然・選択」など将来の自分について発表します。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。						
授業の概要	発音・発声の基礎から、人前で話す経験を積み、社会人としてのコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	人前で自分の考えをきちんと伝え、相手の意見を十分に聴くコミュニケーション能力をつけます。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④自己紹介に挑戦① ⑤自己紹介に挑戦② ⑥自分の専門分野をプレゼンする ⑦私の宝物 ⑧敬語の使い方 ⑨感動した話 ⑩人生の目的 ⑪電話での対応と接遇 ⑫私の人生を「運命・偶然・選択」で語る ⑬就職の面接に備える ⑭話し方が上達するノウハウ ⑮私の幸せ論 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	人前で声を出し、滑舌を磨き、わかりやすい日本語の表現を習得します。また人の意見を聞き、態度や表情から自分の考えを的確に伝える訓練をします。						
評価基準と評価方法	授業中に声を出させて、わかりやすい日本語表現を磨きます。それに発表に機会を作り、きちんと人前で伝わる話し方を訓練します。出席は重視します。私語は退席してもらいます。比率は出席60%、発表30%、授業態度10%です。						
教科書	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション能力は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュース読みなどを体験しながら「自己紹介」「自分の専門分野」「私の宝物」「人生の目的」「私の運命・偶然・選択」など将来の自分について発表します。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。						
授業の概要	発音・発声の基礎から、人前で話す経験を積み、社会人としてのコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	人前で自分の考えをきちんと伝え、相手の意見を十分に聴くコミュニケーション能力をつけます。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④自己紹介に挑戦① ⑤自己紹介に挑戦② ⑥自分の専門分野をプレゼンする ⑦私の宝物 ⑧敬語の使い方 ⑨感動した話 ⑩人生の目的 ⑪電話での対応と接遇 ⑫私の人生を「運命・偶然・選択」で語る ⑬就職の面接に備える ⑭話し方が上達するノウハウ ⑮私の幸せ論 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	人前で声を出し、滑舌を磨き、わかりやすい日本語の表現を習得します。また人の意見を聞き、態度や表情から自分の考えを的確に伝える訓練をします。						
評価基準と評価方法	授業中に声を出させて、わかりやすい日本語表現を磨きます。それに発表に機会を作り、きちんと人前で伝わる話し方を訓練します。出席は重視します。私語は退席してもらいます。比率は出席60%、発表30%、授業態度10%です。						
教科書	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション能力は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュース読みなどを体験しながら「自己紹介」「自分の専門分野」「私の宝物」「人生の目的」「私の運命・偶然・選択」など将来の自分について発表します。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。						
授業の概要	発音・発声の基礎から、人前で話す経験を積み、社会人としてのコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	人前で自分の考えをきちんと伝え、相手の意見を十分に聴くコミュニケーション能力をつけます。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④自己紹介に挑戦① ⑤自己紹介に挑戦② ⑥自分の専門分野をプレゼンする ⑦私の宝物 ⑧敬語の使い方 ⑨感動した話 ⑩人生の目的 ⑪電話での対応と接遇 ⑫私の人生を「運命・偶然・選択」で語る ⑬就職の面接に備える ⑭話し方が上達するノウハウ ⑮私の幸せ論 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	人前で声を出し、滑舌を磨き、わかりやすい日本語の表現を習得します。また人の意見を聞き、態度や表情から自分の考えを的確に伝える訓練をします。						
評価基準と評価方法	授業中に声を出させて、わかりやすい日本語表現を磨きます。それに発表に機会を作り、きちんと人前で伝わる話し方を訓練します。出席は重視します。私語は退席してもらいます。比率は出席60%、発表30%、授業態度10%です。						
教科書	「日本語表現法II」佐藤誠著（北樹出版） ※教科書が改訂になりました。						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション能力は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュース読みなどを体験しながら「自己紹介」「自分の専門分野」「私の宝物」「人生の目的」「私の運命・偶然・選択」など将来の自分について発表します。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。						
授業の概要	発音・発声の基礎から、人前で話す経験を積み、社会人としてのコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	人前で自分の考えをきちんと伝え、相手の意見を十分に聴くコミュニケーション能力をつけます。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④自己紹介に挑戦① ⑤自己紹介に挑戦② ⑥自分の専門分野をプレゼンする ⑦私の宝物 ⑧敬語の使い方 ⑨感動した話 ⑩人生の目的 ⑪電話での対応と接遇 ⑫私の人生を「運命・偶然・選択」で語る ⑬就職の面接に備える ⑭話し方が上達するノウハウ ⑮私の幸せ論 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	人前で声を出し、滑舌を磨き、わかりやすい日本語の表現を習得します。また人の意見を聞き、態度や表情から自分の考えを的確に伝える訓練をします。						
評価基準と評価方法	授業中に声を出させて、わかりやすい日本語表現を磨きます。それに発表に機会を作り、きちんと人前で伝わる話し方を訓練します。出席は重視します。私語は退席してもらいます。比率は出席60%、発表30%、授業態度10%です。						
教科書	「日本語表現法II」佐藤誠著（北樹出版） ※教科書が改訂になりました。						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	哲学入門						
担当教員	木下 昌巳						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	「哲学」とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対する全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問です。世界は究極的には何からできているのか？人間は何をどこまで知ることができるのか。そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに取り組み、解答を得ようとするのが「哲学」です。この授業では、西洋の主要な哲学者の思想を取り上げ、解説します。						
授業の概要	西洋の古代から近代までのな哲学者の思想を年代順に取り上げ、彼らの問題意識と思想内容を、配布する資料を使いながら、できるだけ簡明にしていきます。						
到達目標	哲学を学ぶことは、人名や著作名を記憶することではありません。哲学は、生きていく中ですべての人が直面するさまざまな問題に対して、より根本的な視点から洞察にすることに寄与する学問です。さまざまな問題に対して、ただ習慣的に対応するのではなく、立ち止まって、論理的・反省的にその問題の意味を深く考え、どのようにその問題を捉えて、対応すればよいのかことを考える態度と方法を身につけることを目指します。						
授業計画	01 「哲学」とは何か？—「知を愛する」という営み 02 「哲学」の始まり—古代ギリシアと哲学 03 世界の始源を求めて—ミレトス派の人々 04 アキレスと亀—エレア派の思想 05 哲学と弁論術—「ソフィスト」の登場 06 「よく生きる」ために—ソクラテスの問い 07 理想の国家とは？—プラトンの理想国家 08 「万学の祖」アリストテレス 09 幸福とは何か？—エピクロスの快樂論 10 大陸合理論の哲学—デカルトの企て 11 イギリス経験論の哲学—経験と知識 12 カントの倫理思想—義務論と経験論 13 カントの批判哲学—知ることができることと知ることができないこと 14 「善悪の彼岸」—ニーチェの道徳批判 15 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	哲学書の原典を自分だけで読みこなすことは困難ですが、授業で得た知識を基にして、授業で解説した思想家の著作や哲学に関わる書物を手にとって、哲学の理解を深めることを求めます。						
授業方法	講義形式でおこないます。						
評価基準と評価方法	テスト70点、平常点30点の100点満点で評価します。						
教科書	伊藤邦武『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』（中央公論新社、2012）						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008） 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史です。内容は細かいですが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識が得られます。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	哲学入門						
担当教員	木下 昌巳						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	「哲学」とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対する全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問です。世界は究極的には何からできているのか？人間は何をどこまで知ることができるのか。そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに取り組み、解答を得ようとするのが「哲学」です。この授業では、西洋の主要な哲学者の思想を取り上げ、解説します。						
授業の概要	西洋の古代から近代までのな哲学者の思想を年代順に取り上げ、彼らの問題意識と思想内容を、配布する資料を使いながら、できるだけ簡明にしていきます。						
到達目標	哲学を学ぶことは、人名や著作名を記憶することではありません。哲学は、生きていく中ですべての人が直面するさまざまな問題に対して、より根本的な視点から洞察にすることに寄与する学問です。さまざまな問題に対して、ただ習慣的に対応するのではなく、立ち止まって、論理的・反省的にその問題の意味を深く考え、どのようにその問題を捉えて、対応すればよいのかことを考える態度と方法を身につけることを目指します。						
授業計画	01 「哲学」とは何か？—「知を愛する」という営み 02 「哲学」の始まり—古代ギリシアと哲学 03 世界の始源を求めて—ミレトス派の人々 04 アキレスと亀—エレア派の思想 05 哲学と弁論術—「ソフィスト」の登場 06 「よく生きる」ために—ソクラテスの問い 07 理想の国家とは？—プラトンの理想国家 08 「万学の祖」アリストテレス 09 幸福とは何か？—エピクロスの快樂論 10 大陸合理論の哲学—デカルトの企て 11 イギリス経験論の哲学—経験と知識 12 カントの倫理思想—義務論と経験論 13 カントの批判哲学—知ることができることと知ることができないこと 14 「善悪の彼岸」—ニーチェの道徳批判 15 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	哲学書の原典を自分だけで読みこなすことは困難ですが、授業で得た知識を基にして、授業で解説した思想家の著作や哲学に関わる書物を手にとって、哲学の理解を深めることを求めます。						
授業方法	講義形式でおこないます。						
評価基準と評価方法	テスト70点、平常点30点の100点満点で評価します。						
教科書	伊藤邦武『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』（中央公論新社、2012）						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008） 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史です。内容は細かいですが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識が得られます。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	哲学入門						
担当教員	木下 昌巳						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「哲学」とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対する全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問です。世界は究極的には何からできているのか？人間は何をどこまで知ることができるのか。そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに取り組み、解答を得ようとするのが「哲学」です。この授業では、西洋の主要な哲学者の思想を取り上げ、解説します。						
授業の概要	西洋の古代から近代までのな哲学者の思想を年代順に取り上げ、彼らの問題意識と思想内容を、配布する資料を使いながら、できるだけ簡明にしていきます。						
到達目標	哲学を学ぶことは、人名や著作名を記憶することではありません。哲学は、生きていく中ですべての人が直面するさまざまな問題に対して、より根本的な視点から洞察にすることに寄与する学問です。さまざまな問題に対して、ただ習慣的に対応するのではなく、立ち止まって、論理的・反省的にその問題の意味を深く考え、どのようにその問題を捉えて、対応すればよいのかことを考える態度と方法を身につけることを目指します。						
授業計画	01 「哲学」とは何か？—「知を愛する」という営み 02 「哲学」の始まり—古代ギリシアと哲学 03 世界の始源を求めて—ミレトス派の人々 04 アキレスと亀—エレア派の思想 05 哲学と弁論術—「ソフィスト」の登場 06 「よく生きる」ために—ソクラテスの問い 07 理想の国家とは？—プラトンの理想国家 08 「万学の祖」アリストテレス 09 幸福とは何か？—エピクロスの快樂論 10 大陸合理論の哲学—デカルトの企て 11 イギリス経験論の哲学—経験と知識 12 カントの倫理思想—義務論と経験論 13 カントの批判哲学—知ることができることと知ることができないこと 14 「善悪の彼岸」—ニーチェの道徳批判 15 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	哲学書の原典を自分だけで読みこなすことは困難ですが、授業で得た知識を基にして、授業で解説した思想家の著作や哲学に関わる書物を手にとって、哲学の理解を深めることを求めます。						
授業方法	講義形式でおこないます。						
評価基準と評価方法	テスト70点、平常点30点の100点満点で評価します。						
教科書	伊藤邦武『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』（中央公論新社、2012）						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008） 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史です。内容は細かいですが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識が得られます。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ディベートという議論の方法を習熟する。 主張するだけでなく、議論を噛み合わせていくために、 いかに相手の主張に耳を傾けるか、その重要性を認識する。						
授業の概要	「人間は皆同じだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じると、人は動揺しその対立を避けようとしします。 その場合、意見の対立は異常事態として捉えられます。 「人間は皆異なるものだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じても、それは当然のことであり、 その違いをどのように克服していくかに力が注がれます。 ディベートは、対立する二極の立場の者が明確なルールに基づいて討論し、その説得力の強弱を第三者が 判断するスタイルのコミュニケーションです。 ディベート演習を繰り返し実践することで、人に受け入れてもらえる主張のスキルを身につけて、 説得力のアップを図ります。						
到達目標	議論に際し、相手の主張することを正確に理解し、 自分の主張することをわかりやすく伝える。 データを収集分析し、データを活用した具体的な主張ができるようになる。 就職活動における入社試験や採用試験でも取り上げられるテーマについて理解を深める。						
授業計画	①ディベートの全体像 ディベートの必要性和デメリット、ディベートのルール ②ディベートの実際 ディベートの流れを筆記しポイントを把握する ③立論・尋問・反駁 論理構築の手法を学ぶ、論題に取り組む ④肯定側立論演習 立論原稿を作成しプレゼンテーション演習を実施 ⑤論理の構造 論理の演繹法・帰納法的展開 ⑥民主主義とディベートの関連について考える レスター・サローの資本主義と民主主義を読む ⑦ディベート実践1 ディベート準備・グループワーク ⑧ディベート実践2 ショートディベート演習（その1） ⑨ディベート実践3 ショートディベート演習（その2） ⑩ディベート1 日本人のコミュニケーションの特徴、なぜ議論はかみあわないのか ⑪ディベート2 ディベート演習（その1） ⑫ディベート3 ディベート演習（その2） ⑬サッカーディベート1 論理力を鍛えるには・ディベート準備 ⑭サッカーディベート2 サッカーディベート演習（その1） ⑮サッカーディベートⅢ サッカーディベート演習（その2）・まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	ディベートでは有効な資料の収集も重要なポイントです。 授業外でディベートの資料の集めていただくこと、 その資料を使いながら立論を作成していただくことが大切になります。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】 演習評価【40%】、 提出物評価【30%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ディベート演習II						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ビジネス活動には主張に説得力が必要です。 その「説得力」と「客観的な判断力」を高めることが授業のテーマです。						
授業の概要	事実の真偽、主張の確からしさを検証するためには、説得力を競うことが欠かせません。それは日常生活においても同じです。対立する事態を客観的に捉え、それぞれの立場からオープンに議論することは、現実の問題点や課題を検証するためには有意義です。我々の生活になぜディベートが必要なのか、を究明していきます。演習を繰り返すことで、社会人としての必須の「わかりやすく自分の考えを述べ、相手の話を真剣に聞き取り、粘り強く議論できる」能力を養うことができます。習得したコミュニケーションスキルは、就職活動・ビジネス・思考・自己表現の根幹となります。						
到達目標	よりレベルの高い「説得力」を身につける。 「客観的な判断力」を高める。 「具体的な議論」の組み立てを学ぶ。						
授業計画	①模擬ディベート演習 テーマに沿って、主張してみる ②ディベート概説・立論の作成 立論・尋問・反駁のポイント、問題点を明確に主張する ③プレゼンテーション（立論） 評価シートによるフィードバックを受ける ④ディベート実践1 審査の方法・ショートディベート準備 ⑤ディベート実践2 ショートディベート演習（その1） ⑥ディベート実践3 ショートディベート演習（その2） ⑦ディベート1 現代のわれわれが受け入れている行動哲学・思想は何か、を考える ⑧ディベート2 ディベート演習（その1） ⑨ディベート3 ディベート演習（その2） ⑩サッカーディベート1 感情的説得・功利的説得・論理的説得とは何か ⑪サッカーディベート2 サッカーディベート演習（その1） ⑫サッカーディベート3 サッカーディベート演習（その2） ⑬ロングディベート1 ロングディベート演習（その1） ⑭ロングディベート2 ロングディベート演習（その2） ⑮ロングディベート3 ロングディベート演習（その3）、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	ディベートを実施する土台となる資料は、授業外で収集します。 その資料を活用し、授業でディベート立論の論理構築を作成ください。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】 演習評価【40%】 提出物評価【30%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日仏比較文化A						
担当教員	川口 陽子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	日仏の文化比較を通しての異文化理解						
授業の概要	フランスの文化やフランス人のものの見方について色々な角度から接近し、理解を深めていきます。同時に、日本の文化や日本人のものの見方に関して調査し、フランスの場合と比較してもらいます。その中で日本を改めて見直す機会も持たれることを希望します。また、フランスの最新ニュースも紹介し、それを通して現代社会が抱える問題についても考察していきます。						
到達目標	比較を通して、フランスと日本、両国の文化に関する理解を同時に深めることができます。また、「日仏の文化はどこが似ているのか？異なっているのか？」を明確にまとめることに加えて、「なぜ、両国の文化はこのように似ているのか？異なっているのか？」を考えるとという作業を通して、論理的に自分の考えをまとめ、発表することができるようになります。						
授業計画	第1回 はじめに：アンケート 第2回 フランスの地理 第3回 日本の地理 第4回 フランスの歴史1 古代～近世 第5回 日本の歴史1 古代～近世 第6回 フランスの歴史2 近代～現代 第7回 日本の歴史2 近世～現代 第8回 両国の歴史を比較する 第9回 フランスの祝日 第10回 日本の祝日 第11回 フランスにおけるカップルのありかた 第12回 日本におけるカップルのありかた 第13回 フランスで働く外国人労働者 第14回 日本で働く外国人労働者 第15回 多文化共生社会について考える						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日本についてデータ収集をしてきてください。授業中に発表してもらいます。 授業後学習：各テーマごとに、特に興味を抱いた内容に関して、さらに調査して続けてください。それをまとめて、レポートとして提出してもらいます。その作業を通じて論理的思考力を養っていきます。						
授業方法	講義と演習を交互に行います。						
評価基準と評価方法	授業内評価50%（小レポート30%、授業中発表等20%）、学期末レポート50%						
教科書	必要に応じてプリントを配布します。						
参考書	必要に応じて配布プリントに記載します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日仏比較文化B						
担当教員	川口 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	日仏の文化比較を通しての異文化理解						
授業の概要	日仏比較文化Aから引き続いて、フランスと日本の比較を通して、日仏両文化の理解を同時に深めていきます。履修者は各自、日仏比較に関わるテーマを一つ選び、授業中に発表し、最後にレポートとしてまとめることを目指します。発表者以外の出席者も全員、コメントを必ず求められますので、しっかりと発表を聞いて、自分の考えを言葉で表現して下さい。発表と並行して、日本から見たフランス、フランスから見た日本、および両国の現代社会が抱える問題についての考察も行います。						
到達目標	比較を通して、フランスと日本、両国の文化に関する理解を同時に深めることができます。また、「日仏の文化はどこが似ているのか？異なっているのか？」を明確にまとめることに加えて、「なぜ、両国の文化はこのように似ているのか？異なっているのか？」を考えるとという作業を通して、論理的に自分の考えをまとめていくことができるようになります。さらに、他の人々の発表に対してコメントする、発表者はそれに対して答えることで、より自分の考えを深め、言葉で表現できるようにもなります。						
授業計画	第1回 はじめに：発表日程決定とグループ発表準備 第2回 グループ発表：日本の雑誌に見るパリ 第3回 日本で紹介されるパリ、フランス 第4回 フランスの学校制度 第5回 日仏の学校制度を比較する 第6回 発表＋討論（1） 第7回 発表＋討論（2） 第8回 発表＋討論（3） 第9回 発表＋討論（4） 第10回 発表＋討論（5） 第11回 発表＋討論（6） 第12回 発表＋討論（7） 第13回 発表＋討論（8） 第14回 日仏の働き方・休み方 第15回 フランスから見た日本						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：発表に備えて、日仏両方のデータを収集し、まとめてきてください。 授業後学習：発表に対するコメントに答えながら、両文化の比較をさらに進めてください。それをまとめて、学期末レポートとして提出してもらいます。その作業を通じて論理的思考力も養っていきます。						
授業方法	演習を中心に、講義の時間も取りながら進めます。						
評価基準と評価方法	授業内評価50%（授業中発表25%、小レポート等25%、）、学期末レポート50%						
教科書	必要に応じてプリントを配布します。						
参考書	必要に応じて配布プリントに記載します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	伝わる文章の実践練習						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、共同作業で実際に文章を作成します。</p> <p>また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになります。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣が身につきます。 ・レポートを書くために必要な基礎力が身につきます。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メールの書き方(1) 第3回 メールの書き方(2) 第4回 メールの書き方(3) 第5回 達成度確認テスト1 第6回 さまざまな文章表現(1) 第7回 さまざまな文章表現(2) 第8回 さまざまな文章表現(3) 第9回 達成度確認テスト2 第10回 アカデミック・ライティングの基礎(1) 第11回 アカデミック・ライティングの基礎(2) 第12回 アカデミック・ライティングの基礎(3) 第13回 アカデミック・ライティングの基礎(4) 第14回 達成度確認テスト3 第15回 まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 授業後：授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	前半では、グループまたはペアで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。 後半のアカデミック・ライティングに関しては、個人での作業が中心になります。						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度テスト3回50%						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	伝わる文章の実践練習						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、共同作業で実際に文章を作成します。</p> <p>また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになります。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣が身につきます。 ・レポートを書くために必要な基礎力が身につきます。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メールの書き方(1) 第3回 メールの書き方(2) 第4回 メールの書き方(3) 第5回 達成度確認テスト1 第6回 さまざまな文章表現(1) 第7回 さまざまな文章表現(2) 第8回 さまざまな文章表現(3) 第9回 達成度確認テスト2 第10回 アカデミック・ライティングの基礎(1) 第11回 アカデミック・ライティングの基礎(2) 第12回 アカデミック・ライティングの基礎(3) 第13回 アカデミック・ライティングの基礎(4) 第14回 達成度確認テスト3 第15回 まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 授業後：授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	前半では、グループまたはペアで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。 後半のアカデミック・ライティングに関しては、個人での作業が中心になります。						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度テスト3回50%						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	金岡 直子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「伝わる」文章の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになる。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣を身につける。 ・レポートを書くために必要な基礎力を身につける。 						
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	<前学習> 読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 <後学習> 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。テーマについて文章を書く個人作業もあります。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	金岡 直子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「伝わる」文章の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになる。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣を身につける。 ・レポートを書くために必要な基礎力を身につける。 						
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	<前学習> 読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 <後学習> 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。テーマについて文章を書く個人作業もあります。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「伝わる文章」の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになる。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣を身につける。 ・レポートを書くために必要な基礎力を身につける。 						
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト1 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト2 第10回：アカデミック・ライティングの基本(1) 第11回：アカデミック・ライティングの基本(2) 第12回：アカデミック・ライティングの基本(3) 第13回：アカデミック・ライティングの基本(4) 第14回：達成度確認テスト3 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	<前学習> 読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 <後学習> 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「伝わる文章」の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになる。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣を身につける。 ・レポートを書くために必要な基礎力を身につける。 						
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト1 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト2 第10回：アカデミック・ライティングの基本(1) 第11回：アカデミック・ライティングの基本(2) 第12回：アカデミック・ライティングの基本(3) 第13回：アカデミック・ライティングの基本(4) 第14回：達成度確認テスト3 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	<前学習> 読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 <後学習> 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	牧野 由紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	伝わる文章の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習もおこないます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになります。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣が身につきます。 ・レポートを書くために必要な基礎力が身につきます。 						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加やプレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	牧野 由紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	伝わる文章の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習もおこないます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになります。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣が身につきます。 ・レポートを書くために必要な基礎力が身につきます。 						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加やプレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本の歴史／日本史I						
担当教員	内藤 英恵						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	戦時下の文化・生活						
授業の概要	日本近現代史を中心として文化、生活の観点から歴史的事象を取り上げ、歴史の展開を考察し日本社会に対する多角的で柔軟な見方を養います。具体的には、日常の生活の中で接している衣食住に戦争が及ぼした影響を理解し、平和の意義などについて考えます。						
到達目標	過去がどのように現代につながっているかを見ることで、現在に生きる私たちの立ち位置を確認する。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 現代を規定しているもの ～日本人の「国」意識、「伝統」の偽造～ 第3回 近代の戦争と十五年戦争 第4回 戦争とくらし（1） 戦時下のくらしとは 第5回 戦争とくらし（2） 食糧生産と食生活 第6回 戦争とくらし（3） 衣生活・娯楽の制限 第7回 戦争とくらし（4） 女性の社会活動 第8回 旧日本軍の組織・制度（1） 第9回 旧日本軍の組織・制度（2） 第10回 銃後美談・軍国美談 第11回 「日本精神」「大和魂」とは 第12回 戦時下の平等不平等 第13回 現代の軍隊（1） 第14回 現代の軍隊（2） 第15回 質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	手持ちのもので良いので日本史年表や史料集などを適宜参照し理解を深めること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	10回以上の出席が認められる者に対し、レポートにより評価する。 ※就職活動、実習、その他事情のある者は直近で申し出ること。追加でレポート課題を与える場合有り。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本史A						
担当教員	内藤 英恵						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本につながる歴史						
授業の概要	日本近現代史を中心に、歴史の展開を考察し日本社会に対する多角的で柔軟な見方を養います。						
到達目標	過去がどのように現代につながっているかを見ることで、現在に生きる私たちの立ち位置を確認する。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 「日本人」、「日本」と「植民地」 第3回 前近代の天皇制（1） 第4回 前近代の天皇制（2） 第5回 明治維新と天皇制（1） 第6回 明治維新と天皇制（2） 第7回 華族の成立 ～「皇室の藩屏」として～（1） 第8回 華族の成立 ～「皇室の藩屏」として～（2） 第9回 天皇の軍隊の確立と日清・日露戦争 第10回 華族と日清・日露戦争 第11回 大正・昭和期の天皇制 第12回 日中戦争・アジア太平洋戦争下の華族（1） 第13回 日中戦争・アジア太平洋戦争下の華族（2） 第14回 天皇と戦争 第15回 質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	手持ちのもので良いので日本史年表や史料集などを適宜参照し理解を深めること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	10回以上の出席が認められる者に対し、レポートにより評価する。 ※就職活動、実習、その他事情のある者は直近で申し出ること。追加でレポート課題を与える場合有り。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本史B						
担当教員	内藤 英恵						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	特権階級の女性の生活						
授業の概要	日本近現代史における皇族、華族等の特権階級の女性を取り上げ、歴史の展開を考察し日本社会に対する多角的で柔軟な見方を養います。また現代に生きる女性を取り巻く制度にも目を向けつつ授業を進めます。						
到達目標	過去がどのように現代につながっているかを見ることで、現在に生きる私たちの立ち位置を確認する。						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 華族女性の結婚（1） 第3回 華族女性の結婚（2） 第4回 現代の社会システムからみえてくるもの（1） 第5回 現代の社会システムからみえてくるもの（2） 第6回 華族女性の職業（1） 第7回 華族女性の職業（2） 第8回 華族の逸脱（1） 第9回 華族の逸脱（2） 第10回 華族の日記を読む（1） 第11回 華族の日記を読む（2） 第12回 華族の日記を読む（3） 第13回 現代の社会システムからみえてくるもの（3） 第14回 現代の社会システムからみえてくるもの（4） 第15回 質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	手持ちのもので良いので日本史年表や史料集などを適宜参照し理解を深めること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	10回以上の出席が認められる者に対し、レポートにより評価する。 ※就職活動、実習、その他事情のある者は直近で申し出ること。追加でレポート課題を与える場合有り。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本の文学						
担当教員	石原 のり子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	『源氏物語』の女性たち 『源氏物語』は、成立から千年を経た今もなお、読む者を魅了する優れた文学作品である。登場人物の心情が精緻に描写されていることが、『源氏物語』の大きな特徴であり、魅力である。母として、妻として、何よりも一人の女性としての喜びや悲しみが、さまざまに描きだされている。この作品を通じて、千年後に生きる私たちにも通じる、女性にとっての幸せとは何か、ということも考えてみたい。						
授業の概要	本講義では特に、『源氏物語』に登場する女性たちに注目して『源氏物語』の世界に触れる。時間の制約上、主として第一部、特に光源氏の青年時代の物語に焦点をあてる。						
到達目標	『源氏物語』の内容だけにとどまらず、平安貴族社会についての知識の習得も目指す。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 はじまりの物語—桐壺更衣— 第3回 中の品の女—空蝉・末摘花— 第4回 かわいい女—夕顔— 第5回 かわいくなれない女—葵の上— 第6回 女のプライド—六条御息所— 第7回 初恋の人—藤壺の宮— 第8回 映像で見る『源氏物語』の世界 第9回 初恋の形代—紫の上①— 第10回 賢い女—明石の君— 第11回 強い母として—藤壺の宮②— 第12回 心安らぐ女性—花散里— 第13回 女性のたしなみ—雲居の雁— 第14回 女の幸せとは—紫の上②— 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	今回の授業では、特に『源氏物語』の女性に注目して読むため、扱いきれない部分が出てくる。しかし、授業内容理解のためには、物語の概要を知っておくことが不可欠であるため、授業毎に、その回に取り扱う内容の予習、復習、物語の概要の自習が求められる。						
授業方法	講義形式で行う。						
評価基準と評価方法	平常点（感想・意見カードを毎回提出してもらい、授業の理解度と参加度をはかる）30％ 試験70％						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本の文学						
担当教員	藤原 美佳						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	『伊勢物語』の享受史 「色好み」の男の恋愛を描く『伊勢物語』の享受の歴史は長い。そして、時代や読者によりさまざまな解釈がある。現代の古典文法に則した読み方以外の解釈を知ること、『伊勢物語』の物語世界を味わう。						
授業の概要	『伊勢物語』が、時代ごとに、どのように享受されたのか、変遷と展開を概観する。具体的には『伊勢物語』第一段～第九段を取り上げる。物語の概要と現代の解釈を確認したのちに、平安時代から江戸時代までを対象に、時代ごとでどのように解釈されてきたのか、違いを比較・検討していく。						
到達目標	『伊勢物語』の内容を理解するとともに、平安時代から江戸時代わたる各時代の基礎的な文学史の知識の習得も目指す。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 業平と奈良—『伊勢物語』一・二段 第3回 業平と高子—『伊勢物語』三～六段 第4回 東下り—『伊勢物語』七～九段 第5回 映像に見る『伊勢物語』—現代劇 第6回 平安時代の解釈—テキストの問題 第7回 鎌倉時代の解釈—藤原定家と勸物 第8回 鎌倉時代の解釈—古注釈の世界 第9回 室町時代の解釈—古注釈と謡曲の詞章 第10回 映像に見る『伊勢物語』—能楽鑑賞 第11回 室町時代の解釈—一条兼良の解釈 第12回 室町時代の解釈—宗祇の解釈 第13回 江戸時代の解釈—後水尾院を中心として 第14回 江戸時代の解釈—国学者の解釈 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げるのは、『伊勢物語』のうちのごく一部である。物語の概要を予習しておくこと。また授業では、時代ごとによる解釈の違いを比較・検討をするため、授業時に配布する資料や授業中に紹介する参考文献などを中心に、復習をしておくこと。						
授業方法	講義形式で行う						
評価基準と評価方法	平常点（感想カードによる）30%、期末試験70%						
教科書	授業時にプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本文化を学ぶA／日本文化特殊講義A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術工芸における平安文学の享受						
授業の概要	<p>平安時代の物語や歌集は、その時代だけでなく、連綿と読み継がれ、後世に多大な影響を与えてきた。それは文学の面だけではなく、文化全般に享受され、美術・工芸作品としても様々な多くの作品を生み出した。美しい料紙に流麗な文字で書かれた『西本願寺本三十六人集』や『元永本古今和歌集』などの豪華な装飾本歌集や、国宝『源氏物語絵巻』や『伊勢物語絵巻』などの絵巻から、王朝文化の華やかさや技術の高さを窺うことができる。</p> <p>本授業では、このような平安文学の影響のもとに製作された美術・工芸品について、もとの平安文学を鑑賞するとともに、それがどのように享受されてきたか、その様相を講義する。</p> <p>それらの美術・工芸品について、理解しやすいように、複製を示したり、パソコンやDVDの画像をプロジェクターで示したりしながら解説する。</p>						
到達目標	美術・工芸品における平安文学の享受の様相を具体的に理解する。						
授業計画	第1回 平安文学とその影響を受けた美術・工芸品についての概説 第2回 屏風歌と屏風絵 第3回 『古今和歌集』の写本（高野切・元永本・伝公任筆本・唐紙卷子本など） 第4回 『西本願寺本三十六人集』 第5回 歌仙絵と『佐竹本三十六人集』 第6回 古筆切と手鑑 第7回 冷泉家の至宝 第8回 国宝『源氏物語絵巻』 第9回 『伊勢物語絵巻』（白描梵字経下絵・久保惣本など） 第10回 本阿弥光悦と嵯峨本（古活字本）の刊行 第11回 絵入り版本の盛行 第12回 俵屋宗達と『伊勢物語図色紙』 第13回 尾形光琳の『伊勢物語』享受（国宝『燕子花図屏風』など） 第14回 古典文学をモチーフとした調度や衣装 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	古典文学と関わりのある美術・工芸品に興味を持ち、それらが扱われた本やテレビ番組を見たり、展覧会に出かけたりしてほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（90%）と平常点（10%）						
教科書	『カラー版 王朝文学選』岡野通夫・小山利彦監・奈古忠國編（おうふう）978-4-273-02212-9 プリントを併用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本文化を学ぶB／日本文化特殊講義B						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語の中世						
授業の概要	御伽草子は、主として室町時代に広く楽しまれた物語類をいう。今回は、まず、誰もがよく知っている『浦島太郎』を読み、御伽草子の文体に親しみたい。次いで、実在の人物をモデルにしてできた『小町草子』を通して、中世の物語がどのように形成されていったかを考究する。						
到達目標	平安時代の高度に文学的な物語から、今日のおとぎ話に至る、我が国における「物語」という文化に対する理解を深める。						
授業計画	1) 物語概説 2) 『御伽草子』について－その1 3) 『御伽草子』について－その2 4) 『浦島太郎』を読む－その1 5) 同上－その2 6) 同上－その3 7) 御伽草子の文体 8) 『小町草子』を読む－その1 9) 同上－その2 10) 同上－その3 11) 同上－その4 12) 同上－その5 13) 御伽草子の生成－その1 14) 同上－その2 15) まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講読箇所をあらかじめ音読しておくこと						
授業方法	講義を中心とし、適宜、講読を交える						
評価基準と評価方法	レポート（1回）と試験						
教科書	プリントによる						
参考書	教室で指示する						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本文化を学ぶC／日本文化特殊講義C						
担当教員	田中 まき						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学における旅						
授業の概要	現代と違って、昔の旅は概して種々の困難や特別な事情のある旅であった。古代や中世の人々はどのような旅をしたのか。旅が現在のように娯楽になったのはいつのことなのか。本授業では、古典文学における旅の様相を読み解くことによって、古代から近世に至る旅について考察したい。						
到達目標	古典文学に描かれた古代から近世における旅の様相を理解する。						
授業計画	第1回 神話におけるヤマトタケルの旅 第2回 万葉人の旅 第3回 菅原道真の大宰府への左遷 第4回 『伊勢物語』における「東下り」 第5回 『土佐日記』の船旅 第6回 『更級日記』の旅（任国からの帰郷） 第7回 王朝人の寺社参詣の旅 第8回 西行と歌枕 第9回 平家の都落ちと『平家物語』 第10回 『十六夜日記』の旅と中世の紀行文 第11回 能における旅 第12回 芭蕉の『奥の細道』の旅 第13回 浄瑠璃・歌舞伎における道行文 第14回 伊勢参りの流行と『東海道中膝栗毛』 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業では古典文学における旅の様相を読み取って行くので、プリントの文章が読解できるよう復習してほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（90%）と平常点（10%）						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本文化を学ぶD／日本文化特殊講義D						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本芸能史入門・歌舞伎						
授業の概要	江戸時代を代表する芸能である歌舞伎について考える。異常な行動をすることを戦国末期には「かぶく（傾く）」といい、熱病のように流行した。社会の混乱の中でこうした異常な行動を取る「かぶきもの」が増えていったが、やがてその精神だけが芸能として残った。それが「かぶき」である。現代にも続くこの芸能について、入門者用にその概略を考えてみたい。						
到達目標	日本文化の代表の一つである歌舞伎の基礎と概要を学ぶ						
授業計画	第1回 歌舞伎入門 第2回 歌舞伎の歴史1 成立から元禄歌舞伎まで 第3回 歌舞伎の歴史2 江戸歌舞伎の流行から明治まで 第4回 歌舞伎役者1 歴史と役柄 第5回 歌舞伎役者2 身分と生活 第6回 歌舞伎の観客 第7回 歌舞伎の劇場 第8回 歌舞伎のドラマ1 戯曲 第9回 歌舞伎のドラマ2 種類 第10回 歌舞伎の演出1 音楽と舞踊 第11回 歌舞伎の演出2 大道具・小道具 第12回 歌舞伎の作品1 歌舞伎18番 第13回 歌舞伎の作品2 義太夫狂言 第14回 歌舞伎の作品3 舞踊劇 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで舞台映像を見て学ぶ必要がある						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本文学史A						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	上代から江戸時代末までの日本文学の歴史を学ぶ。						
授業の概要	上代から江戸時代末までの日本文学の歴史を学ぶとともに、著名な作品については若干の講読も行う。						
到達目標	文学史の知識を身につける。						
授業計画	1 日本文学の定義 2 日本文学史の歴史区分 3 上代の文学 その1 4 上代の文学 その2 5 中古の文学 その1 6 中古の文学 その2 7 中古の文学 その3 8 中世の文学 その1 9 中世の文学 その2 10 中世の文学 その3 11 近世の文学 その1 12 近世の文学 その2 13 近世の文学 その3 14 まとめ 15 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習は必要ないが、授業内容をしっかり復習すること。						
授業方法	講読を交えつつ、講義中心に行う。						
評価基準と評価方法	平常点（50%）と期末試験（50%）						
教科書	『日本古典読本』（筑摩書房）ISBN4-480-91708-X						
参考書	教室で指示する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解することを目指す。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の散文 導入 第4回 明治期の散文 応用 第5回 明治期の韻文 第6回 大正期の散文 導入 第7回 大正期の散文 応用 第8回 大正期の韻文 第9回 昭和期の散文 導入 第10回 昭和期の散文 応用 第11回 昭和期の韻文 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	『近代文学年表』双文社出版 ISBN:4-88164-031-3						
参考書	授業中に指示						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	人間関係論						
担当教員	中里 直樹						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学の対人レベル・集団レベル						
授業の概要	<p>この授業の目的は、前期授業「社会心理学」に引き続き、社会心理学の基礎について学ぶことです。社会心理学は、身近な他者や所属している集団、社会的環境が私たちの心の動きにどのように影響を与えるかを考える心理学の一分野です。この授業では、社会心理学の研究領域の中から、コミュニケーション、親密な対人関係、ソーシャルサポート、集団の中で個人の心理といった対人レベルと集団レベルについて講義します。</p> <p>【テーマとキーワード】 コミュニケーション、親密な対人関係、ソーシャルサポート、集団と個人</p>						
到達目標	この授業を受講することで、社会心理学の対人レベルと集団レベルの基礎知識を得ることができます。また、理論的なことのみならず、みなさん自身の人間関係について考える機会を提供できればと思います。						
授業計画	<p>【第1回】 人間関係論イントロダクション 【第2回】 対人的コミュニケーション(1)：言語的・非言語的コミュニケーション 【第3回】 対人的コミュニケーション(2)：顔面表情 【第4回】 親密な対人関係(1)：対人関係の始まり 【第5回】 親密な対人関係(2)：対人関係の発展 【第6回】 親密な対人関係(3)：対人関係の持続 【第7回】 親密な対人関係(4)：対人関係の危機 【第8回】 親密な対人関係(5)：対人関係の終焉 【第9回】 援助行動 【第10回】 集団と個人(1)：集団の特徴と機能 【第11回】 集団と個人(2)：リーダーシップ、集団間葛藤 【第12回】 人間関係とストレス(1)：ストレスと対処方法 【第13回】 人間関係とストレス(2)：ソーシャルサポート 【第14回】 後期授業の振り返り 【第15回】 後期試験と全体のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業までに教科書の該当する箇所を読んで来てください。 授業後学習：毎授業ごとに配布資料と教科書を用いて、復習してください。</p>						
授業方法	パワーポイントを使って講義形式で授業をおこないます。ほぼ毎回、授業中に課題(感想文形式)に取り組んでもらい、提出を求めます。						
評価基準と評価方法	期末試験（50%）、提出課題（50%）で総合的に評価します。						
教科書	『社会心理学（初版）』（藤原武弘 編著、晃洋書房、2009年、ISBN978-4-7710-2010-8）						
参考書	授業の内容をまとめたプリントを配布します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	認知心理学						
担当教員	中尾 美月						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	人の認知の特徴やしぐみについて理解する。						
授業の概要	認知とは「知る」ことである。 人は「こころ」を通して、外界を、他者を、そして自分自身を認知している。 この授業では、認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって、「こころ」の不思議さを実感し、人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。						
到達目標	人の認知がいかに主観的なものであり、対象をありのままに捉えていないということを体験的に理解できるようになる。 さらには「認知が変われば人生が変わる」をキーワードに、よりよく生きるためのヒントが得られる。						
授業計画	第1講 認知心理学とは 第2講 知覚1 知覚の不思議 第3講 知覚2 光と色の心理学 第4講 知覚3 三次元の世界 第5講 記憶1 自由再生の実験からわかること 第6講 記憶2 感覚記憶と短期記憶 第7講 記憶3 長期記憶 第8講 推論と思考 サバイバルゲーム 第9講 心の病と認知1 ストレスと認知 第10講 心の病と認知2 うつと認知 第11講 心の病と認知3 認知療法 第12講 社会的認知1 自己認知とアサーション 第13講 社会的認知2 他者認知 第14講 まとめと試験 第15講 試験解説						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行うが、適宜、体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。						
評価基準と評価方法	期末試験の成績を100点満点とし、欠席回数に応じて2点ずつ減点する。 期末試験では、客観式問題70点、論述式問題30点として採点する。 出席状況は毎回配布する感想カードで確認する。なお、感想カードに書いた内容は評価に影響しない。						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配布する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。						
授業の概要	江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特徴を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。						
到達目標	阪神間における独自の文化を理解し、ライフスタイルを形成する衣・食・住・遊・芸術のデザインがわかった。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 阪神間とは。 3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地 4. 阪神間に生きた建築家とその作品 5. 阪神間のサロン文化 6. 阪神間の食文化 7. ホテル文化のさきがけ 8. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介 9. 阪神間のデザイナーたち 10. 谷崎潤一郎と阪神間 11. 阪神間の美術家たち 12. 阪神間の音楽家や写真家たち 13. 宝塚歌劇レビューのはじまり 14. 阪神間のスポーツ 15. 阪神間の娯楽、最後に試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	試験100%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布。						
参考書	毎日新聞社編『阪神観』（東方出版）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	比較文化IA						
担当教員	宗像 衣子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸と文化						
授業の概要	<p>文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。</p> <p>ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、現代文化へと開かれる「19世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、試みたい。</p> <p>このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、私たちににとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。</p>						
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わいましょう。						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 19世紀西欧文化 3 西欧文化と日本文化 4 序論・歴史状況 欧米と日本1（フランス・ベルギー） 5 欧米と日本2（ドイツ・オーストリア） 6 欧米と日本3（イギリス・アメリカ） 7 欧米と日本4（スペイン・イタリア） 8 欧米と日本5（日本） 9 総論・文芸の全体 欧米と日本1（フランス・ベルギー） 10 欧米と日本2（ドイツ・オーストリア） 11 欧米と日本3（イギリス・アメリカ） 12 欧米と日本4（スペイン・イタリア） 13 欧米と日本5（日本） 14 まとめ 15 学習の展望 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。						
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	比較文化IB						
担当教員	宗像 衣子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸と文化						
授業の概要	<p>文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。</p> <p>ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、現代文化へと開かれる「19世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、試みたい。</p> <p>このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、私たちににとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。</p>						
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わいましょう。						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究ガイダンス 2 各論・個別の芸術家や作品 3 欧米と日本1（フランス） 4 欧米と日本2（ベルギー） 5 欧米と日本3（ドイツ） 6 欧米と日本4（オーストリア） 7 欧米と日本5（イギリス） 8 欧米と日本6（アメリカ） 9 欧米と日本7（スペイン） 10 欧米と日本8（イタリア） 11 欧米と日本9（日本） 12 世紀末文化・芸術の射程 13 比較文化の成果と意義 14 研究の展望 15 総合 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。						
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	比較文化IIA						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。						
到達目標	映像を通しての現代世界の理解						
授業計画	1回 授業概要と成績評価基準の説明 2回 『北京バイオリン』の背景（現代中国の巨大な社会格差）解説 3回 『北京バイオリン』鑑賞 4回 『北京バイオリン』鑑賞後の解説、感想文記入 5回 『グッバイ、レーニン』の背景（1989年の東欧革命と1990年のドイツ統一）解説 6回 『グッバイ、レーニン』鑑賞後の解説、感想文記入 7回 『女はみんな生きている』の背景（現代フランスの移民問題、あるいはマグレブ差別）解説 8回 『女はみんな生きている』鑑賞後の解説、感想文記入 9回 『逆噴射家族』の背景（1980年代の日本の家族形態の変化、または家族の絆の危機）解説 10回 『逆噴射家族』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『ウォール街』の背景（1980年代のアメリカの金融資本主義醸成と拝金主義）解説 12回 『ウォール街』鑑賞 13回 『ウォール街』鑑賞後の解説、感想文記入 14回 『不適切な真実』の背景（現代世界を脅かす地球温暖化）解説 15回 『不適切な真実』鑑賞後の解説、感想文記入						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。						
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。						
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期1回ずつ）80%。						
教科書	毎回、解説プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	比較文化IIB						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。						
到達目標	映像を通しての現代世界の理解						
授業計画	1回 『Always 三丁目の夕日』の背景（1950年代後半の日本の高度成長期における地域社会の絆）解説 2回 『Always 三丁目の夕日』鑑賞後の解説、感想文記入 3回 『ブラッド・ダイヤモンド』の背景（1990年代アフリカ小国シエラレオネの内戦と資源搾取の状況）解説 4回 『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞 5回 『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞後の解説、感想文記入 6回 『猟奇的な彼女』の背景（現代韓国の社会事情）解説 7回 『猟奇的な彼女』鑑賞後の解説、感想文記入 8回 『モスクワは涙を信じない』の背景（1950年代後半～70年代後半のソ連の市民生活）解説 9回 『モスクワは涙を信じない』鑑賞 10回 『モスクワは涙を信じない』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『中国の小さなお針子』の背景（1970年代初頭の文革期中国の下放政策と改革開放後の現代中国）解説 12回 『中国の小さなお針子』鑑賞後の解説、感想文記入 13回 『遠い夜明け』の背景（1980年代の南アフリカ共和国の人種隔離政策と人権闘争）解説 14回 『遠い夜明け』鑑賞 15回 『遠い夜明け』鑑賞後の解説、感想文記入						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。						
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。						
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期1回ずつ）80%。						
教科書	毎回、解説プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	被服整理学とは、被服の管理に関する学問である。取り扱う内容は、日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまで及ぶ。本講義では、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。						
到達目標	衣服の洗浄理論を理解し、素材に応じた適切な管理方法を習得する。						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤 第3回：洗剤の成分と洗浄作用（1）界面活性剤の性質 第4回：洗剤の成分と洗浄作用（2）界面活性剤の種類 第5回：洗剤の成分と洗浄作用（3）配合剤の種類と洗浄作用 第6回：洗濯機 第7回：家庭洗濯 第8回：洗浄力・機械作用の試験法と評価 第9回：漂白剤と増白 第10回：しみ抜き 第11回：糊つけと仕上げ 第12回：衣服の保管 第13回：商業洗濯、取扱い絵表示 第14回：衣服の廃棄とリサイクル 第15回：まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。						
授業方法	講義、VTR						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、試験（40－60％）						
教科書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』 中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	私達が着用している被服は、どのような繊維から作られているのだろうか。本講義では、綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維の関わりについて考察する。						
到達目標	被服を構成する繊維の種類と性質を理解し、目的に応じた繊維素材を選択できる知識を習得する。						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維①綿 第3回：天然繊維 植物繊維②麻、他 第4回：天然繊維 動物繊維①絹 第5回：天然繊維 動物繊維②羊毛、獣毛 第6回：化学繊維 化学繊維とは何か 第7回：化学繊維 再生繊維、半合成繊維①レーヨン・キュブラ・アセテート 第8回：化学繊維 合成繊維①ナイロン、アクリル 第9回：化学繊維 合成繊維②ポリエステル 第10回：化学繊維 合成繊維③ビニロン、ポリウレタン、他 第11回：化学繊維 無機繊維①ガラス、炭素、金属繊維 第12回：新しい繊維の開発 ①感性和繊維 第13回：新しい繊維の開発 ②高機能繊維 第14回：生活環境と繊維 第15回：まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。						
授業方法	講義、VTR						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、レポート（40－60％） 遅刻、欠席は平常点より減点する。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学－概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476 『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術史A						
担当教員	上久保 真理						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教西欧を中心に、写真誕生までの美術の歴史を「近代化」、「世俗化」という視点から概観する。						
授業の概要	主としてキリスト教西欧の、写真誕生までの美術をアツカウ。ルネサンス期より緩やかに進行してゆく「近代化」、「世俗化」の動きを、美術の変容をたどることで考察する。美術作品を通じ、その作品の背景となった時代や文化の特徴や、作者の抱いていた思想や思惑、他の作品との関連など、様々な要素を読み解くことに親しむ。						
到達目標	「世俗化」へと向かう美術の大きな流れを概観する。一つひとつの美術作品に、その作品が属する時代、社会、文化、思想が深く関わっていることを理解する。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 キリスト教以前—古代ギリシャ、ローマの美術について— 第3回 教会と美術1—キリスト教初期の美術の役割— 第4回 教会と美術2—ロマネスクからゴシックにかけての美術様式の変化— 第5回 自然研究と美術1—文芸復興— 第6回 自然研究と美術2—自然科学と美術との関わり— 第7回 宗教改革と美術1—北方ルネサンス人たちの細部への観察眼— 第8回 宗教改革と美術2—マニエリスムの美術とその思想背景— 第9回 宗教改革と美術3—プロテスタント思想による美術の変化— 第10回 市民階級と美術1—リアリティーを求めて— 第11回 市民階級と美術2—市民階級の台頭と絵画ジャンルの細分化— 第12回 市民階級と美術3—貴族の視点から庶民の視点へ— 第13回 革命と美術1—記録・報道メディアとしての絵画— 第14回 革命と美術2—変容する世界・自然への逃避— 第15回 まとめと展望（写真誕生までの美術の大きな流れを確認する）						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみることに。また授業に興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみることに。授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表もあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術史B						
担当教員	上久保 真理						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	近代から現代にいたる美術の変容とその多様化を、社会的、思想的背景と関連づけてとらえる。						
授業の概要	写真誕生以降の美術が、その存在意義を求めて多様化してゆく過程を概観する。「美術」や「作品」という概念そのものも、様々な解釈により常に揺れ動いてきた。今日の、そして今後のさらに多様化するであろう美術を自分たちなりに読み解き、評価しようとする姿勢を養う。						
到達目標	近代から現代までの美術の変容をたどることで、美術の変化がわたしたちの感性や価値観の変化を反映していることを理解する。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 写真誕生－写真の誕生と絵画との葛藤－ 第3回 写真誕生後の絵画の可能性を探る1－知覚と画面－ 第4回 写真誕生後の絵画の可能性を探る2－意味と画面－ 第5回 「存在する」絵画－キュビズムの理論とその思想背景－ 第6回 社会活動としての美術の可能性－理想の生活を求めて－ 第7回 戦争と美術－未来主義、ダダの政治性とその思想背景－ 第8回 レディ・メイド－マルセル・デュシャンの試み－ 第9回 夢と現実－シュールレアリズムの政治性－ 第10回 デザインと抽象1－ロシア・アヴァンギャルドとバウハウスの活動－ 第11回 デザインと抽象2－カンディンスキー、クレー、モンドリアンの造形研究－ 第12回 大衆と人気－ポップ・アートという戦略－ 第13回 集積する「物」－大量消費社会とネオ・ダダ－ 第14回 多様化する美術－本当に「何でもあり」なのか？－ 第15回 まとめと展望（今、そしてこれからの美術の可能性について）						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみることを。また授業で興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみることを。授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表もあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術実技／美術実技A						
担当教員	宮地 佳代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	素描の制作実技						
授業の概要	作品を実際に制作することで、創ることの意味を考え、表現することの楽しみを体験し、美術の理解を深めることを目的としている。 この授業では、美術表現の骨格である素描の制作をする。						
到達目標	事物のあるがままの姿をとらえ、それを平面上に表現するためには、どのような工夫が必要であるか。またそのためにはどのような描画材料が適当であるか。 素描の多様性を知ると同時に、対象のとらえ方、「みる」ことの多義性を知る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 画材を知る：鉛筆でのウォミングアップ 第3回 模写：名画に学ぶ 第4回 描法1：ハッチング 第5回 観察と表現（1）形とスケール 第6回 観察と表現（2）面にとらえる 第7回 観察と表現（3）明暗とタッチ 第8回 構図と遠近法 第9回 描法2：ぼかし 第10回 植物（1）線とリズム 第11回 植物（2）淡彩 第12回 画材と描法 第13回 クロッキー 第14回 「わたし」の表現 第15回 合評						
授業外における学習（準備学習の内容）	日常生活のなにげない時間の合間にでも何かスケッチをして下さい。ものの特徴を捉えることや素描上達に役立ちます。						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	出席状況を含む平常点30%、課題作品70%との総合評価						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術入門／（制作の視点からみた美術）						
担当教員	宮地 佳代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	<p>美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拓げ、美術への理解、関心を深めることを目的としている。</p> <p>この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。</p>						
到達目標	<p>作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけたい。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 油彩画</p> <p>第3回 日本画（1）形態と機能</p> <p>第4回 日本画（2）表現</p> <p>第5回 遠近法（1）西洋と日本</p> <p>第6回 遠近法（2）変貌する遠近法</p> <p>第7回 フレスコ画</p> <p>第8回 テンペラ画</p> <p>第9回 時間の表現</p> <p>第10回 版画（1）版画の特性</p> <p>第11回 版画（2）凸版／孔版</p> <p>第12回 版画（3）凹版／平版</p> <p>第13回 彫塑</p> <p>第14回 素描</p> <p>第15回 多様化する表現</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>日頃から美術作品（美術館、画集、街中に設置されている作品等）をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想をメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席状況を含む平常点30%、課題レポート30%、期末レポート40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術入門／（制作の視点からみた美術）						
担当教員	宮地 佳代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	<p>美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拓げ、美術への理解、関心を深めることを目的としている。</p> <p>この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。</p>						
到達目標	<p>作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけたい。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画（1）形態と機能 第4回 日本画（2）表現 第5回 遠近法（1）西洋と日本 第6回 遠近法（2）変貌する遠近法 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画（1）版画の特性 第11回 版画（2）凸版／孔版 第12回 版画（3）凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>日頃から美術作品（美術館、画集、街中に設置されている作品等）をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想をメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席状況を含む平常点30%、課題レポート30%、期末レポート40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	フランス文学I／世界の文学IVA（フランス文学）						
担当教員	木谷 吉克						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	フランスの20世紀の作家サン＝テグジュペリの作品を読んで、サン＝テグジュペリのものの見方、考え方、生き方を理解する。						
授業の概要	とりあげる作品は『南方郵便機』『夜間飛行』『人間の大地』『小さな王子さま』で、『夜間飛行』と『小さな王子さま』は作品のすべてを読む。『人間の大地』は一部のみとりあげる。『南方郵便機』は解説のみである。質問集をあらかじめ渡し、それぞれの質問について答えていただく。こちらで作成した質問集が終れば、受講生自身に質問を作成してもらい、それを質問集としてまとめ、その質問に答える形で授業を進めていく。						
到達目標	文学作品を深く読む力をつけ、ものごとを新たな目で見つめ直し、これまで考えることのなかったいろんなことについて改めて考えるようになってもらいたい。						
授業計画	第1回：授業の進め方の説明。サン＝テグジュペリとその作品についての概説。 第2回：『南方郵便機』までのサン＝テグジュペリおよび『南方郵便機』の解説。 第3回：『夜間飛行』までのサン＝テグジュペリについての解説。『夜間飛行』前半の質問集に沿って、各質問の答えを問うていく。 第4回、第5回：質問と答え。そのあいだに『夜間飛行』後半部の質問を受講生は考えてこななければならない。 第6回、第7回：受講生の考えた質問をまじえた新たな質問集を作成し、その質問集に沿って、答えていただく。 第8回～第10回：『夜間飛行』が終れば、『人間の大地』の一部をとりあげて、同じやり方で授業を進めていく。 第11回～第15回：『人間の大地』が終れば、『小さな王子さま』をとりあげ、同じやり方で授業を進めていく。						
授業外における学習（準備学習の内容）	質問集の質問に対する答えを必ず考えたうえで授業にのぞまなければならない。また途中から自ら質問を考えなければならないので、必ず作品中の求められている部分を深く読みこみ、少なくとも3つ程度の質問を作っておく必要がある。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	レポート80%、質問への答えと自分で考えてきた質問の内容に10%、出席率10%で最終成績を出す。						
教科書	『夜間飛行』サン＝テグジュペリ著、山崎庸一郎訳、みすず書房（サン＝テグジュペリ・コレクション2） なお『小さな王子さま』『人間の大地』についてはコピーして配付する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	文化人類学／文化人類学Ⅰ						
担当教員	吉岡 政徳						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「未開」と「文明」						
授業の概要	<p>概要：文化人類学は、それぞれの文化は独自の論理を持っておりそれらは相互に優劣関係にはないとする文化相対主義という視点に立脚している。本講義ではこの視点から、わけがわからず「奇妙」で「原始的」だと片付けられてきた儀礼、呪術、宗教運動、神話などをとらえなおし、それぞれが持つ独自の論理を考える。なお、宗教運動は植民地化の過程でも頻繁に生じており、それとの関連で、植民地化や独立運動についての文化人類学的議論を紹介する。</p> <p>目的：文化相対主義とはどういうものかを理解すること。</p>						
到達目標	「未開」＝「彼ら」と「文明」＝「我々」という二分法の壁を破ること。						
授業計画	第1回 進化主義と文化相対主義 第2回 儀礼と呪術 第3回 技術的行為と表現的行為 第4回 千年王国運動と土着主義運動 第6回 奇妙な宗教運動・カーゴカルト 第7回 植民地化 第8回 独立をめぐる 第9回 質疑応答と中間のレポート試験 第10回 未開と文明：未開人の思考とヨーロッパ人の思考 第11回 原始宗教と科学 第12回 デュルケームからレヴィ＝ストロースへ 第13回 野生の思考 第14回 神話の解読 第15回 文化人類学の軌跡 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で分からなかったところや疑問を持ったところを、次の週の授業の冒頭で質問できるようにしておくこと。また、授業中に紹介する参考文献には、できるだけ目を通すこと。						
授業方法	講義。毎回講義の冒頭で、前の週の授業の質問を受け付け、それに対して応答する。						
評価基準と評価方法	「持ち込み不可」の期末試験80%、「持ち込み可」の中間のレポート試験（きめられた時間で一斉にミニ・レポートを作成する試験）20%						
教科書	特に用いない。						
参考書	授業の中で適宜紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	文化人類学入門						
担当教員	吉岡 政徳						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	文化人類学と異文化理解						
授業の概要	概要：我々は、無意識のうちに自分の文化的価値観を通して異文化を見てしまう。これを自文化中心主義と呼ぶが、文化人類学的な思考は、この自文化中心主義を批判することから始まる。文化人類学の入門編である本講義では、フィールドワークを踏まえた具体的な異文化の事例を提示するが、それらの解説を通して、文化人類学的な思考とはどのようなものなのかを説明していく。						
到達目標	目標：自分たちの考え方が、いかに自文化中心主義的にできているかということに気づくようになること。						
授業計画	第1回 自文化中心主義を批判する 第2回 フィールドワークと異文化体験 第3回 テレビにおける異文化表象の嘘 第4回 常識を疑う 第5回 多様な生業 第6回 多様な社会Ⅰ：父系と母系 第7回 多様な社会Ⅱ：いびつな母系家族 第8回 質疑応答と中間のレポート試験 第9回 多様なリーダーシップⅠ：個人的能力でのし上がるビッグマン 第10回 多様なリーダーシップⅡ：階層の頂点にたつ首長・王 第11回 タブーの話 第12回 政治と経済の人類学 第13回 医療人類学入門 第14回 開発人類学入門 第15回 今日の課題：地球温暖化 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義でわからなかったところなどを、次の授業の冒頭で質問できるように準備しておくこと。また、授業中に指定した参考書にできるだけ目を通すこと						
授業方法	講義。毎回講義の冒頭で、前の週の授業に関する質問を受け付け、それにこたえる。						
評価基準と評価方法	「持ち込み不可」の期末試験80%、「持ち込み可」の中間のレポート試験（きめられた時間で一斉にミニ・レポートを作成する試験）20%						
教科書	特に用いない。						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	増永 理彦・平 まりこ						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度からとりあげ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められるかについて広く考察していく。						
到達目標	ホスピタリティを様々な角度から考察し、理解する。最終的には受講生自身がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
授業計画	第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係 第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情 第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景 第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業 第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて 第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等 第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する 第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える 第11回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは 第12回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは 第13回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは 第14回 発表「私が考えるホスピタリティとは」 第15回 発表「私が考えるホスピタリティとは」						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配布資料を読み、復習すること。最終的に理解した内容を発表に繋げる為、毎週の授業を理解し考察していくことが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使って講義形式で行う。						
評価基準と評価方法	毎回実施する小テスト・レポート75%、発表20%、授業態度5%とし、総合的に判断する。						
教科書	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	増永 理彦・平 まりこ						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度からとりあげ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められるかについて広く考察していく。						
到達目標	ホスピタリティを様々な角度から考察し、理解する。最終的には受講生自身がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
授業計画	第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係 第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情 第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景 第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業 第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて 第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等 第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する 第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える 第11回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは 第12回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは 第13回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは 第14回 発表「私が考えるホスピタリティとは」 第15回 発表「私が考えるホスピタリティとは」						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配布資料を読み、復習すること。最終的に理解した内容を発表に繋げる為、毎週の授業を理解し考察していくことが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使って講義形式で行う。						
評価基準と評価方法	毎回実施する小テスト・レポート75%、発表20%、授業態度5%とし、総合的に判断する。						
教科書	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	増永 理彦・平 まりこ						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度からとりあげ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められるかについて広く考察していく。						
到達目標	ホスピタリティを様々な角度から考察し、理解する。最終的には受講生自身がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
授業計画	第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係 第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情 第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景 第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業 第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて 第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等 第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する 第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える 第11回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは 第12回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは 第13回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは 第14回 発表「私が考えるホスピタリティとは」 第15回 発表「私が考えるホスピタリティとは」						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配布資料を読み、復習すること。最終的に理解した内容を発表に繋げる為、毎週の授業を理解し考察していくことが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使って講義形式で行う。						
評価基準と評価方法	毎回実施する小テスト・レポート75%、発表20%、授業態度5%とし、総合的に判断する。						
教科書	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	増永 理彦・平 まりこ						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度からとりあげ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められるかについて広く考察していく。						
到達目標	ホスピタリティを様々な角度から考察し、理解する。最終的には受講生自身がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
授業計画	第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係 第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情 第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景 第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業 第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて 第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等 第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する 第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える 第11回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは 第12回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは 第13回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは 第14回 発表「私が考えるホスピタリティとは」 第15回 発表「私が考えるホスピタリティとは」						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配布資料を読み、復習すること。最終的に理解した内容を発表に繋げる為、毎週の授業を理解し考察していくことが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使って講義形式で行う。						
評価基準と評価方法	毎回実施する小テスト・レポート75%、発表20%、授業態度5%とし、総合的に判断する。						
教科書	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	増永 理彦・平 まりこ						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度からとりあげ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められるかについて広く考察していく。						
到達目標	ホスピタリティを様々な角度から考察し、理解する。最終的には受講生自身がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
授業計画	第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係 第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情 第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景 第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業 第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて 第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等 第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する 第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える 第11回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは 第12回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは 第13回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは 第14回 発表「私が考えるホスピタリティとは」 第15回 発表「私が考えるホスピタリティとは」						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配布資料を読み、復習すること。最終的に理解した内容を発表に繋げる為、毎週の授業を理解し考察していくことが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使って講義形式で行う。						
評価基準と評価方法	毎回実施する小テスト・レポート75%、発表20%、授業態度5%とし、総合的に判断する。						
教科書	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	簿記・会計A						
担当教員	倉島 進						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の経理の仕組みを通じて、必要な簿記の知識を習得する。						
授業の概要	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。</p> <p>この授業では、簿記に慣れたしんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。</p> <p>特に、就職後、経理として必要な知識を習得することを目的として、いわゆる日常の経理処理が十分にできる力を本講座を通じて習得してもらうことを想定しています。</p> <p>そのため、いわゆる簿記検定試験に出る難しい論点を排除し、簿記の全体像をつかむことを主眼とします。</p> <p>日商簿記3級に挑戦する方は、本講座受講後後期に開講する簿記会計Bを続けて受講することをお勧めします。</p>						
到達目標	企業実務において経理担当者レベルの簿記の知識の習得						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 簿記の世界へようこそ！ 2 簿記のしくみを理解しよう 3 報告書を作ってみよう 4 現金のしくみと小口現金出納 5 商品売買のしくみ（信用取引、手形取引） 6 商品売買のしくみ（商品有高帳） 7 商品売買のしくみ（予約販売、手形記入帳） 8 固定資産、有価証券のしくみ 9 資本金、税金のしくみ 10 その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 11 簿記一巡の仕訳の流れ（まとめとして） 12 決算の流れ 13 決算処理のしくみ 14 帳簿の締切と報告書の作成 15 総まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習をするより、毎回の授業の内容を理解するようにテキストを読んでください。						
授業方法	<p>テキストとして、知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。</p> <p>簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p> <p>簿記会計Bを続けて受講することで、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。</p>						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験（前期、後期）を加味して評価する。						
教科書	知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』（セルバ出版）						
参考書	初回時に発表する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	簿記・会計A						
担当教員	倉島 進						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の経理の仕組みを通じて、必要な簿記の知識を習得する。						
授業の概要	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。</p> <p>この授業では、簿記に慣れたしんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。</p> <p>特に、就職後、経理として必要な知識を習得することを目的として、いわゆる日常の経理処理が十分にできる力を本講座を通じて習得してもらうことを想定しています。</p> <p>そのため、いわゆる簿記検定試験に出る難しい論点を排除し、簿記の全体像をつかむことを主眼とします。</p> <p>日商簿記3級に挑戦する方は、本講座受講後後期に開講する簿記会計Bを続けて受講することをお勧めします。</p>						
到達目標	企業実務において経理担当者レベルの簿記の知識の習得						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 簿記の世界へようこそ！ 2 簿記のしくみを理解しよう 3 報告書を作ってみよう 4 現金のしくみと小口現金出納 5 商品売買のしくみ（信用取引、手形取引） 6 商品売買のしくみ（商品有高帳） 7 商品売買のしくみ（予約販売、手形記入帳） 8 固定資産、有価証券のしくみ 9 資本金、税金のしくみ 10 その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 11 簿記一巡の仕訳の流れ（まとめとして） 12 決算の流れ 13 決算処理のしくみ 14 帳簿の締切と報告書の作成 15 総まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習をするより、毎回の授業の内容を理解するようにテキストを読んでください。						
授業方法	<p>テキストとして、知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。</p> <p>簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p> <p>簿記会計Bを続けて受講することで、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。</p>						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験（前期、後期）を加味して評価する。						
教科書	知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』（セルバ出版）						
参考書	初回時に発表する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）																																																						
科目名	簿記・会計B																																																						
担当教員	植田 麻衣子・松永 邦哉																																																						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0																																																
授業のテーマ	簿記会計Aの内容を踏まえて、日商簿記検定試験に挑戦できるレベルの知識を達成する																																																						
授業の概要	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>この授業では、簿記に慣れしただけで終わらせないために、できるだけやさしい言葉で解説します。簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、日商簿記検定試験3級の合格レベルまで、本講座を通じて目指します。</p> <p>簿記は続けて学習することが必要であり、自己トレーニングも必要になってきます。授業中の配布の問題や参考図書の問題集をこなすことにより、「日商簿記検定の3級」程度の力をつけることを想定しています。</p>																																																						
到達目標	日商簿記検定試験3級合格レベル																																																						
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>植田</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>簿記一巡の流れ（簿記Aの総復習）</td> <td>松永</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>演習①（代表的取引の仕訳）</td> <td>松永</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>決算の流れ</td> <td>松永</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>決算整理作業（経過勘定科目）</td> <td>松永</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>決算整理作業（売上原価、資産の評価）</td> <td>松永</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>精算表の作成（仕組みの理解）</td> <td>松永</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>演習②（精算表の作成）</td> <td>松永</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>帳簿の締切と報告書の作成</td> <td>植田</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>演習③（決算書の作成）</td> <td>植田</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>伝票会計</td> <td>植田</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>演習④（帳簿、伝票の演習）</td> <td>植田</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>演習⑤（試験対策）</td> <td>植田</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>後期試験</td> <td>植田</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>後期総まとめ</td> <td>植田</td> </tr> </tbody> </table>							回	テーマ	担当	1	オリエンテーション	植田	2	簿記一巡の流れ（簿記Aの総復習）	松永	3	演習①（代表的取引の仕訳）	松永	4	決算の流れ	松永	5	決算整理作業（経過勘定科目）	松永	6	決算整理作業（売上原価、資産の評価）	松永	7	精算表の作成（仕組みの理解）	松永	8	演習②（精算表の作成）	松永	9	帳簿の締切と報告書の作成	植田	10	演習③（決算書の作成）	植田	11	伝票会計	植田	12	演習④（帳簿、伝票の演習）	植田	13	演習⑤（試験対策）	植田	14	後期試験	植田	15	後期総まとめ	植田
回	テーマ	担当																																																					
1	オリエンテーション	植田																																																					
2	簿記一巡の流れ（簿記Aの総復習）	松永																																																					
3	演習①（代表的取引の仕訳）	松永																																																					
4	決算の流れ	松永																																																					
5	決算整理作業（経過勘定科目）	松永																																																					
6	決算整理作業（売上原価、資産の評価）	松永																																																					
7	精算表の作成（仕組みの理解）	松永																																																					
8	演習②（精算表の作成）	松永																																																					
9	帳簿の締切と報告書の作成	植田																																																					
10	演習③（決算書の作成）	植田																																																					
11	伝票会計	植田																																																					
12	演習④（帳簿、伝票の演習）	植田																																																					
13	演習⑤（試験対策）	植田																																																					
14	後期試験	植田																																																					
15	後期総まとめ	植田																																																					
授業外における学習（準備学習の内容）	簿記検定はなれが必要です。そのためには、日ごろから、課題等を含め、自身での練習が必要です。																																																						
授業方法	<p>テキストとして、知る・わかる・うかる 『はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。</p> <p>授業⇒演習と繰り返して、理解力をアップを図ります。</p> <p>簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。</p> <p>本講座は、簿記に関する基礎知識を習得していることを前提として、授業を行いますので、簿記会計Aの受講者もしくは、高校等で簿記会計に関する授業の経験者のレベルに設定して授業と、演習を繰り返して行います。</p> <p>授業を通じて、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。</p> <p>簿記は自己学習も必要です。このために、テキストと並行した問題集で問題演習を含めていただきます。</p>																																																						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験を加味して評価する。																																																						
教科書	知る・わかる・うかる 『はじめての簿記入門』（セルバ出版）																																																						
参考書	初回時に発表する。																																																						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	簿記・会計B						
担当教員	倉島 進						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	簿記会計Aの内容を踏まえて、日商簿記検定試験に挑戦できるレベルの知識を達成する						
授業の概要	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>この授業では、簿記に慣れしただけでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、日商簿記検定試験3級の合格レベルまで、本講座を通じて目指します。簿記は続けて学習することが必要であり、自己トレーニングも必要になってきます。授業中の配布の問題や参考図書の問題集をこなすことにより、「日商簿記検定の3級」程度の力をつけることを想定しています。</p>						
到達目標	日商簿記検定試験3級合格レベル						
授業計画	<p>回 テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 簿記一巡の流れ（簿記Aの総復習） 3 演習①（代表的取引の仕訳） 4 決算の流れ 5 決算整理作業（経過勘定科目） 6 決算整理作業（売上原価、資産の評価） 7 精算表の作成（仕組みの理解） 8 演習②（精算表の作成） 9 帳簿の締切と報告書の作成 10 演習③（決算書の作成） 11 伝票会計 12 演習④（帳簿、伝票の演習） 13 演習⑤（試験対策） 14 後期試験 15 後期総まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	簿記検定はなれが必要です。そのためには、日ごろから、課題等を含め、自身での練習が必要です。						
授業方法	<p>テキストとして、知る・わかる・うかる 『はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。授業⇒演習と繰り返して、理解力をアップを図ります。簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。</p> <p>本講座は、簿記に関する基礎知識を習得していることを前提として、授業を行いますので、簿記会計Aの受講者もしくは、高校等で簿記会計に関する授業の経験者のレベルに設定して授業と、演習を繰り返して行います。授業を通じて、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。簿記は自己学習も必要です。このために、テキストと並行した問題集で問題演習を含めていただきます。</p>						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験を加味して評価する。						
教科書	知る・わかる・うかる 『はじめての簿記入門』（セルバ出版）						
参考書	初回時に発表する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	今日、ボランティアはわたしたちの社会にとって欠かせない存在となった。本講義では、ボランティアの歴史や現状、そして現場における実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 歴史とボランティア 3. 阪神淡路大震災とボランティア 4. まちづくりとボランティア 5. 障害者福祉とボランティア 6. NPOとボランティア 7. 介護保険とボランティア 8. 認知症ケアとボランティア 9. 宅老所とボランティア 10. 高齢者とボランティア 11. パーソンセンタードケアとボランティア 12. ノーマライゼーションとボランティア 13. マネジメントとボランティア 14. 国際社会とボランティア 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	参考書、関連文献による予習・復習						
授業方法	講義形式による						
評価基準と評価方法	期末レポートによる						
教科書	講義中に指示						
参考書	「恋するようにボランティアを「優しき挑戦者たち」」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社)						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	今日、ボランティアはわたしたちの社会にとって欠かせない存在となった。本講義では、ボランティアの歴史や現状、そして現場における実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 歴史とボランティア 3. 阪神淡路大震災とボランティア 4. まちづくりとボランティア 5. 障害者福祉とボランティア 6. NPOとボランティア 7. 介護保険とボランティア 8. 認知症ケアとボランティア 9. 宅老所とボランティア 10. 高齢者とボランティア 11. パーソンセンタードケアとボランティア 12. ノーマライゼーションとボランティア 13. マネジメントとボランティア 14. 国際社会とボランティア 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	参考書、関連文献による予習・復習						
授業方法	講義形式による						
評価基準と評価方法	期末レポートによる						
教科書	講義中に指示						
参考書	「恋するようにボランティアを「優しき挑戦者たち」」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社)						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ヨーロッパ史						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ローマ皇帝とキリスト教						
授業の概要	ローマ皇帝の対キリスト教政策を検討する。通説ではローマ皇帝はネロからディオクレティアヌスに至るまでキリスト教徒を厳しく迫害したとされる。しかし、近年の研究では、迫害を命じた皇帝はごく少数であり、皇帝による迫害が行われた期間も非常に短かったことが明らかとなっている。では、彼らはいかなるキリスト教政策を採ったのか。ローマ帝国におけるキリスト教迫害とはいかなるものであったのか。ローマ帝国においてキリスト教徒はどのような状況に置かれていたのか。本講義においてはこのような問題を検討する。						
到達目標	ローマ皇帝の対キリスト教政策、ローマ帝国におけるキリスト教徒の状況を知るとともに、通説を検討・批判して新たな歴史像を描いていくという歴史学の営みを学ぶ。						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 ローマの歴史（イタリア半島統一まで） 第3回 ローマの歴史（帝国の成立まで） 第4回 ユダヤ人の歴史（イエスの誕生まで） 第5回 ネロの迫害（ネロの生涯と史料） 第6回 ネロの迫害（タキトゥス、スエトニウスを中心に検討） 第7回 ドミティアヌスの迫害 第8回 小プリニウスとトラヤヌスの勅令 第9回 1～2世紀のローマ帝国におけるキリスト教迫害の実態 第10回 軍人皇帝時代 第11回 デキウス帝とヴァレリアヌス帝の迫害 第12回 ガリエヌスの平和令 第13回 デオクレティアヌス帝の迫害 第14回 コンスタンティヌス帝による公認 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	高校の世界史の教科書を見直しておくこと。講義に出席する前に前回のノートを見直すこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験70%、出席30%						
教科書	とくに定めない。						
参考書	弓削通『ローマ帝国とキリスト教』、1989年、河出書房新社。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	リスクマネジメント論						
担当教員	田邊 文彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	リスクマネジメント思考を身につける						
授業の概要	<p>「備えあれば憂いなし」「君子危うきに近づかず」これらの格言は、リスク（人間の生命・財産を危険にさらす可能性）に対する対処方法を人々に自覚させる。実際、我々の生活や企業・団体の活動の多くはリスクにさらされている。また、そのリスクの種類は多様化し、発生のメカニズムは複雑化し、その影響は大きくなってきている。</p> <p>一方、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の諺のように、大きなリターンは大きなリスクをとることによってしか得られない場合もある。</p> <p>このように、リスクを適切に認知、受容、分析、評価することは現代社会に生きる我々にとって非常に重要なこととなっている。</p> <p>この授業では、リスクマネジメントに関する基礎的な知識を学び、生活の中でリスクマネジメントを身につけることを目指す</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントに関する基礎的知識を身につける ・リスクマネジメントの前提となるリスクの知覚・認知の技術を身につける ・リスクマネジメントを具体的に適用する能力を身につける 						
授業計画	<p>最初は基礎的な内容を説明し、身近な題材をもとにリスクマネジメント思考を学び、徐々に高度な知識、複雑な事象のリスクマネジメントを行える能力を身につけることができるように進めていく。</p> <p>1回 ガイダンス／リスクマネジメントの概要／様々な失敗例を挙げよう 2回 身近な生活における個人的リスクマネジメントー講義&個人ワーク> 3回 行動主体が1人：入社試験のリスクマネジメント 4回 行動主体が2人：初デートのリスクマネジメント 5回 行動主体が多い：グループ旅行のリスクマネジメント 6回 大学祭／サークル活動／学生企画イベントのリスクマネジメント 7回 リスクの洗い出し／リスクの開示／リスクのコントロール 8回 イベント内容の設定／リスクの洗い出し・開示と評価 9回 イベントスケジュールと発生リスクの評価 10回 対応策の検討 11回 リスクマネジメント体制の検討 12回 企業におけるリスクマネジメント 13回 事業のリスクマネジメント&社員としてのリスクマネジメント 14回 リスク対応方策のいろいろ 15回 職種別リスクマネジメントー講義&事例研究 16回 リスクマネジメント・ケーススタディ (1) 17回 リスクマネジメント・ケーススタディ (2) 18回 リスクマネジメント・ケーススタディ (3) ※ケーススタディは、生活面や仕事の面からテーマを選択して実習（グループワークを想定） 19回 復習とまとめ ※ただし、進捗状況によって変更する場合がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業の冒頭に、新聞やテレビニュースの中で、リスクマネジメントに関連した記事について1分間コメントを発表する時間を持つ。このため、1週間の間に関心のある記事を読み、プリントに貼ってくること。</p> <p>万が一授業に欠席した場合は、自宅で当該部分のレジュメをやっておくこと。</p>						
授業方法	講義形式を基本としつつ、演習形式（発表）や実習形式（グループワーク）の内容を取り入れる。						
評価基準と評価方法	<p>授業での理解（原則として授業毎に課す課題シートを5点で評価 5×10回＝50点） 提出物（リスクマネジメント・レポート 25点×2回）</p>						
教科書	授業中にレジュメを配布						
参考書	<p>概念や言葉の理解には、奈良由美子「生活者リスクマネジメント」 2011年 放送大学教科書が薦められる。IS BN978-4-595-13956-7 その他、必要に応じて授業中に参考文献を紹介</p>						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	臨床心理学A／臨床心理学I						
担当教員	中村 博文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学とは何か						
授業の概要	本講義では、様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに、具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。						
到達目標	臨床心理学の大まかな全体像を、把握することができる。						
授業計画	#01：オリエンテーション－臨床心理学とは何か #02：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 #03：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 #04：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 #05：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 #06：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 #07：臨床心理学の対象②：人格障害 #08：臨床心理学の対象③：発達障害 #09：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 #10：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 #11：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 #12：臨床心理学的アセスメント #13：臨床心理行為と倫理 #14：まとめ、試験 #15：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業各回のテーマについて、配布資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めることを求める。						
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%）、および期末試験（86%）により評価する。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	臨床心理学B／臨床心理学II						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。						
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から、年齢段階ごとの発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について解説する。						
到達目標	臨床心理学が対象とするさまざまな心理的問題について理解できるようになる。						
授業計画	第1回：ライフサイクルにおける発達課題 第2回：乳幼児期の心理的問題と対応 第3回：幼児期の心理的問題と対応 第4回：児童期の心理的問題と対応 第5回：思春期の心理的問題と対応 第6回：青年期の心理的問題と対応 (1) 第7回：青年期の心理的問題と対応 (2) 第8回：青年期の心理的問題と対応 (3) 第9回：青年期の心理的問題と対応 (4) 第10回：成人期の心理的問題と対応 第11回：中年期の心理的問題と対応 第12回：老年期の心理的問題と対応 第13回：グループ発表と討議 (1) 第14回：グループ発表と討議 (2) 第15回：質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げるテーマは限られているので、それを補完するために小グループでの発表を予定している。各自が興味のあるテーマについて調べ、レジュメにまとめること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（60％）や授業中に出す課題の提出（20％）、平常点（20％）などを総合的に評価する。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	倫理学入門						
担当教員	濱崎 雅孝						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	しあわせな人間関係のための倫理学入門						
授業の概要	生きていく上で避けられないのが人間関係。私たちは毎日、様々な人間に囲まれて生きています。そこでは楽しいことばかりが続くわけではありません。親と喧嘩したり、友人関係でトラブルになったり、失恋して絶望することもあるでしょう。でも、そういうマイナスと思える出来事は、どれも私たちの精神的な成長にプラスとなるものです。この授業では、人間関係における様々な問題を取り上げ、そこから何をどのように学んでいくかを一緒に考えていきます。						
到達目標	日常生活における様々な人間関係の問題に対して、倫理的に正しく対処する方法を修得する。						
授業計画	第1回 自分について考えてみよう 第2回 他人について考えてみよう 第3回 人生で一番大切なことって何だろう？ 第4回 尊敬できる人に出会っていますか？ 第5回 友だちはライバル？ 第6回 心の傷はいつ癒されるのか？ 第7回 男と女は分かり合えない？ 第8回 プライドの高い人は好きですか？ 第9回 運命って信じる？神様っているのかな？ 第10回 すぐに「死にたい」と言う人がいます 第11回 日本女性は「かわいい」らしい 第12回 ナルシストは嫌いですか？ 第13回 大人になるって、どういうこと？ 第14回 死ぬときに後悔するかもしれないこと 第15回 みんなに愛される生き方						
授業外における学習（準備学習の内容）	特にありません。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート50%、期末試験50%						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	講義の中で紹介します。						